



シスメックスレポート 2017



シスメックス株式会社

## シスメックス レポート 2017

2016年4月1日～ 2017年3月31日

### シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073  
Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524  
[www.sysmex.co.jp](http://www.sysmex.co.jp)



## 世界中の人々の健康と 医療への貢献を目指して

シスメックスは、創業当時から取り組んできた  
検体検査領域を事業の核としながら、  
ヘルスケアの進化に挑戦し、  
豊かな健康社会づくりを目指しています。  
より迅速で、正確な診断へ、  
より身近で、負担の少ない検査へ、  
そして、いままでにない医療の実現に向けて。  
時代の先を見据え、既存の枠を越え、  
ヘルスケア領域での進化に挑戦していきます。



# 目次

## プロフィール

グループ企業理念「Sysmex Way」のもと、豊かな健康社会の実現に向けて取り組んでいます。



グループ企業理念.....	5
持続的成長の軌跡.....	7
事業領域と市場ポジショニング...	9
<b>価値創造のストーリー.....</b>	<b>11</b>

## ステークホルダーの皆様へ

コアビジネスの収益力強化とネクストコアビジネスへの投資により持続的な成長を目指します。



CEOメッセージ.....	13
財務に対する考え方.....	17
財務ハイライト.....	19
<b>成長戦略.....</b>	<b>21</b>
外部環境.....	21
内部環境.....	22
長期経営目標.....	23
新中期経営計画.....	24
① さらなる成長へ向けた収益力の強化(コアビジネス).....	25
② 事業ポートフォリオの変革に向けた成長への投資.....	27



③ 成長をリードする変革の推進.....	30
----------------------	----

## 事業活動

多様な市場ニーズにお応えして、価値を生み出し提供する仕組みを構築しています。



価値を生み出す仕組み.....	31
機能.....	33
研究開発.....	33
調達・生産・物流.....	35
販売・サービス&サポート.....	37
所在地別事業概要.....	39
米州.....	41
EMEA(欧州・中東・アフリカ).....	43
中国.....	45
アジア・パシフィック.....	47
日本.....	49
主な検査分野と製品.....	51
ユーザーレポート.....	53

## 企業価値向上に向けて

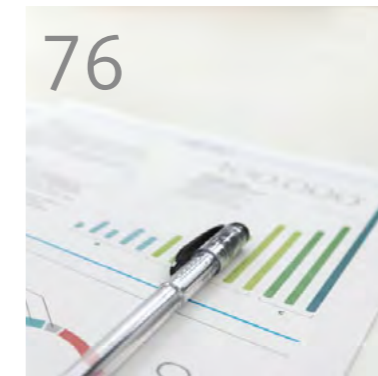
グループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて社会に貢献し、持続的に企業価値の向上に取り組んでいます。



<b>CSRマネジメント.....</b>	<b>57</b>
製品・サービスを通じた医療課題解決.....	59
責任ある製品・サービスの提供.....	61
環境への配慮.....	62
魅力ある職場の実現.....	63
コーポレート・ガバナンス.....	65
取締役.....	71
社外取締役メッセージ.....	73
執行役員.....	75



## 財務情報等



連結財務・非財務データ(10期)...	77
経営成績および財務分析.....	79
連結財務諸表.....	83
株式情報.....	89
会社情報.....	90

### 編集方針

「シスメックスレポート」は、ステークホルダーの皆様がシスメックスの中長期的な価値創造についてご理解いただきたいという思いから、財務・非財務情報を簡潔にまとめた「統合報告書」として作成されています。より詳細な情報につきましては当社Webサイトをご参照ください。

### 対象組織

原則としてシスメックスグループ（国内・海外グループ会社を含む）を対象としています。本レポート中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」はシスメックス株式会社単体を指します。

### 会計基準

当グループは、2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。本レポートにおける財務数値は、2015年3月期以前は日本基準に、2016年3月期以降はIFRSに準拠して表示しています。

### 見直しに関する注意事項

本レポートに記載されているシスメックスの将来の計画・戦略・業績などは、現在入手可能な情報にもとづくものであり、リスクや不確定な要素を含んでいます。実際の業績などは、これらの見直しとは大きく異なる可能性があります。

## プロフィール

### グループ企業理念

## 人々の健康を支えたいという 創業以来の想いを継承

より健康な社会の実現への想い。新しい技術や製品開発に挑戦するという企業文化。そして、シスメックスと関わる全ての人に「安心」を提供するという価値観は、創業当時から受け継がれてきたものです。

### 1959年

シスメックスの創業者中谷太郎は、新しい事業のヒントを求め1959年に渡米し、医用電子機器分野に着目。



海外視察へと旅立つ  
創業者

### 1963年

帰国後、中谷は若い研究者と調査・開発を開始。1963年国産初の血球計数装置「CC-1001」の実用化に成功。



自動血球計数装置  
「CC-1001」

### 1968年

東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)を創業。

創業者中谷太郎により制定

<p><b>わが社経営の基本的な考え方</b></p> <p>企業目的 われわれは、われわれが生み出す製品を販売することによって、社会一般の需要を満たし、社会に貢献するとともに、われわれ自身の生活を豊かにする。</p>	<p><b>経営基本方針(三つの安心)</b></p> <p>「需要者が安心して使用できる製品をつくる」 「取引先が安心して取引できるようにする」 「従業員が安心して働けるようにする」</p> <p>東亜医用電子株式会社</p>
---	--

### 2007年

グローバルな経営環境の変化を踏まえ、創業当時から考えを再定義し、発展させたグループ企業理念 **Sysmex Way** を制定。

## Sysmex Way

### Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

### Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、人々への安心を追求し続けます。

### Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

### 行動基準

#### お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

#### 従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

#### 取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

#### 株主様に対して

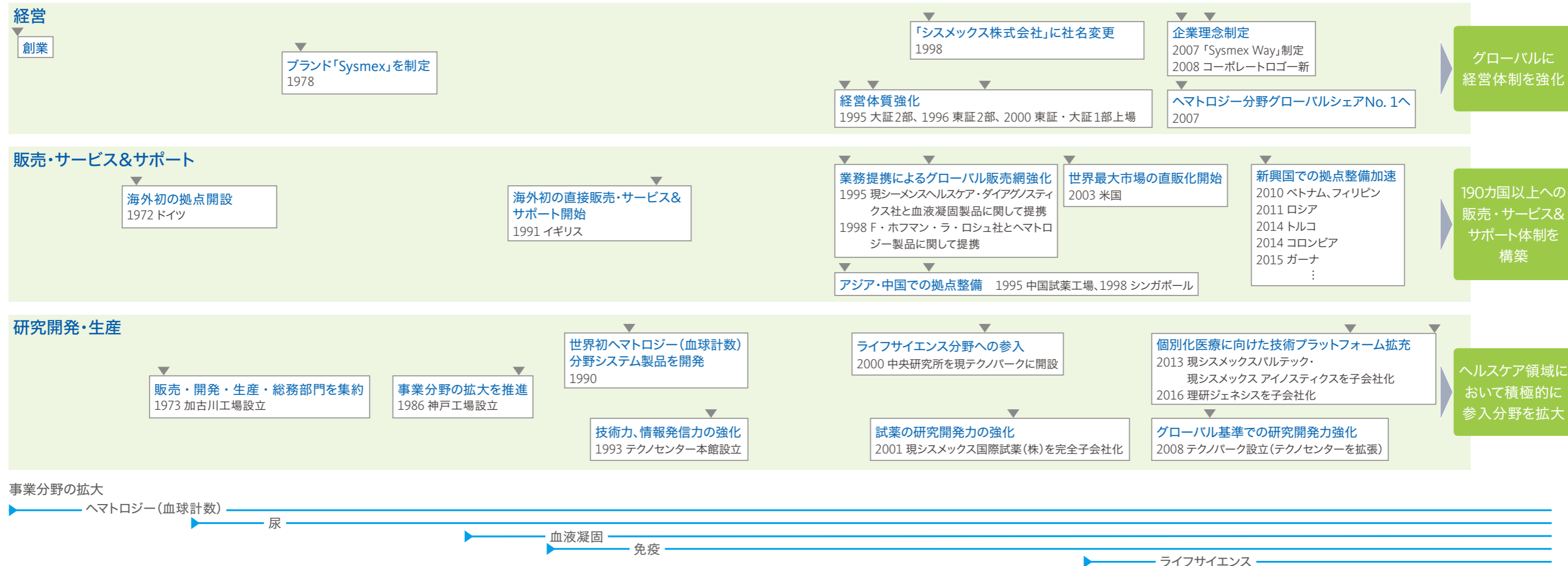
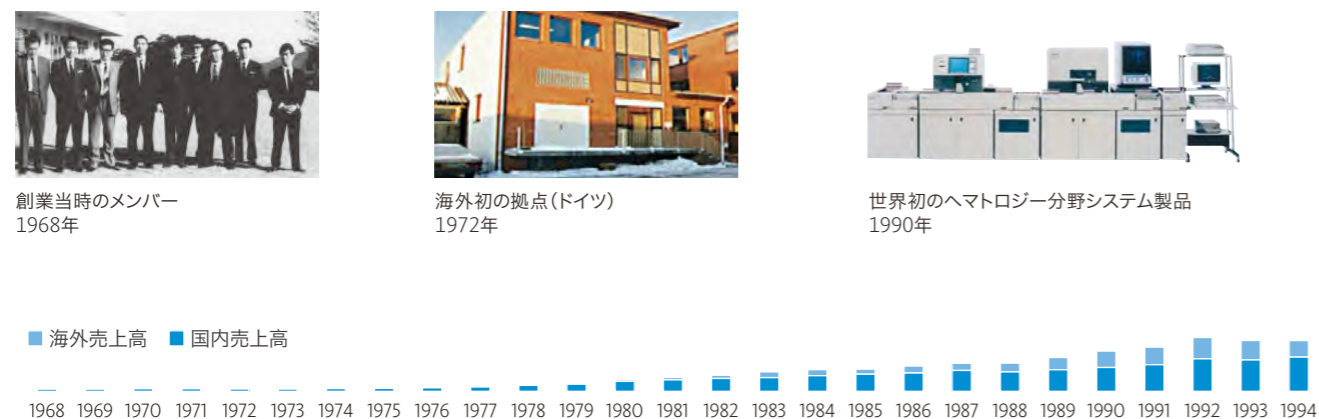
経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

#### 社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

# 持続的成長の軌跡

創業以来、時代のニーズを先読みし、ヘルスケア領域において挑戦を続けています。



## Sysmex Way

グループ企業理念制定 2007年



ライフサイエンス分野への参入 中央研究所(当時)開設 2000年

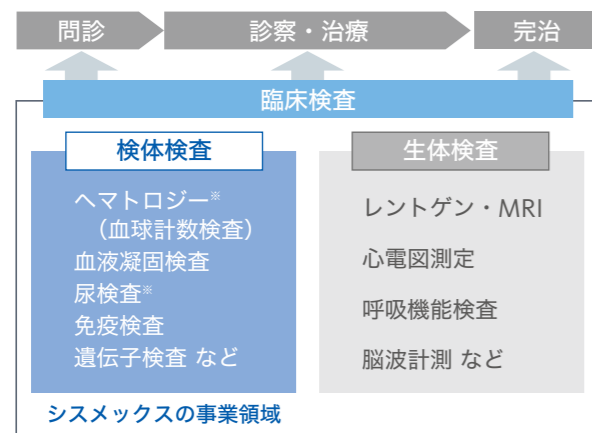


## 事業領域と市場ポジショニング

# 市場が拡大する「検体検査」領域において 独自の強みを活かし、成長を続けています。

### 医療に不可欠な検体検査領域で活躍

臨床検査は、診断や治療などさまざまな場面で使用されており、医療には不可欠です。臨床検査は、体内から採取した血液や尿、細胞などを調べる検体検査と、レントゲンや心電図など体を直接調べる生体検査の2種類に分けられます。シスメックスは検体検査領域を中心に事業を展開しています。近年の遺伝子解析や技術の進展にともない、リスク診断や治療効果のモニタ



リングなど患者さん一人ひとりの個性に合わせた個別化医療が実現し始めており、医療における検体検査の役割は、ますます拡大しています。

### 市場におけるポジション

シスメックスは検体検査領域で機器、試薬およびソフトウェアをグローバルに提供しており、検体検査領域における世界トップ10企業のひとつです。ヘマトロジー、血液凝固、尿（沈渣）の3分野ではグローバルシェアNo. 1（アライアンス含む）を獲得しており、アジアではこの3分野に加えて免疫分野にも展開することで、検体検査領域のリーディングカンパニーとしての地位確立を目指しています。

今後、検体検査領域は先進国での医療ニーズ拡大や新興国における医療インフラ整備などにより、さらなる成長が予測されます。一方、異業種からの参入もありグローバルな競争の激化も予想されます。このような環境変化に対し、シスメックスは独自の強みを活かしながら企業価値の最大化に向けて取り組み、市場での地位を着実に向上させていきます。

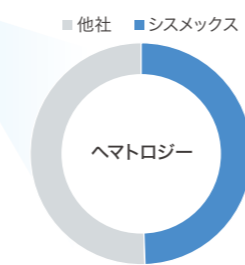
### 市場規模とシスメックスの事業領域

検査分野	市場規模 (百万ドル)	市場 成長率	売上構成比 (2017年3月期)	生産		販売・ サービスエリア	主な アライアンス
				機器	試薬		
ヘマトロジー (血球計数)	3,100	6%	63.8%	●	●	グローバル	F・ホフマン・ ラ・ロシュ社
血液凝固	1,800	5%	16.4%	●	○	グローバル	シーメンスヘルスケア・ ダイアグノスティクス社
尿 うち尿沈渣	1,000 320	6%	6.4%	●	●	グローバル	栄研化学株式会社
免疫	18,000	6%	3.2%	●	●	アジア	—
生化学	7,400	5%	1.4%	○	●	アジア	日本電子株式会社 古野電気株式会社
その他 (遺伝子、血糖など)	21,700	—	8.8%	●	●	—	—
検体検査市場	53,000	6%	—	—	—	—	—

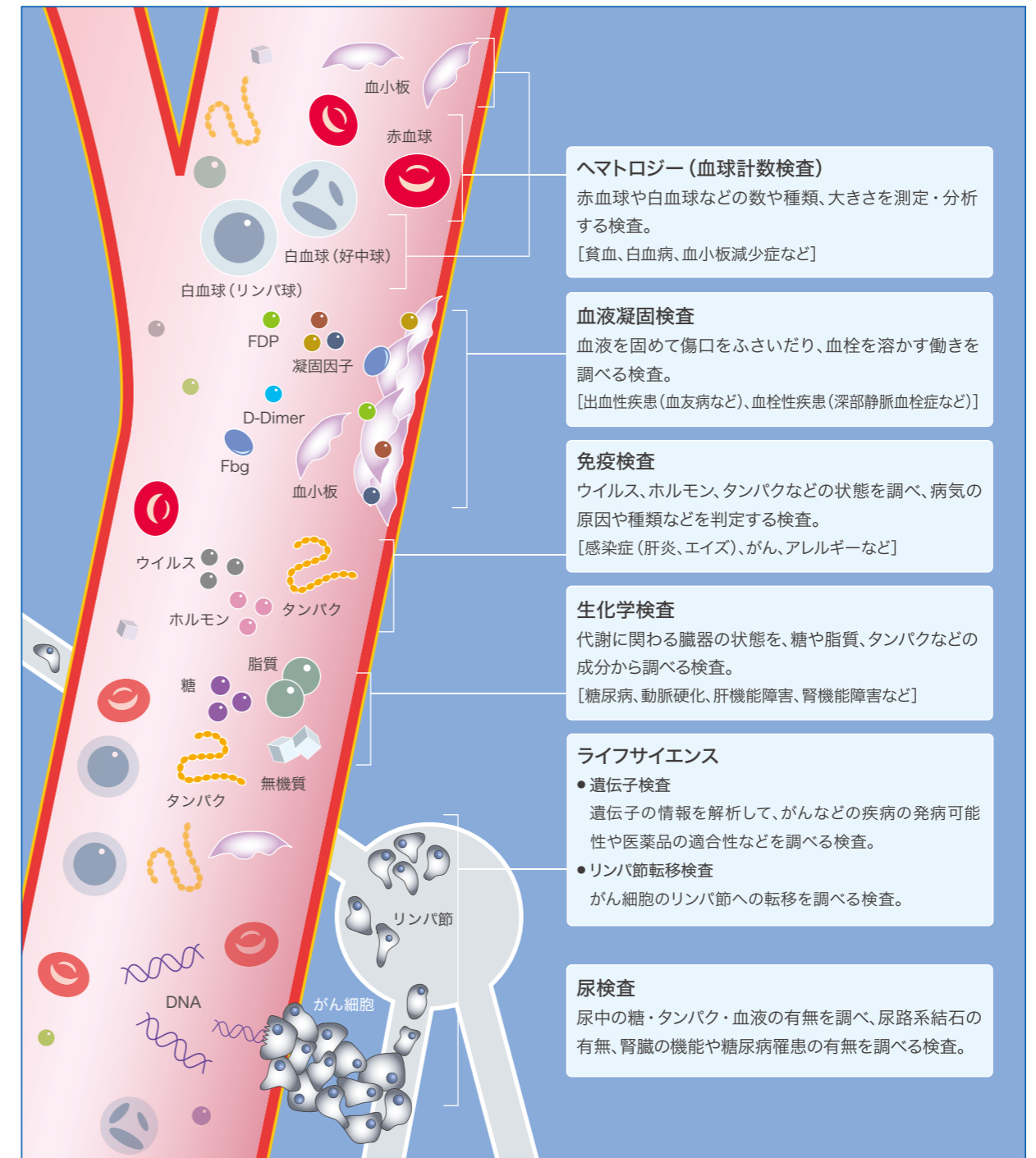
(注) 当社推定

● 自社製品 ○ アライアンス

### ヘマトロジー市場シェア



### シスメックスの主要検査分野

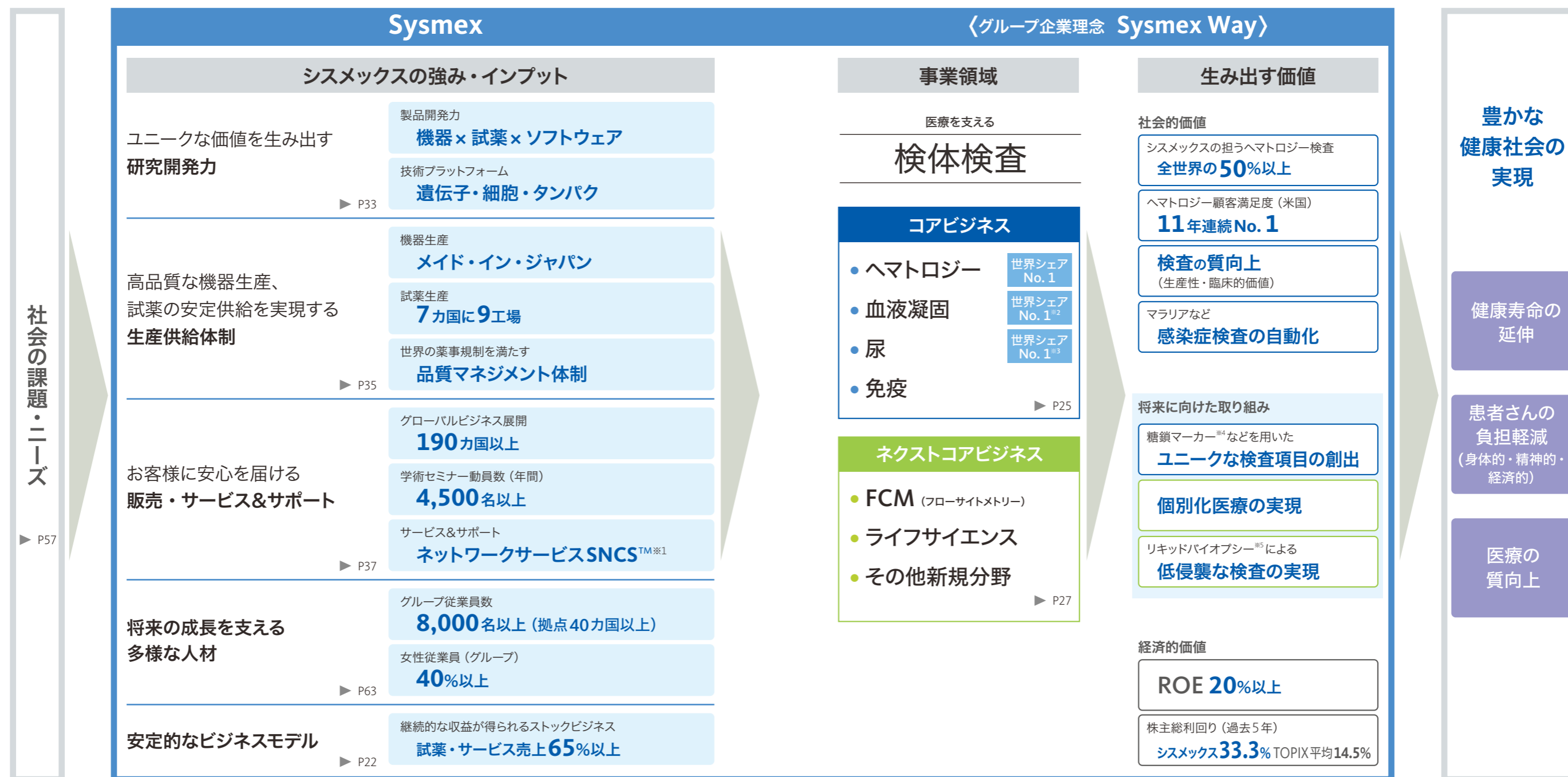


## 価値創造のストーリー

ヘルスケア領域において、強みを活かして新たな価値を創出し、豊かな健康社会の実現に貢献します。

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のもと、独自の強み・インプットを活用して、医療を支える検体検査の領域で事業を展開しています。世界190カ国以上に検査をお届けするとともに、個別化医療の

実現など将来に向けた取り組みを進め、健康寿命の延伸や患者さんの負担軽減、医療の質向上など、豊かな健康社会の実現に向けて価値を生み出していきます。



※1 SNCS (Sysmex Network Communication Systems) : お客様の分析装置と、シスメックスのカスタマーサポートセンターをインターネットでオンライン化することにより、リアルタイムの外部精度管理・装置状態の自動監視や、Web による情報提供を行うサービス  
 ※2 シーメンス社とのアライアンスを含む

※3 尿沈渣分野  
 ※4 糖鎖マーカー : 糖タンパク質に存在する糖鎖の構造をターゲットにしたバイオマーカー  
 ※5 リキッドバイオプシー : 腫瘍など組織の一部を採取して行っていた生体検査(バイオプシー)と同等の性能でかつ患者さんに負担の少ない検査を血液・体液検査で実現しようとするもの

## ステークホルダーの皆様へ



代表取締役会長兼社長  
家次 恒

コアビジネスの収益力強化と  
ネクストコアビジネスへの投資により  
持続的な成長を目指します。

### CEOメッセージ

シスメックスのミッションは  
「ヘルスケアの進化をデザインする。」

シスメックスはグループ企業理念「Sysmex Way」において、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をミッションに掲げ、事業を展開しています。創業以来取り組んできた検体検査領域を事業の核として、今後もヘルスケアの進化に挑戦し、豊かな健康社会づくりに貢献していきます。

#### 持続的な成長に向け新たにチャレンジ

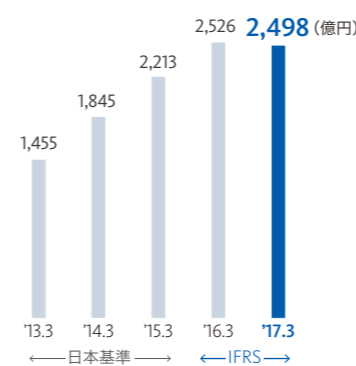
2017年3月期は、16期連続増収と15期連続の増益が途切れる結果となりましたが、最も大きな要因は為替の影響でした。シスメックスの海外売上高比率は8割を超えており、為替の影響は過去に比べると格段に大きくなっています。現地通貨ベースでは全所在地で増収を達成しており、事業自体が悪化したという状況ではありませんが、それでも連続的な増収増益が途切れたことは非常に残念な結果でした。

この業績結果を受けグループ内に危機感が生じ、順風満帆が当たり前だという意識に変化をもたらしています。順調に成長を続けるということが、いかに大変なことであるか、さらに変化が生じたときに全従業員がそれを受け止めて、どう成長軌道に戻していくかを意識し、新たにチャレンジしていくことが重要だと思えます。

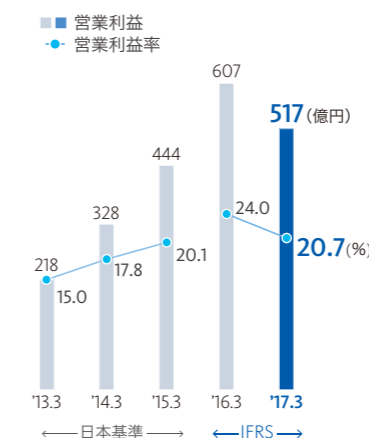
2017年3月期の総括：収益力向上を背景に  
中長期的成長に向けた投資を実施

2017年3月期を振り返りますと、まずヘマトロジー、血液凝固などの分野において着実に収益力を高めることができました。ヘマトロジー分野では先進国、特に

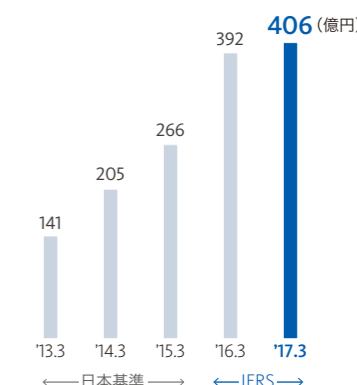
■ 売上高



■ 営業利益 / 営業利益率



■ 親会社の所有者に帰属する当期利益





米国における西海岸地域の攻略や大手検査センター案件の獲得に加え、コンパクトモデルのXN-Lシリーズ販売開始による新興国における成長など、リーディングカンパニーとしての地位を強化しました。また、中期成長ドライバーとして投資している免疫分野についても日本、中国、アジアにおいて機器稼働台数が増加するなど、成長への基盤を構築しました。

課題としては、尿検査分野の新製品の市場導入が計画に対して遅れたことが挙げられます。また、近年、各国における製品の薬事規制強化により、認可に想定以上に時間がかかる場合があります。スムーズな認可取得に向けた体制を強化することにより、新製品の市場導入のスピード向上に取り組んでいます。

収益性については、利益率を高めることだけを目的にするのではなく、バランスが重要だと考えています。営業利益率20%を確保したうえで、将来に向けた積極的な投資を行っています。投資の中身についても研究開発や生産、販売・サービス&サポート体制の整備に加え、多様な人材の獲得および育成、従業員の働きやすさ向上など、企業の経営品質を高めるために、バランスを考慮しながら実行しています。

### ヘルスケアを取り巻く外部環境

シスメックスを取り巻く事業環境はダイナミックに変化しています。マクロ環境としては高齢化社会の進展や新興国・開発途上国での人口増加、感染症の流行など、技術的な側面ではビッグデータ活用やAI、ロボット技術の進化などが挙げられます。これらの環境変化はヘルスケア市場におけるニーズにも影響をもたらしています。先進国では技術革新を背景とした個別化医療など先進医療の進展、高齢化社会を背景とした健康寿命延伸への期待に加え、医療費抑制の必要性などがさらに高まっています。一方、新興国や開発途上国では経済の発展にともない、医療インフラの整備が求められています。

### 独自の技術により 医療課題の解決を目指す

このような環境の中で、シスメックスは新しい技術を創出し、アンメット・メディカル・ニーズ（未だ満たされていない医療ニーズ）にチャレンジすることで、世界中の人々の健康に貢献するための活動を行っています。

例えば、血液検査により遺伝子の変異などを簡便に調べ、一人ひとりに合った診断や治療を行う個別化医療の実現に向けた取り組みを強化しています。また、アルツハイマー型認知症はまだ特効薬はなく、高齢化が進むにつれてさらに深刻な社会問題となることが予想されています。しかし、早期発見と適切なケアにより発症を遅らせたり改善が見込めることもあります。そこでシスメックスは、その兆候を血液検査により検出する技術開発にも取り組んでいます。このように医療において検査の果たす役割は大きく、取り組むテーマはまだたくさんあります。

さらに、創出した新たな価値をどう広めていくかも非常に大切です。シスメックスはグローバルに展開しており、特定の地域だけではなく世界中に製品をお届けできる体制を構築しています。一方で、いかにコストを下げるかも重要です。コストを下げることにより、より多くの人に価値を提供できるような工夫もヘルスケアの進化をデザインすることだと考えています。

### コアビジネスの収益力を強化するとともに ネクストコアビジネスへ投資し成長を遂げる

この度策定した2020年3月期を最終年度とする新中期経営計画では、ヘマトロジー、尿、凝固、免疫分野をコアビジネスと位置づけ、これらの分野の成長により、売上と収益力の強化を図ります。これらコアビジネスはシスメックスの強みが存分に活かせる分野で、市場も拡大していることから、まだまだ成長の余地があると認識しています。特に新興国や開発途上国では人口増加



やインフラ整備にともなうニーズが高まっており、さらなる成長が期待できます。

このコアビジネスにより創出した利益は次の成長エンジンであるネクストコアビジネスへ投資していきます。FCM(フローサイトメトリー)やライフサイエンス、その他の新規事業分野における事業化を加速することにより、持続的な成長を実現するための事業ポートフォリオの変革を目指します。

さらに、このような成長を支えるため、バイオ診断薬開発拠点の設立など「ものづくり」の強化や、IT基盤の強化による業務プロセスの最適化に加え、次世代のリーダー人材や高度専門人材の獲得・育成、ダイバーシティの推進などにより変革を推進していきます。

### 最大の株主還元は健全な成長を 継続すること

現在、シスメックスを取り巻く環境は急速に大きく変化しています。私は常々、経営とは環境適合であると考えています。企業は環境に適合し、新しい価値を生み出し続けることで継続して成長していくことができます。それが結果として、株主の皆様の期待に応えることにつながっていると思います。

まず、持続的な成長により、安定配当を継続することが株主還元の基本であると認識しています。シスメックスは、これまで15期連続で増配を続けてきましたが、株主の皆様に対する利益還元との適切なバランスを確保し、今後も配当性向30%を目処に配当を行っています。

さらに、シスメックスの現状や将来の方向性を明確に開示し、市場に正しく評価いただくことも重要です。IR活動を通じて株主や投資家の皆様と対話（エンゲージメント）するとともに、コーポレート・ガバナンスを強化し透明性の高い経営を行うことにより、ステークホルダーの皆様との信頼関係を醸成していきたいと考えています。

2017年9月

代表取締役会長兼社長

冨次恒

## 財務に対する考え方

### 積極的な投資を行うとともに、 適正な株主還元を行います。

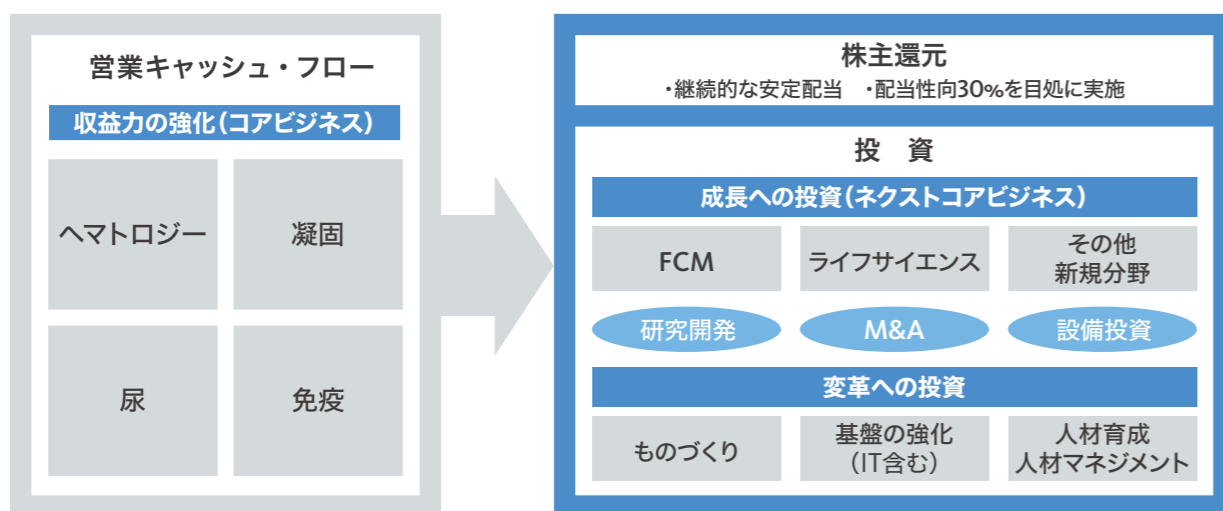
#### 資金の創出と使途

ヘマトロジー、血液凝固、尿、免疫分野をコアビジネスと位置づけて収益力をさらに強化し、営業キャッシュ・フローを拡大していきます。

創出した資金から、コアビジネスに加え、ネクストコアビジネスの今後の成長への投資および研究開発、M&A、

設備投資を積極的に行っていきます。また、将来へ向けた変革への投資として、ものづくり、ITを含む基盤の強化、人材育成・人材マネジメントにも注力しています。

なお、株主還元については、継続的な安定配当に留意し、ROEの向上を目指します。

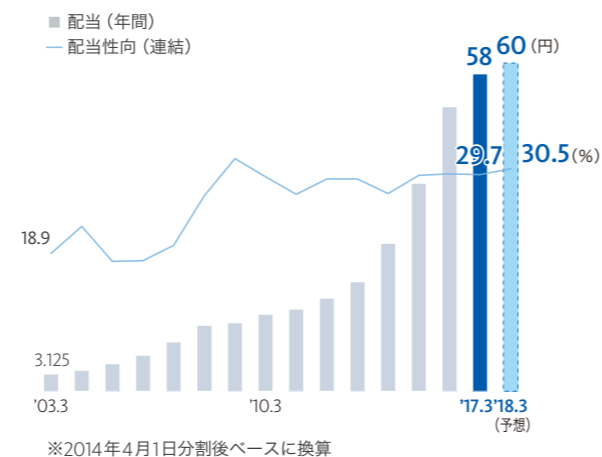


#### 株主還元

安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上にともなう株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しています。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

- 継続的な安定配当に留意
- 配当性向30%を目処に実施
- 15年連続で増配

#### 配当額と配当性向の推移

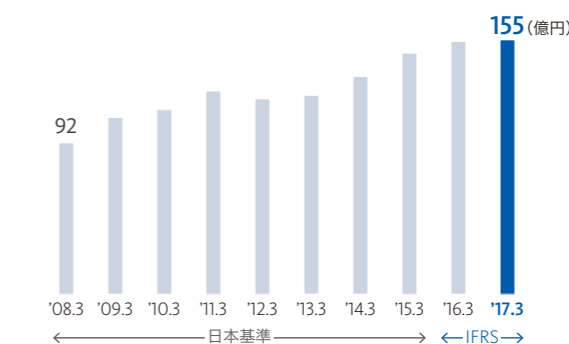


#### 企業価値向上に向けた積極的な投資

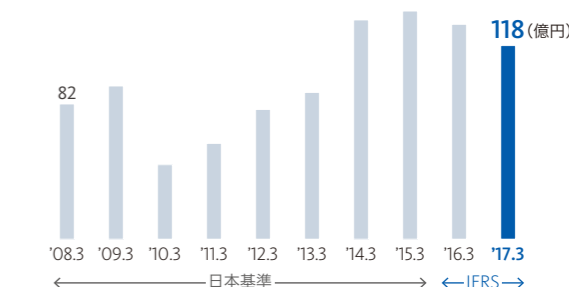
シスメックスはさらなる成長に向け、FCMやライフサイエンス、その他新規分野など今後の成長を加速させるための投資を行っています。また、価値の高い新しい検査や診断技術の創出に向けた研究開発、技術プラットフォーム拡充を目的としたM&A、グローバルな供給責任を果たすための生産工場拡張などの設備投資を行っています。その結果、過去10年間の研究開発費および設備投資の金額は増加傾向にあります。2020年3月期を最終年度とする中期経営計画の中では、バイオ診断薬拠点の建設(神戸)を予定しています。

- FCM、ライフサイエンス、その他新規分野など今後の成長を加速させるための研究開発
- グローバルな供給責任を果たすための生産工場拡張などの設備投資
- 技術プラットフォーム拡充などを目的としたM&A

#### 研究開発費



#### 設備投資(有形)

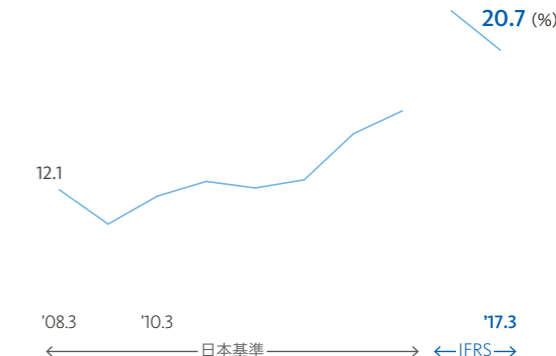


#### ROE

2017年3月期にROEは20.7%となりました。今後も健全な財務バランスを維持しながら、ROEの向上を目指していきます。

- 適正な株主還元を継続
- 健全な財務基盤を維持
- 利益の増加

#### ROEの推移

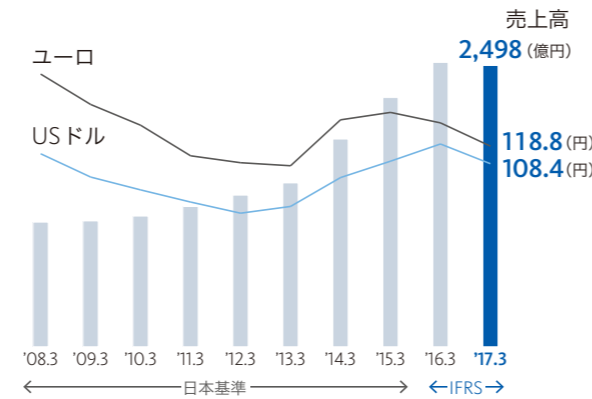


## 財務ハイライト

### 売上高

**2,498**億円  
(前期比1.1%減)

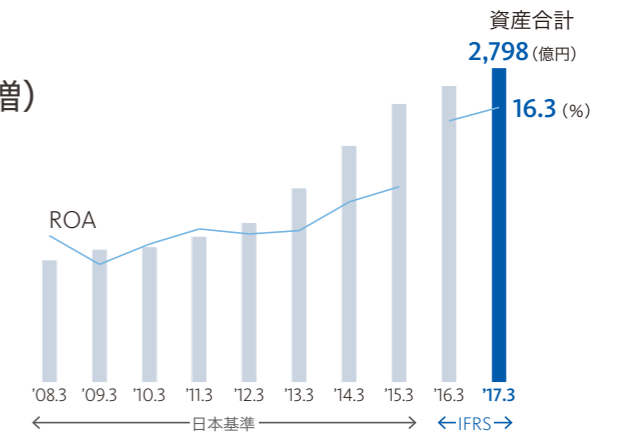
現地通貨ベースでは全所在地で増収となるも、円高の影響などにより減収となりました。  
(注)売上高に対する為替の影響：△264億円



### 資産合計・資産合計当期利益率(ROA)

**2,798**億円 **16.3%**  
(前期比6.0%増) (前期比0.8ポイント増)

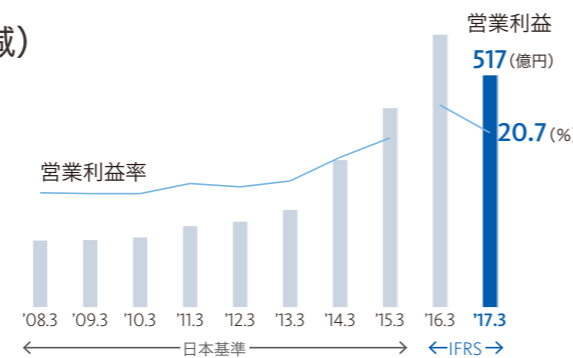
営業債権及びその他の債権および無形資産の増加にともない資産合計は増加しました。  
(2015年3月期までは総資産・総資産当期純利益率)



### 営業利益・営業利益率

**517**億円 **20.7%**  
(前期比14.9%減) (前期比3.3ポイント減)

円高の影響および原価率悪化などにより減益となりました。  
(注)営業利益に対する為替の影響：△111億円

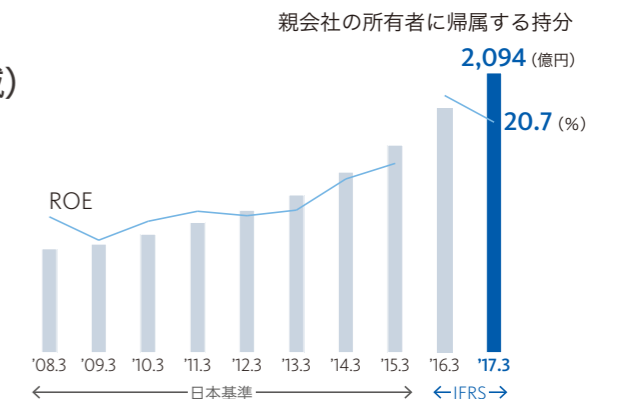


### 親会社の所有者に帰属する持分

### 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)

**2,094**億円 **20.7%**  
(前期比14.6%増) (前期比2.4ポイント減)

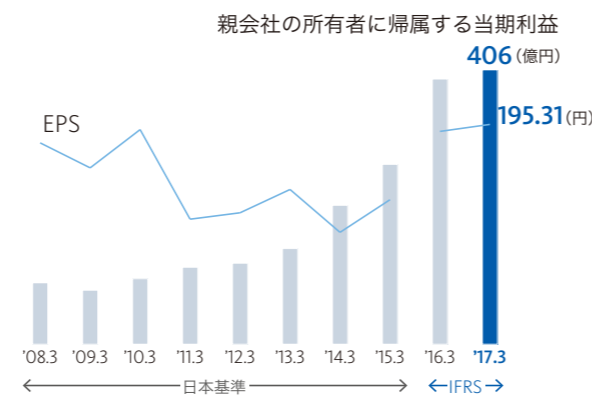
増益であったものの、親会社の所有者に帰属する持分の増加にともないROEは減少しました。  
(2015年3月期までは株主資本・自己資本利益率)



### 親会社の所有者に帰属する当期利益 基本的1株当たり当期利益(EPS)

**406**億円 **195.31**円  
(前期比3.5%増) (前期比3.3%増)

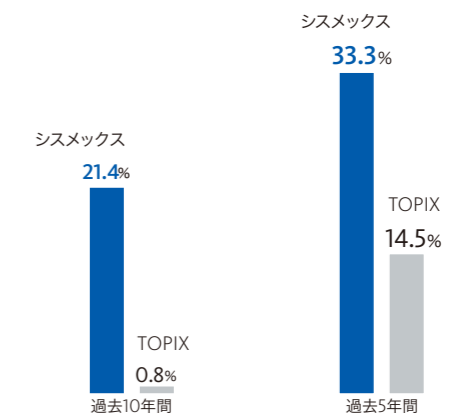
日独租税協定の改正にともない繰延税金負債を取崩し、法人所得税費用が減少したことなどにより、増益となりました。  
(2015年3月期までは当期純利益)



### 株主総利回り(年率換算)(TSR)

**21.4%** **33.3%**  
(過去10年) (過去5年)

増配ならびに株価の上昇により株主総利回り(過去5年)はTOPIXを18.8ポイント上回りました。



## 成長戦略

# さらなる成長を通じて 豊かな健康社会の実現に貢献していきます。

### 外部環境: 拡大するヘルスケア市場

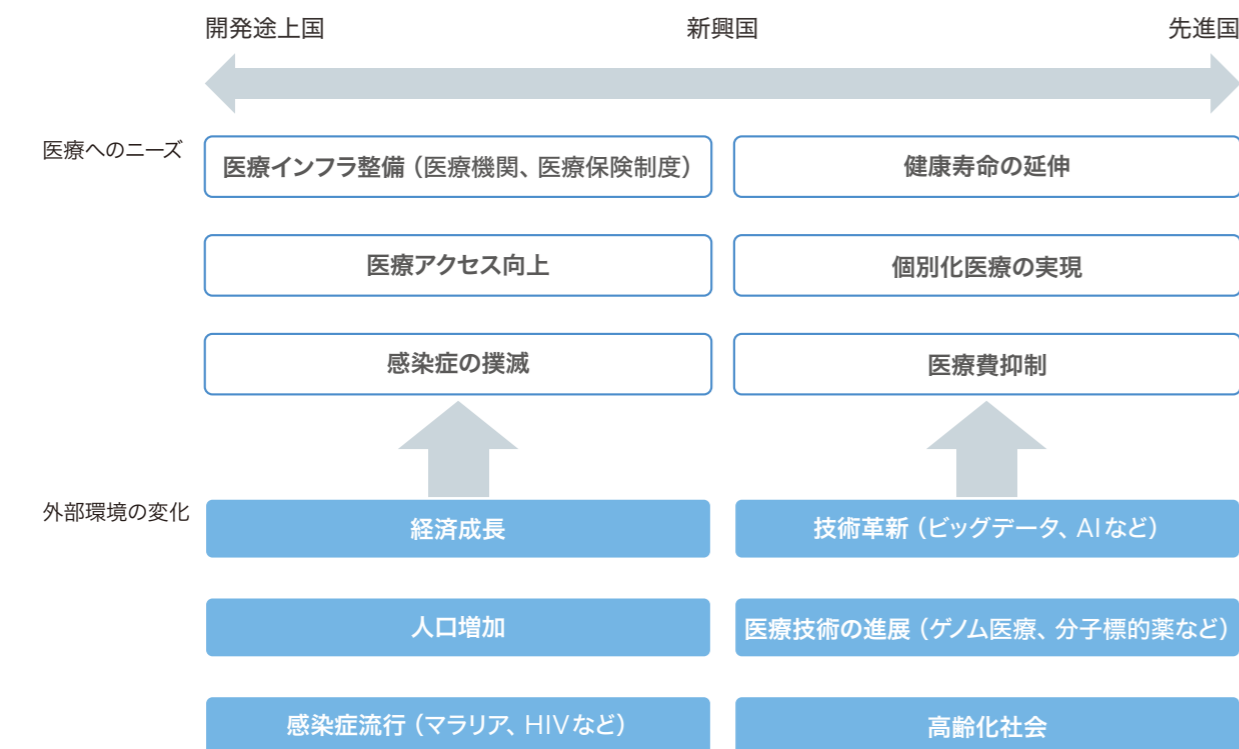
先進国では技術革新や医療技術の進展により、医療へのニーズが大きく変わり始めています。

例えば、個別化医療では、患者さん一人ひとりの特性に合わせた有効な治療法を選択することが可能になりつつあります。個別化医療が実現・普及すれば、患者さんの治療の質向上だけでなく、不必要な薬剤投与が避けられ医療費抑制も実現できます。個別化医療では、個々の患者さんの特性を調べるために検査が必要であり、検査が医療において果たす役割はますます拡大しています。

一方、新興国、開発途上国では経済成長にともなう医療インフラへの投資が続き、市場が拡大しています。各国で医療保険制度の整備や病院でのインフラ整備が進むなど、基礎的医療の拡充が求められています。また、人口の増加が続いており、今後も市場拡大が期待されます。

疾患別の視点では、感染症の対策が国際的課題となっており、マラリア検査などへの需要が高まっています。

#### 医療へのニーズの変化



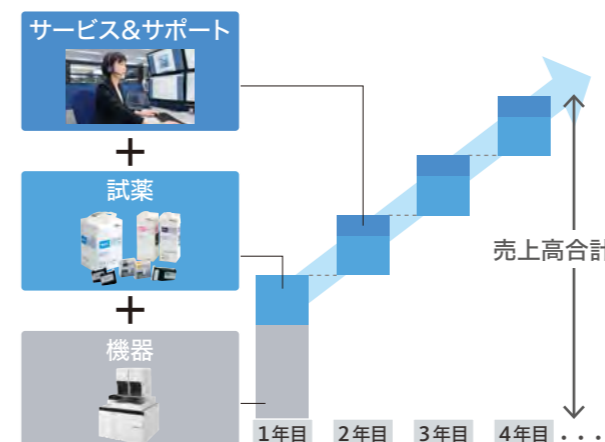
### 内部環境: 成長を可能にする特長と強み

シスメックスには、持続的成長を支えるユニークな特長と強みがあります。これらの強みを活かして、中長

期的な成長を実現するための施策を展開しています。

#### 安定的な収益が得られるビジネスモデル

医療に対する需要は景気に左右されにくいという特徴があります。さらに、検体検査ではお客様が検査をするたびに試薬が必要となり、機器を安心してお使いいただくためにはサービス&サポートも必要です。機器を購入いただいた後、継続した試薬やサービス&サポートの提供に結びつくため、安定的な収益が見込まれます。



#### 高い競争力

シスメックスはヘマトロジー、凝固、尿 (沈渣) 分野において、グローバルで業界トップシェアを獲得しています。新興国を中心に検体検査の需要が増しており、いずれの分野も今後の高い成長が期待できます。

検査分野	市場規模 (百万ドル)	市場成長率	売上構成比 (2017年3月期)
ヘマトロジー (血球計数)	3,100	6%	63.8%
血液凝固	1,800	5%	16.4%
尿 うち尿沈渣	1,000 320	6%	6.4%
免疫	18,000	6%	3.2%
生化学	7,400	5%	1.4%
その他 (遺伝子、血糖など)	21,700	—	8.8%
検体検査市場	53,000	6%	—

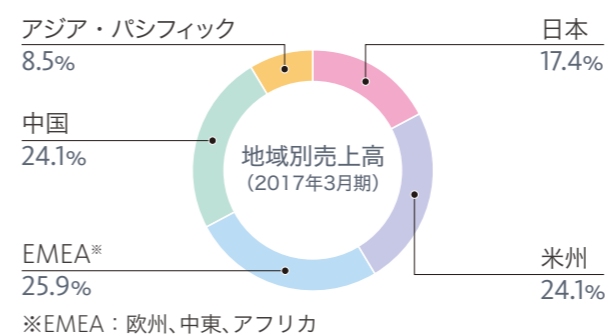
(注) 当社推定

#### グローバルシェアNo.1

(凝固はシーメンス社との合算、尿は沈渣検査)

#### 190カ国以上をカバーする販売・サポート体制

各地域の特徴に応じた体制を通じて、世界190カ国以上に製品・サービスをお届けする体制を構築しています。この強みを活かすことにより、新たに研究開発した製品をいち早くグローバルに展開することができます。



#### 独自の技術力

シスメックスにはさまざまな専門性を持つ人材がおり、機器、試薬、ソフトウェアなどを自社で創出できる強みがあります。また、細胞、遺伝子、タンパクという異なる3つの技術プラットフォームを有していることも大きな特長です。



# 新中期経営計画

長期経営目標

## Sysmex Way

A Unique & Global Healthcare Testing Company  
「特徴あるグローバルヘルスケアテスト企業」

企業理念

長期経営目標  
(2020年)

中期経営計画

### 長期経営目標 ポジショニング

- ▶ **ヘマトロジー、血液凝固、尿分野におけるグローバルNo. 1** (アライアンス含む)  
当社の中核事業として、グループのさらなる成長を支える収益基盤を構築します。
- ▶ **アジアIVD(検体検査)市場におけるリーディングカンパニー**  
地理的な優位性を発揮し、ヘマトロジー分野以外の免疫などの成長分野においてもアジア市場で確固たる地位を築きます。
- ▶ **免疫分野におけるユニークで存在感あるプレーヤー**  
他社にないユニークな強みを発揮し、中期の成長ドライバーとして、グループの成長を牽引します。
- ▶ **個別化医療に貢献する先進的なグローバルプレーヤー**  
先進的な技術にもとづく検査(診断)の価値向上を通じ、グループの成長加速とグローバルな存在感を確立します。
- ▶ **価値と安心を提供する魅力あふれる会社**  
多様なステークホルダーに価値と安心を提供する魅力ある会社を目指します。
- ▶ **スピード豊かな経営を実践するOne Sysmex**  
グループ全体で最高のチームワークを発揮し、高効率でスピード豊かな経営を実践する企業体を目指します。

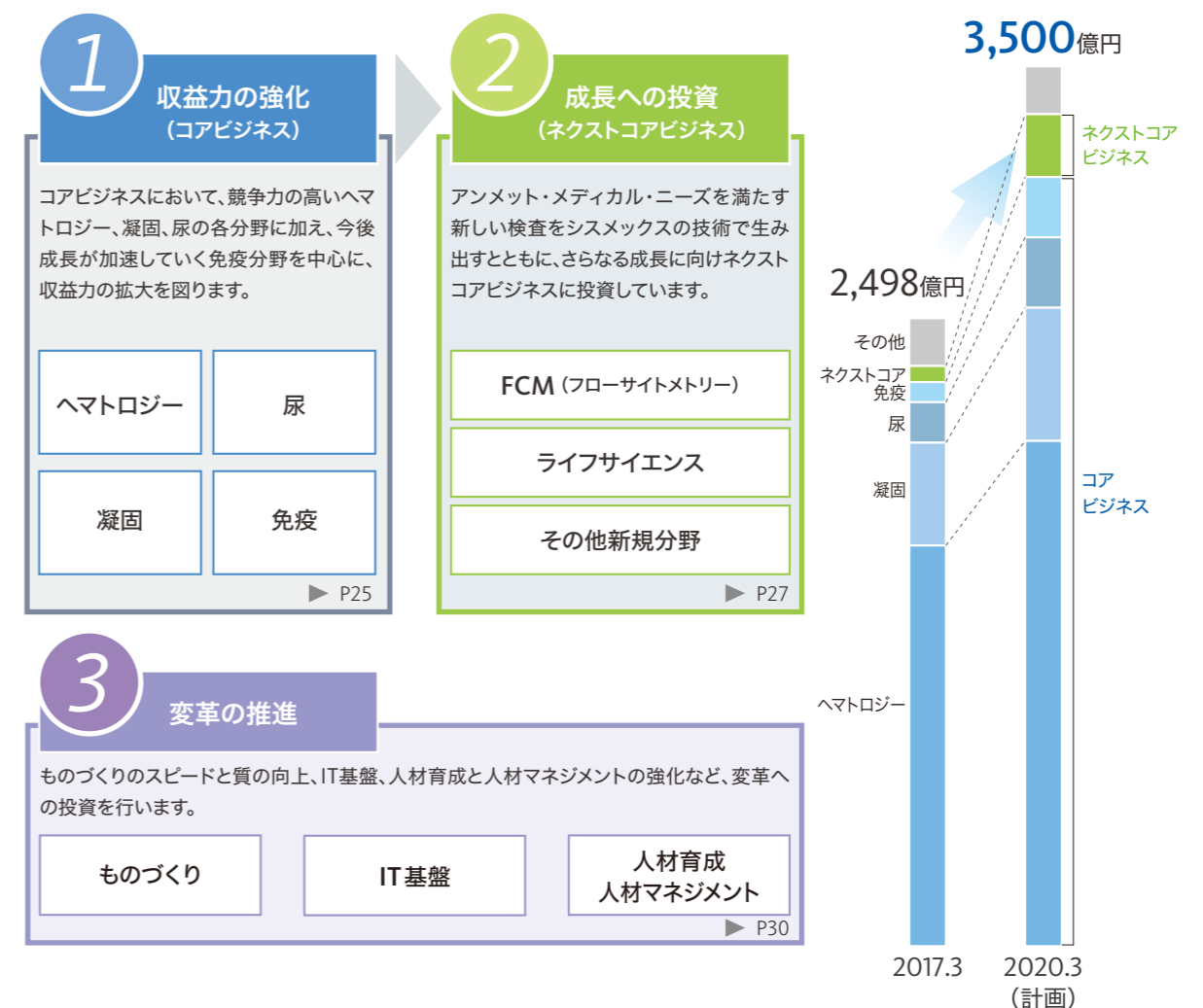
シスメックスは2020年3月期を最終年度とする中期経営計画を策定しました。現在、事業の中心となっているコアビジネスの収益力強化に加え、次にシスメックス

を牽引していく事業をネクストコアビジネスと位置づけ、積極的に投資しています。また、2020年以降の継続的な成長を見据え、変革を推進しています。

### ■ 中期経営計画概要 (2017年5月発表)

2020年3月期 目標	売上高	営業利益	ROE	営業CF	フリーCF
	<b>3,500</b> 億円	<b>720</b> 億円	<b>20%</b> 以上	<b>550</b> 億円	<b>300</b> 億円

中計為替レート(1USD = 110.0円、1EUR = 115.0円、1CNY = 16.0円)



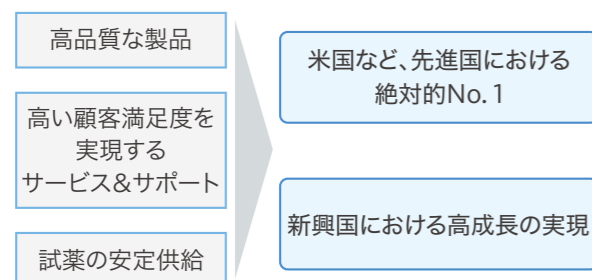
# 1

## さらなる成長へ向けた収益力の強化(コアビジネス)

### ヘマトロジー分野

高品質な製品開発、特にITやシステム製品を活用した高い生産性を提供することにより、2007年にヘマトロジー分野でグローバルシェアNo. 1を達成しました。その後もフラッグシップモデルXNシリーズの販売や、高い顧客満足度を達成するサービス&サポートによりシェアを拡大してきました。今後は、省スペース化された新たなXNシリーズ(2017年6月に販売開始)による検査室ワークフローのさらなる改善を新興国市場など市場

#### ■ヘマトロジー分野における収益力の強化



拡大が期待できるエリアで進めます。また、高まる需要に対応するため、試薬生産の現地移管など、試薬安定供給力の強化を行っていきます。



### 尿分野

シスメックスは、世界で初めて尿沈渣分野でフローサイトメトリー※を活用したUFシリーズを発売し、グローバルでシェアNo. 1を獲得しています。さらなるプレゼンス向上を目指し、2016年1月には栄研化学株式会社との業務提携により、尿定性分析装置をポートフォリオに加え、尿分野における定性、沈渣、撮像装置の一体運用によるさらなる効率化の向上を実現しました。

薬事認可取得に時間を要しましたが、現在では販売促進に向けた体制が整いました。今後は尿定性、沈渣を含む尿分野全体でのNo. 1を目指し、高い生産性を実現する尿検査のワークフロー改善など、活動を強化していきます。

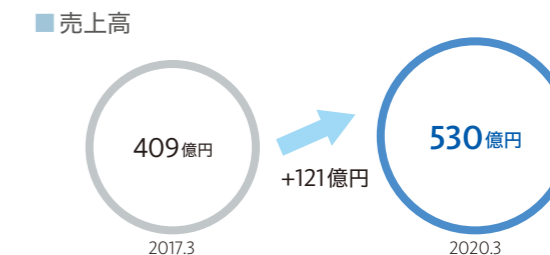
※フローサイトメトリー：微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して、個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。



# 新中期経営計画

### 血液凝固分野

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社とのグローバルアライアンスを軸に、お互いの強みを活かすことにより、グローバルシェアNo. 1を獲得しています。今後は、血液凝固異常や血栓の検査で用いられる線溶系試薬の導入などを加速し、収益性を向上させていきます。



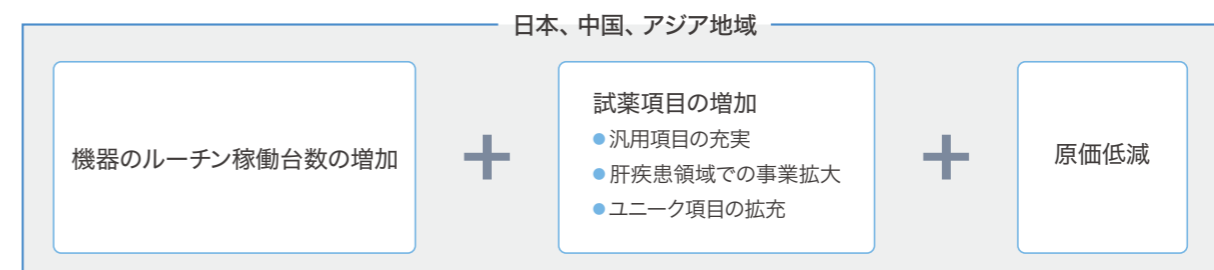
### 免疫分野

検体検査で最大の市場規模である免疫分野において、対象地域をアジアにフォーカスし、またシスメックスにしかないユニークな測定項目を中心にアプローチすることで事業を拡大しています。ここ数年、主に日本、中国においてHISCLシリーズの販促を強化することで稼働

台数を増加させることができました。今後はアジア諸国への市場導入を加速させ、さらなる稼働台数の増加を目指します。また、試薬ポートフォリオ(特に肝疾患領域)を拡充させていくことにより、売上のさらなる伸長ならびに収益性の改善を実現していきます。



#### ■免疫分野における事業拡大と収益性改善



# 2

## 事業ポートフォリオの変革に向けた成長への投資

# 新中期経営計画

### ネクストコア事業担当役員インタビュー



新しい検査によって  
助かる命があるという想いが  
モチベーションになっています。

浅野 薫  
取締役 専務執行役員  
研究開発、ネクストコア事業担当

#### 事業ポートフォリオの変革

中長期的な成長を続けていくため、独自の技術を活用した新たな事業領域をネクストコアビジネスと位置づけ、将来的な事業ポートフォリオの変革の実現を目指します。

#### 社会への貢献

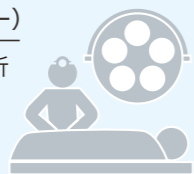
ネクストコアビジネスを成功させるためには、社会にどのような価値を提供できるかという視点が重要です。例えば、現在注力しているリキッドバイオプシーは個別化医療実現に貢献するためのツールです。個別化医療が実現すれば、個々の患者さんに最適な治療指針が選択でき、効果的な治療を提供できるというメリットがあります。治療の質向上とともに医療費抑制にもつながり、社会に対して非常に大きな貢献が可能となります。

我々の挑戦は社会課題を解決していくために無限に続いていきます。しかし、技術を創出するだけでは意味がありません。一つひとつの技術を着実に事業化し、新たな検査を世の中へ広めていくことが大切です。

#### ■ 身体的・経済的負担を軽減するリキッドバイオプシー

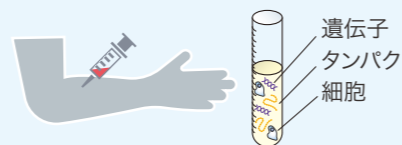
##### 従来: 組織分析 (バイオプシー)

患部組織を採取して直接分析



##### 血液分析 (リキッドバイオプシー)

血液・体液中に  
存在する  
疾患由来成分  
を分析



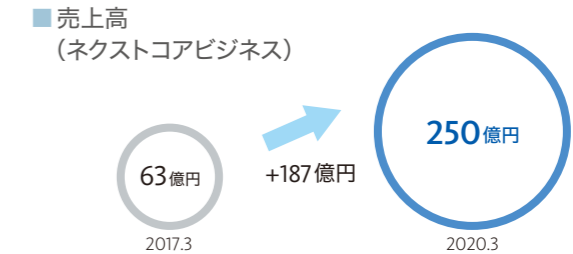
#### 事業化への挑戦

技術を創ること、そして事業化するプロセスは容易ではありません。しかし、シスメックスは日本におけるIVDリーディングカンパニーであるため、研究機関や大学・企業から多くのオファーをいただいております。研究開発を推進する大きな原動力になっています。また、シスメックスには既に190カ国以上に販売・サービス、薬事認可を取得できるグローバルネットワークが整備されており、事業化した商品のグローバル展開を迅速に行える点も非常に大きな強みです。

#### 課題を乗り越える力

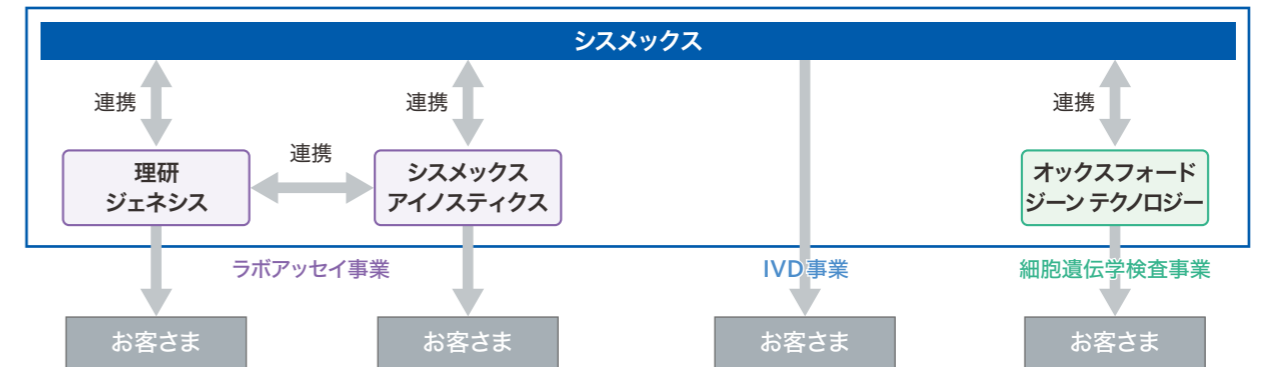
課題を解決する力となるのは社員の強い意志と情熱であり、これらがないと絶対に達成することはできません。高いモチベーションを維持するためには、社員自らが考え、自由に業務に取り組める環境を提供することが必要です。また、我々が推進している技術を事業化し世界中へ届けることが患者さんの役に立ち、社会へ貢献するという意識を持つ必要があると考えています。

シスメックスは、次の成長エンジンであるネクストコアビジネスの拡大に向けて、ライフサイエンス事業の拡大、FCM事業の基盤構築、その他新規分野の事業化を推進しています。



#### ライフサイエンス事業

##### シスメックスグループ



ライフサイエンス事業は、ネクストコアビジネスの中核となる事業で、遺伝子検査を中心に取り組んでいきます。遺伝子検査は、遺伝子に関わる病気の診断や医薬品の適合性などを診断するための検査ですが、シスメックスではその事業特性から次の3つの事業に分けて展開していきます。

#### ● ラボアッセイ (検体の受託解析) 事業

最先端の遺伝子解析は、特別な設備と専門のスタッフを備えたラボで実用化されますが、それをラボアッセイサービスとして、お客様に提供しています。2013年に血中の微量な遺伝子を検出するBEAMing技術を保有するアイノスティクス社を、2016年に次世代シーケンサーによるゲノム解析技術を保有する理研ジェネシス社を子会社化しました。この2社は、医療機関や研究機関などから最先端の遺伝子検査を受託しています。また、がんの早期発見や再発モニタリング、抗がん剤の効果モニタリングなどの新しい遺伝子検査の開発を、これら2社とのシナジーを活かし進めていきます。

#### ● IVD (体外診断薬) 事業

ラボアッセイサービスとして提供している遺伝子解析は、最終的には体外診断薬として、どこの医療機関でも測定できるようにしたいと考えています。シスメックスが開発したOSNA™法による乳がんリンパ節転移迅速検査は、すでに体外診断薬として多くの医療機関でお使いいただいています。同様に、現在ラボで実施している技術のIVD (体外診断薬) 化を進め、世界中の医療機関にお届けしていきます。

#### ● 細胞遺伝学検査事業

2017年にオックスフォード ジーン テクノロジー社 (OGT社) を買収しました。OGT社は、細胞の染色体異常や遺伝子の異常を検査する細胞遺伝学検査の領域で事業展開をしています。OGT社の技術とシスメックスが保有するフローFISH技術などの自動化装置を組み合わせ、新たな事業展開を図っていきます。

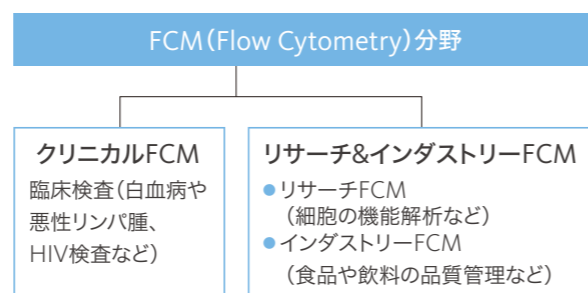
# 新中期経営計画

## FCM事業

FCMとは、微細な粒子を流路に流し、流路中を流れる個々の粒子を光学的に分析する技術で、シスメックスの血液分析装置や尿検査装置の基本原理として、採用されています。

このFCM技術の応用としては、白血病や悪性リンパ腫診断の詳細解析のために臨床検査として行うクリニカルFCMや、食品や飲料の品質管理などに利用されるインダストリーFCM、培養細胞の機能解析などを研究用途で行うリサーチFCMがあります。

これらの領域に対してシスメックスは、2013年に子会社化したパルテック社が保有するFCM技術とシスメックスの技術を組み合わせることにより、FCM分野における新たな価値を生み出していきます。



## その他の新規分野

### ● 超高感度 HISCL™

シスメックスの免疫測定装置 HISCL™ をベースに、免疫複合体転移法を用いることにより、従来は検出することができなかった血中微量タンパクの検出を可能としました。今後は、本システムの商品化により、血液検査（リキッドバイオプシー）によるアルツハイマー型認知症など、さまざまな疾患への応用を図っていきます。

※免疫複合体転移法：Immune Complex Transfer法、非特異吸着によるバックグラウンドノイズを大幅に低減する技術



超高感度 HISCL™

### ● 子宮頸がんスクリーニングシステム

子宮頸がん検査などの細胞診検査の効率化を目指して、剥離細胞分析装置 LC-1000™ を開発しました。この装置は、細胞の核 DNA 量異常や、細胞形態の異常を捉える装置で、本システムを用いることにより、細胞診における異常細胞を検出することが可能となります。子宮頸がん検査は、現在、子宮頸部から採取された細胞を顕微鏡で検査する方法が主流ですが、当装置を併用することにより、より効率的な検査を行うことができます。

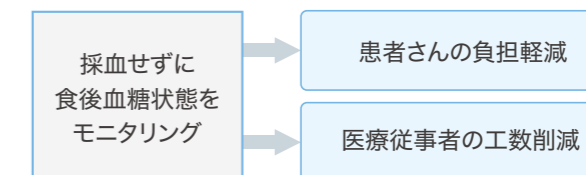


剥離細胞分析装置 LC-1000™

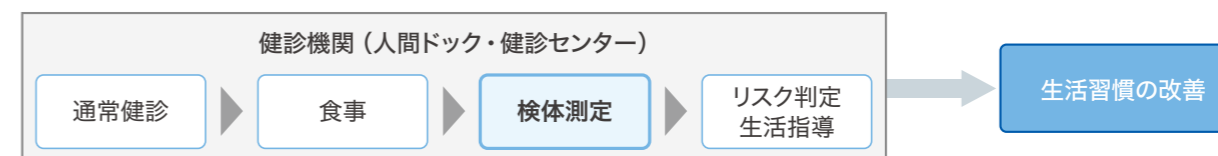
### ● グルコースパッチテスト

生活習慣病の代表的な疾患である糖尿病の早期発見を目的とし、採血せずとも食後高血糖の状態を計測できる検査（グルコースパッチテスト）の開発を進めています。比較的容易に食後、高血糖になっているかがわかるため、生活習慣（食事）の改善に役立つものとして、商品化を進めています。

#### ■ 導入による効果



#### ■ 微侵襲食後血糖状態測定サービス



## 3 成長をリードする変革の推進

### ものづくり

今後、さらなる成長を支えるため、ものづくりのスピードと質の向上を実現していきます。例えば、バイオ診断薬の開発・生産力強化を今中計期間中に行うことにより、免疫事業などの成長へとつなげていきます。また、シスメックスは責任ある製品、サービスの提供を重要視しており、お客様に信頼され続ける高い品質と安定供給体制の強化に取り組んでいます。その一環として、米州では試薬安定供給力の向上を図るため、2017年に米国試薬工場を拡張し、生産能力を従来の1.8倍に増強しました。



米国試薬工場

### IT基盤

業務プロセスの最適化を実現するため、IT基盤の強化へ継続的な投資を行っています。例えば、ITを活用したサプライチェーンやエンジニアリングチェーンプロセスの最適化などによる生産性の向上を目指しています。

### 人材マネジメント

シスメックスは、人材を持続的な成長のための重要な経営資源のひとつと捉え、投資を行っています。特にグループの成長を牽引する次世代リーダー人材や、高度専門人材の獲得および人材育成を強化していきます。

また、多様な専門性を持つ人材が活躍できる組織を構築するため、マネージャー層以上を対象としたダイバーシティ研修を実施するなど、取り組みを進めています。



マネジメント研修



## 事業活動

多様な市場ニーズにお応えして、  
価値を生み出し提供する仕組みを  
構築しています。

### 価値を生み出す仕組み

シスメックスは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートまでを自社でグローバルに展開する体制を構築しています。この体制を通じて、お客様が抱えるさまざまな課題やニーズを把握し、研究開発にいち早く活かしています。課題やニーズを反映した高品質な機器・試薬・ソフトウェアに加えて、システム製品やオンラインサポートなど高い付加価値の提供により、世界中のお客様から高い評価をいただいています。



## 研究開発

シスメックス独自の技術力を活かして  
社会の医療課題を解決し、  
健康な社会づくりに貢献します。

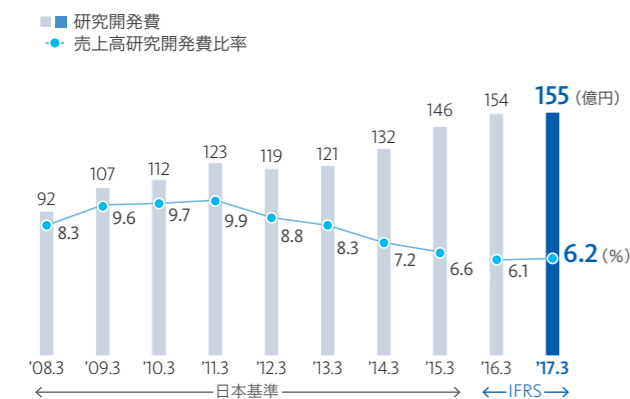
### 研究開発のビジョン・方向性

シスメックスの研究開発は、グループ企業理念「Sysmex Way」のもと、新たな診断技術を生み出し社会へ貢献することを目的としています。

現在、アンメット・メディカル・ニーズへのチャレンジによる健康寿命の延伸、個別化医療実現による最適な治療の実現や医療費抑制、さらには感染症の早期診断法開発による新興国・途上国への貢献などさまざまなテーマに取り組んでいます。

シスメックスは技術力を基盤として成長してきた企業であり、研究開発を成長の源泉と位置づけ、積極的に投資を行っています。2017年3月期の研究開発費は155億円となりました。

■ 研究開発費／売上高研究開発費比率



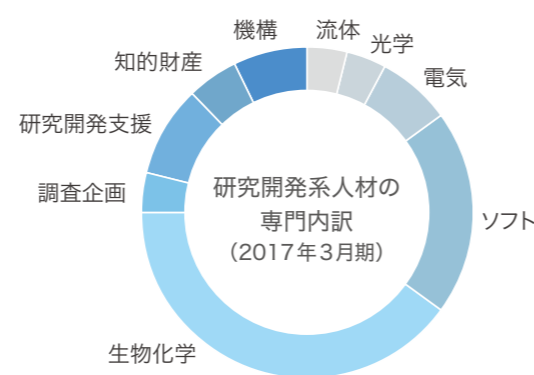
### 多様な人材とグローバル体制

研究開発部門には、機械工学、情報科学、電子工学、化学、応用物理、生物学など多様な専門性を持つ人材が集まっています。その強みを活かし、機器、試薬、ソフトウェアなど診断に必要な製品を生み出しています。

また、研究開発の中核拠点であるテクノパークを中心に、欧米のR&Dセンター、子会社である理研ジェネシス、シスメックス アイノスティクスなどと連携し、グローバルに新たな価値を生み出していく体制も整えています。

さらに、独自の技術プラットフォームの拡充に加え、オープンイノベーションにより、国内外の研究機関や大学、医療機関とのコラボレーションを推進しています。この活動により、新たな診断項目の候補を取り入れ、いち早く先進的で価値の高い診断技術・試薬として完成させていきます。

■ 多様な専門性を持つ人材



### 3つの技術プラットフォーム

シスメックスは、ミクロの世界を精査する検体検査の可能性を追求し、幅広い技術を融合させることにより、粒子計測技術や流体制御技術、検出技術などを確立してきました。

現在、遺伝子、細胞、タンパクを測定する次世代の高感度な技術プラットフォームを有しており、個別化医療の実現に向けて、独自の技術に加え、さらなる技術の拡充を図るためにM&Aやアライアンスも積極的に行っています。その一環として、2013年にはドイツのアイノスティクス社、パルテック社、2016年には理研ジェネシス、2017年にはオックスフォード ジーン テクノロジー社を子会社化しました。

### 今後の取り組み

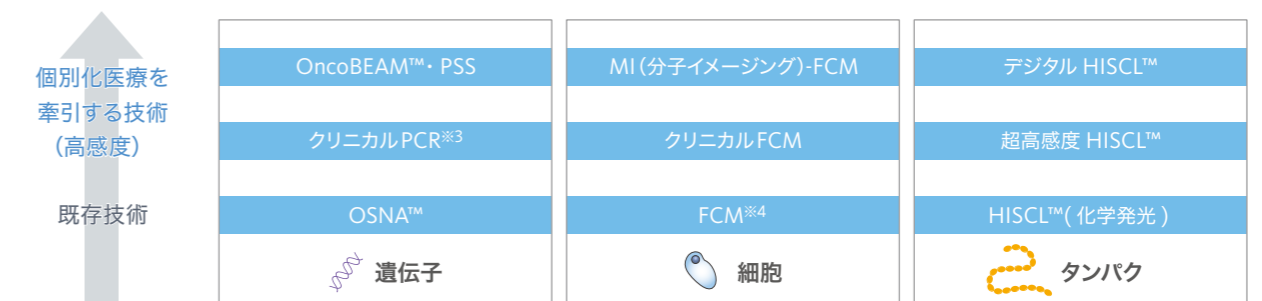
シスメックスは、個別化医療におけるリキッドバイオプシーの実現を重要なテーマとして位置づけ、研究開発を進めています。血液や体液の中には患部の情報を持った遺伝子・タンパク・細胞などが存在します。近年、これらを高感度に分析することで、患者さんから患部組織を採取して行う検査と同等の検査結果が得られるようになってきました。患者さんの身体的・精神的・経済的負担が軽減され、繰り返し検査(モニタリング)が可能という利点があり、注目されています。

シスメックスの技術プラットフォームのうち、遺伝子に関してはゲノム医療<sup>※1</sup>の実現を、そしてタンパクではアルツハイマー検査など超高感度 HISCL<sup>TM</sup>によるタンパク検出に取り組んでいます。また、細胞ではイメージング FCM技術によるFISH検査<sup>※2</sup>の自動化や血中がん循環細胞(CTC)の検出技術開発を目指しています。

※1 ゲノム医療：個々のゲノム情報を調べ、その結果をもとに、より効率的・効果的にがんなどの病気の診断と治療、予防などを行うこと

※2 FISH 検査：特定の遺伝子にだけ結合する蛍光標識プローブを使って、染色体の中にある目的の遺伝子を検出する検査手法

■ シスメックスの技術プラットフォーム



※3 PCR：少量DNAを大量に複製する、遺伝子増幅技術の一つ。

※4 FCM：微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して、個々の粒子を光学的に分析する手法のこと。主に細胞を個々に観察する際に用いられる。

調達・生産・物流

高品質を追求した機器生産体制と、  
グローバルな試薬生産体制を構築し、  
世界190カ国以上に製品をお届けしています。

機器生産は「メイド・イン・ジャパン」と  
独自のものづくり体制で高品質を実現

シスメックスがお届けしている検査機器には、極めて高い品質が求められており、高機能で精密な製品であるため、機械による生産の自動化が難しい部分が多くあります。同時に、グローバルなコスト競争にも打ち勝つ必要があり、生産における効率化も求められています。

そこでシスメックスは、正確かつ効率の良い機器の製造に向けて、IT（情報技術）を活用し、技術が人をサポートする仕組み作りに取り組んできました。

例えば、作業手順を3D（立体）動画で表示するシステムは、品質と生産性の向上に高い効果を発揮しています。また「Smart Pro」という独自の生産活動支援システムに情報を集約し、工程の進捗管理や品質管理に活用しています。

さらに、シスメックス製品の質の高さは、世界トップ

クラスの技術力を持つ日本のサプライヤー様からの材料や部品の提供にも支えられています。

これらの体制を通じて製造された機器は、各国の法規制に適合した品質保証体制、環境保全体制にも対応しています。

このように「メイド・イン・ジャパン」\*の独自のものづくり体制の構築により、シスメックスは高品質・高付加価値の製品を世界中にお届けしています。

\*機器生産に関しては、シスメックス パルテックの製品のみドイツにて生産

安定供給をグローバルに実現する  
試薬生産体制

検査に必要な試薬は、検査を実施するたびに消費されるため、日本で集約生産する機器とは異なり、生産工場を市場に近い場所に設けています。シスメックスは、



日本に2カ所、海外では6カ国に計7カ所の生産工場を有し、世界中のお客様に各地域の需要に応じて安定した供給を行う仕組みを構築しています。グローバルに試薬生産工場を展開することは、輸送コストやリードタイムの削減にもつながっています。

グローバルな試薬の需要増加に対応するため、シスメックスは、さらなる生産体制の整備・拡張にも取り組んでいます。米国では需要の拡大にともない試薬工場の生産エリア拡張を進め、2017年7月には生産能力を従来の約1.8倍に増強しました。

また、成長戦略にもとづき日本においてバイオ診断薬開発拠点の建設も進めています。これにより、今後の成長実現に向けて、診断薬開発・生産の質向上とスピードアップを目指します。

サプライチェーンのプロセス最適化により、  
製品の安定的な供給を実現

機器については、需要の状況を的確に把握することで、グローバルな需要変動へ迅速に対応し、常に安定した供給ができる仕組みを構築しています。

試薬については、主要原材料購買先の複数化によるリスク分散や、現地工場への製造移管を進めるなど、さまざまな角度から安定供給の実現を図っています。

製品の安定的な供給を実現することで、企業としての社会的責任を果たすとともに、世界中のお客様からの信頼がさらに高まるよう努めています。

**機器生産**

メイド・イン・ジャパンの高品質  
ブランド力・信頼性  
人と技術の融合による効率的な生産

ICTを活用したものづくり

**試薬生産**

世界7カ国9工場生産  
安定供給  
輸送コスト・リードタイム削減

安定供給を実現する生産体制



## 販売・サービス&サポート

# 世界中のお客様に高品質な 製品・サービス&サポートをお届けするための 体制を構築しています。

### 地域特性に応じた販売体制を世界に展開

シスメックスは創業間もない1972年に海外初の拠点をドイツに開設。その後もグローバルに事業展開を進めており、いまやその販売網は世界190カ国以上に広がっています。

直接販売・サービス&サポートについては売上全体の6割近くを占める国や地域をカバーし、シスメックスの従業員が直接お客様の要望や課題などをお聞きする機会が増えています。

一方、商習慣の違いなどの課題をクリアするためにアライアンスを活用した間接販売・サービス&サポートを行っている地域もあります。こうした地域では代理店の方を集めて会議を開催するなど、シスメックスの事業や製品を充分にご理解いただけるよう取り組んでいます。

また、開発途上国に向けては、代理店を通じた販売サービス活動に加え、グローバルファンドなどを通じて製品をお届けすることで、現地の医療の質向上にも努めています。

### 製品とともに付加価値をお客様へお届けする

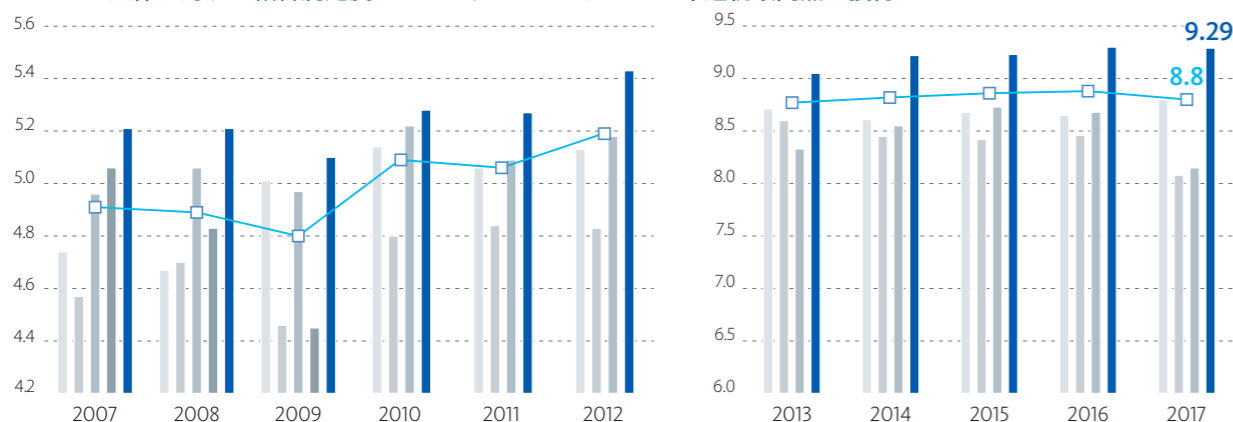
幅広い地域にシスメックス製品をお届けできるのは、充実した販売網に加え、ヘマトロジーをはじめとしたコアビジネスにおいて、お客様のニーズにお応えする多様な製品ラインアップを展開しているためです。

また、単に製品を販売するだけではなく、お客様の効率的な業務に向けて、機器の選定や配置、検査室の運用などをアドバイスする検査ワークフローのソリューション提案も実施しています。

多様な製品ラインアップやサービス、経験・知識を最大限に活かして、検査室の要望に応じた柔軟な提案を行うこと、つまり製品だけではなく付加価値を提供することが、シスメックスのセールスマインドとしてグローバルに浸透しています。

### ■ 米国顧客満足度調査

サービス全体に対する顧客満足度において、シスメックスは11年連続最高点を獲得



■ シスメックス ■ A社 ■ B社 ■ C社 ■ D社 □ 業界平均  
2007年から2012年までは1~6段階評価  
2013年以降は1~10段階評価

出典：IMV ServiceTrak 2017 Hematology



### シスメックス製品への高い満足度を支える サービス&サポート活動

- 充実したサービス体制により、安心して検査ができる環境を提供

シスメックスの製品は医療現場における重要な判断に関わるため、製品を販売した後も装置のダウンタイム低減を図ることが顧客満足度の向上につながります。シスメックスは創業時からお客様に正しい検査結果を提供することで「安心」をお届けすることを大切にしており、装置のトラブルやお客様の疑問・要望に応えるサービス&サポートにも注力してきました。

例えば、カスタマーサポートセンターでは、お電話でのお問い合わせに迅速に対応しています。また、リアルタイムでお客様の機器の精度管理と動作状態を自動監視し、安定稼働をサポートするネットワークサービスSNCS™ (Sysmex Network Communication Systems)も構築しています。このシステムは、ITを活用しシスメックスの

スタッフが遠隔でお客様の装置の状態を確認することができるもので、機器の故障予測も行います。

また、質の高いサービスを提供できるよう、サービスエンジニアや代理店に向けたトレーニングを強化し、サービスレベルの向上を図っています。

- 製品の価値を正しく発揮するための学術サポート

シスメックス製品の臨床的価値をお客様に正しく活用していただくために、学術活動にも注力しています。例えば、製品をご購入いただいたお客様に、製品トレーニングを実施することで、正しい装置の使い方や学術的情報を丁寧にお伝えしています。また、シスメックス独自の測定項目について臨床での活用法を医師に説明するなど、製品の性能をフルに発揮させる学術サポート活動を展開しています。他にも学術セミナーを新興国などで開催することにより、医療関係者の知識レベルの向上に貢献するなど、医療の質を改善していくための活動も展開しています。

### ■ ネットワークサービス SNCS™

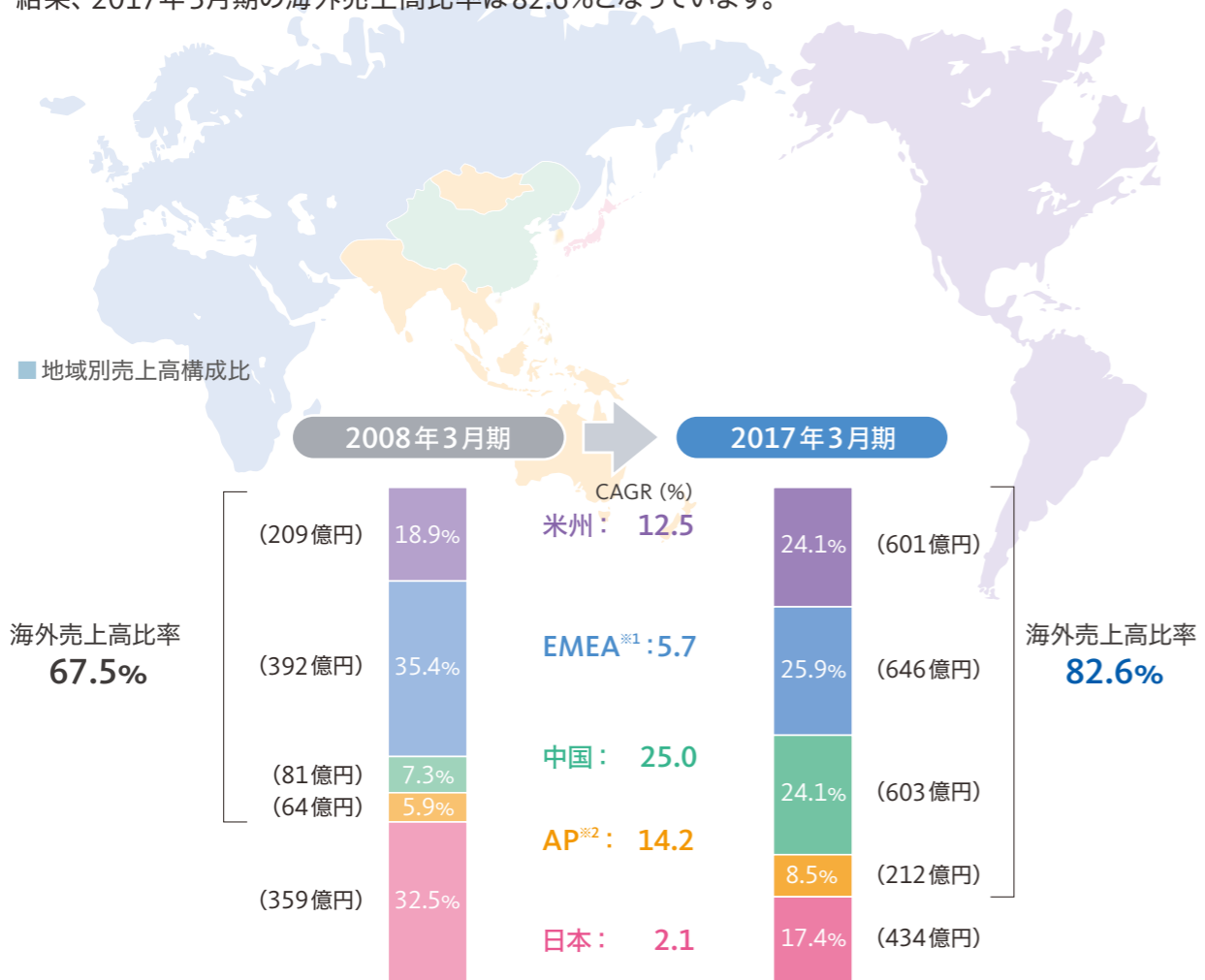


## 所在地別事業概要

1970年代に海外初の拠点を開設して以来、各地域の特性に応じて事業拡大を進めています。

シスメックスは、1972年に海外で初となる自社拠点をドイツに開設。その後、海外での直接販売・サービス&サポートを1991年にイギリスで開始するなど、グローバル展開を進めてきました。

現在は世界40カ国以上に60社を超えるグループ会社を有しており、190カ国以上のお客様に各地域の特性に応じた高品質な製品とサービス&サポートを安定的に提供する体制を構築しています。その結果、2017年3月期の海外売上高比率は82.6%となっています。

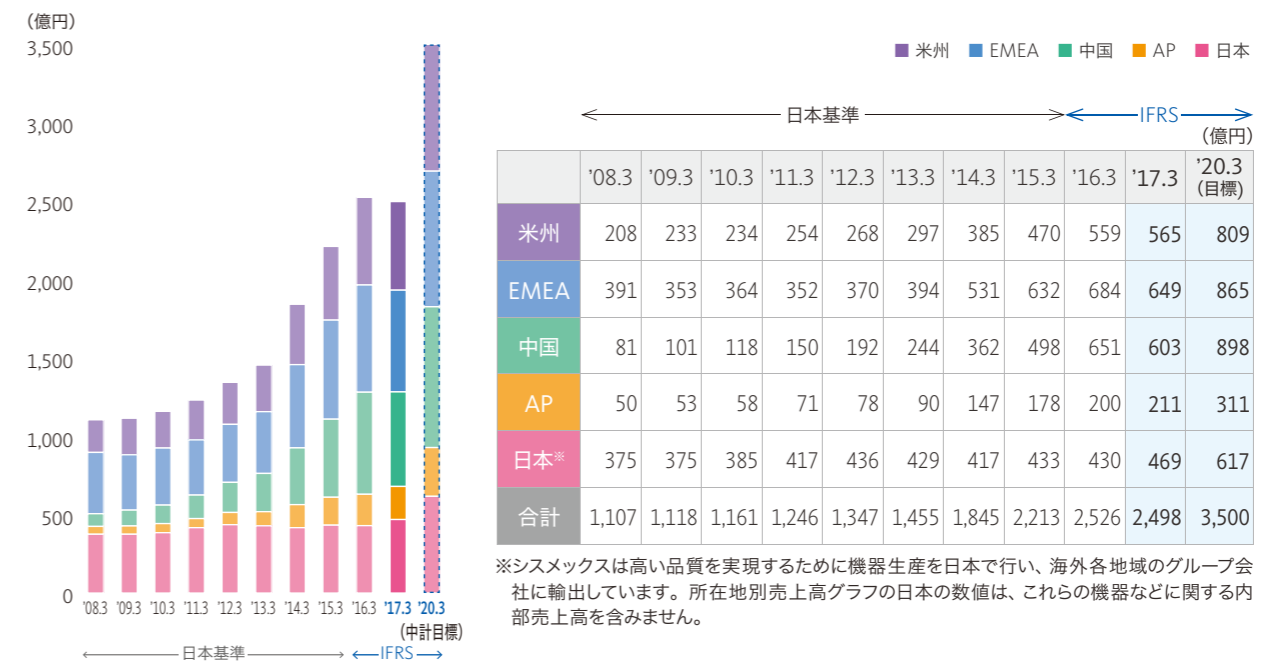


※1 欧州、中東、アフリカ地域

※2 アジア・パシフィック

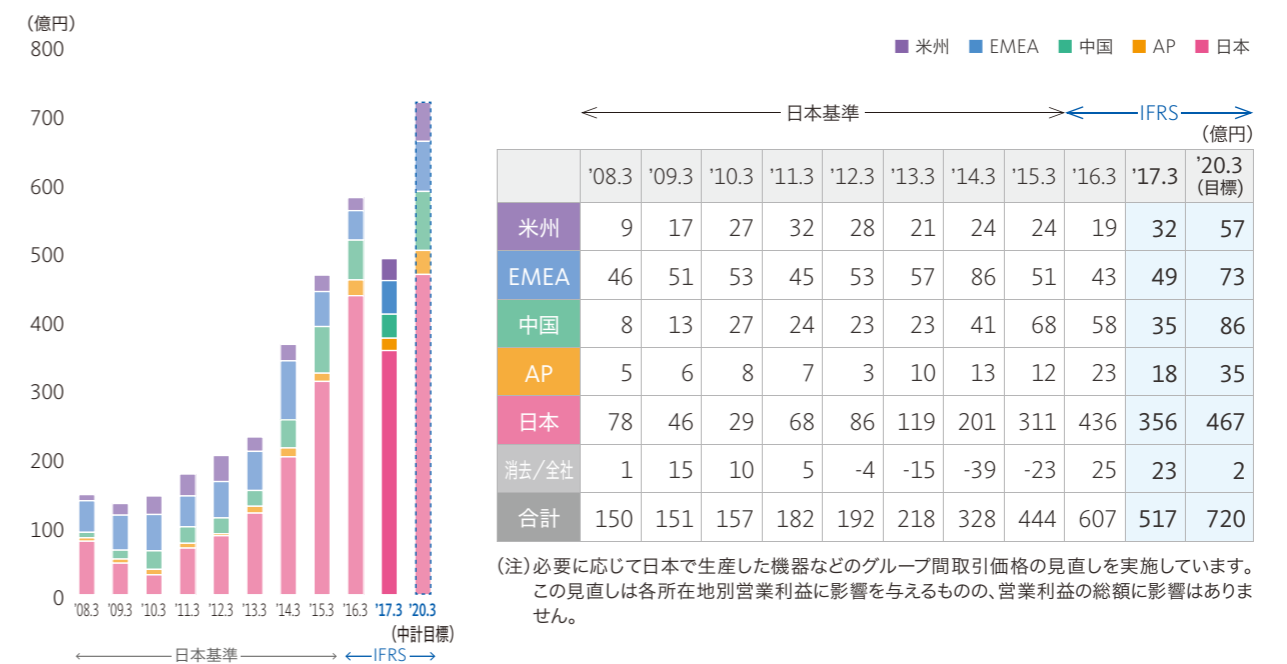
(注) 地域別売上高とは、該当地域に属する顧客に対してシスメックスグループが販売した金額を指します。一方、所在地別売上高とは、シスメックスグループのうち該当地域に属する企業群が販売した金額を指します。

■ 所在地別売上高



※シスメックスは高い品質を実現するために機器生産を日本でを行い、海外各地域のグループ会社に輸出しています。所在地別売上高グラフの日本の数値は、これらの機器などに関する内部売上高を含みません。

■ 所在地別営業利益



(注) 必要に応じて日本で生産した機器などのグループ間取引価格の見直しを実施しています。この見直しは各所在地別営業利益に影響を与えるものの、営業利益の総額に影響はありません。

所在地別事業概要



# 米州

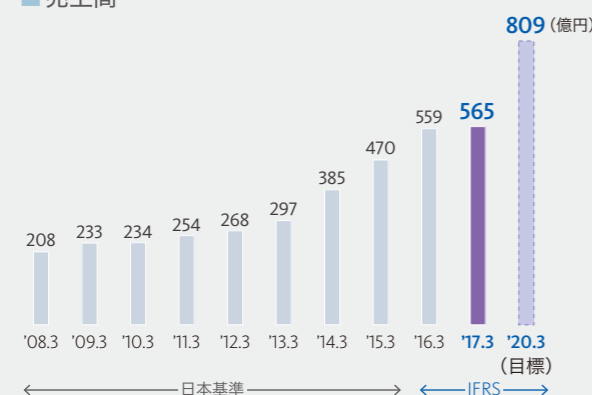
北米においてヘマトロジー分野で高いシェアを獲得。中南米では拠点整備などにより、さらなる成長を目指しています。

**Ralph Taylor**  
CEO, Sysmex America, Inc.

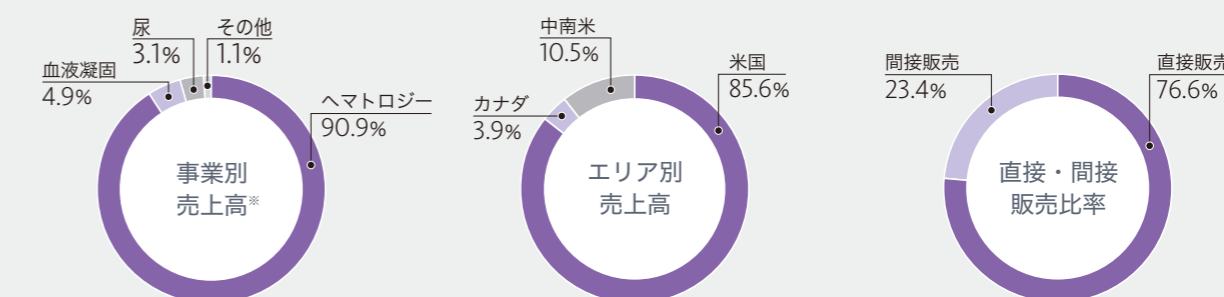


## 2017年3月期概況

■売上高



- ▶ 売上高は、現地通貨ベースでは米国におけるヘマトロジー分野の伸長により二桁増収となりましたが、円高の影響により円ベースでは微増
- ▶ 営業利益は、増収効果および物品税の一時的な停止による影響に加え、グループ間取引価格の見直しなどにより増益
- ▶ 主なエリア別の状況
  - ・米国は、西海岸エリアの攻略や大手検査センターの獲得などによりヘマトロジー分野が好調に推移し増収
  - ・中南米は、メキシコの政府大型案件を獲得しましたが、ブラジルの景気減速の影響により減収



※日本からのアイテックス社向け販売（動物用）含む

## 市場の特徴

### ● 高いレベルの活動が求められる北米市場

北米市場は先進国である米国とカナダで構成され、厳格な薬事規制で管理されています。また、広大なエリアに医療機関が点在していること、そして臨床的価値が高く生産性の高い製品が求められていることが特徴です。さらに、迅速かつ質の高いサービス&サポートも要求されており、販売、サービス&サポートにおいて高いレベルが求められています。

### ● 高いポテンシャルを持つ中南米市場

一方、中南米市場は北米と異なり、新興国・開発途上国が中心の市場です。人口は約6億人、北米市場の倍の規模を持つ巨大市場ですが、先進国に比べ最新の技術、製品を購入する予算が少ないケースが多いため、リーズナブルな価格で高品質な製品やサービスを提供することが求められています。また、輸送インフラが整っていない状況もあるため、製品を安定供給できる体制構築が必要です。



## シスメックスの強み

### ● 地域マネジメント体制

地域統括拠点を中心に、強固な販売マーケティング、サービス&サポート体制、高い専門性を有する品質保証・薬事部門を持つことが、大きな強みです。

### ● 広大な北米市場をカバー

広大なエリアにおいて効率的で迅速な対応を実現するため、バーチャルトレーニングによる革新的なトレーニング手法の実現や、学術セミナーのオンライン配信などに取り組んだ結果、お客様から高い満足度を獲得しています。

### ● 中南米ビジネスを支える販売・サービス網

長期にわたり信頼関係を構築してきた代理店網や、各代理店のサービス&サポートに対する充実した支援体制が強みです。ブラジル、メキシコなどの主要国では自社拠点を設立し、専門性の高いローカルスタッフがサポートする体制を構築しています。

### ● 試薬の安定供給体制

試薬の安定供給、輸送コストやリードタイムの削減を実現するため、米国・ブラジルにおける2カ所の試薬工場で現地生産していることも大きな強みです。

## 中長期的な成長戦略

### ● グループ長期経営計画の達成へ向けて

長期経営計画達成に向けて、米州ではイノベーションと卓越した顧客サービスを軸として、参入分野でのNo. 1ポジション獲得を目標としています。

### ● 北米市場におけるシェアNo. 1を目指して

ヘマトロジー分野において病院・検査センター市場に加え、開業医市場参入により絶対的No. 1ポジションを強化します。尿分野では、定性・沈渣の一体型市場でのNo. 1獲得、凝固分野ではシーメンス社とのアライアンスを通じた絶対的No. 1の獲得、さらにクリニカルFCM市場への参入を目標としています。

### ● 中南米におけるプレゼンスの向上

市場でのプレゼンス向上に向けて、自社拠点整備や代理店サポートの強化により販売、サービス力を高めています。

### ● 次世代を支える人材への投資

人材を重要な経営資源と捉え、人材アセスメントによる幹部候補人材の発見、能力開発、働きやすい職場環境整備により、次世代を支える人材育成に取り組んでいます。

所在地別事業概要



## EMEA(欧州、中東、アフリカ地域)

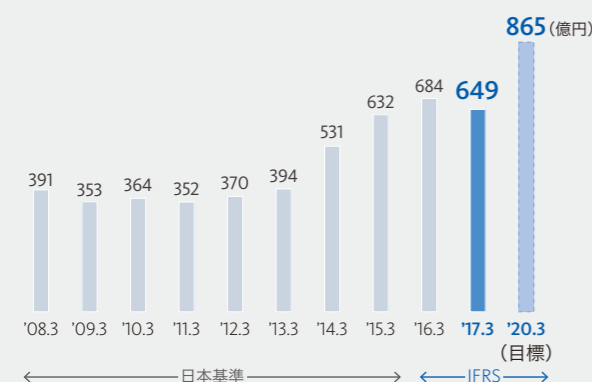
先進国、新興国など100カ国以上に展開。地域の特徴に応じた販売・サービス&サポート体制を構築しています。

**Juergen Schulze**  
President and CEO, Sysmex Europe GmbH

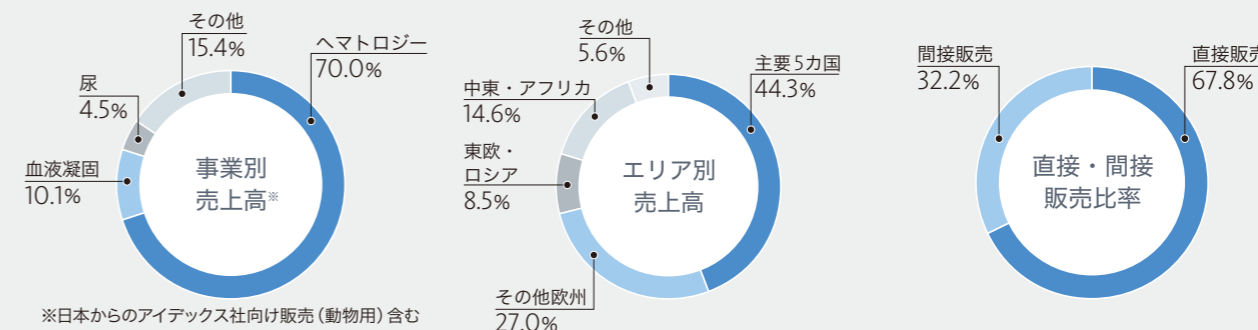


### 2017年3月期概況

■売上高



- ▶ 売上高は、現地通貨ベースではフランスやドイツなどの先進国に加え、新興国でもトルコやロシアなどが伸長し増収したものの、円ベースでは円高の影響により減収
- ▶ 営業利益は、グループ間取引価格の見直しおよび販管費の抑制により増益
- ▶ 主なエリア別の状況
  - ・主要5カ国は、Brexitの影響を受けたものの、尿分野や凝固分野の直販を開始したフランスなどが好調に推移し増収
  - ・東欧・ロシアは、ロシアで機器設置台数増加によりヘマトロジーや、凝固分野の試薬売上が伸長し増収
  - ・中東・アフリカは、イランやサウジアラビアでヘマトロジー分野の機器設置台数増加にともない試薬売上が伸長し増収



### 市場の特徴

●多様性を持つ地域

EMEA地域は西欧、中欧、東欧、中東、アフリカなどを含み、100カ国以上にまたがる巨大な市場です。地域が広いこと、言語や文化、気候の多様性が大きな特徴となっています。また、欧州などの先進国もあれば、アフリカなどの開発途上国もあるため、お客様の要望も状況に応じてさまざまです。

●高い要求レベルを持つ先進国市場

先進国では、医療費増加を抑えるため、検査の生産性向上がひとつの重要な課題となっています。一方で、高い臨床的価値への需要が拡大しており、高いレベルでのソリューション提案が求められています。

●品質と価格の両立

新興国や開発途上国では、富裕層向け医療機関で先進国同様のハイエンド製品へのニーズが高まっています。一方で、予算に制限のあるお客様も多く、高品質でありながらも価格の低い製品の販売が中心になっています。また、英語が第一言語ではない地域が多いため、各地域の言語でのサービス&サポートも非常に重要視されています。



### シスメックスの強み

●多様な地域をカバーする販売・サービス体制

シスメックス初の海外直販を開始したイギリスを皮切りに、これまでEMEA域内での直販・サービス&サポート体制を拡げてきました。また、各地域の商習慣に応じて、代理店を活用した販売・サービスも推進しています。その結果、現在ではEMEA全域をカバーする体制を確立しています。

●顧客満足度を高めるトレーニング体制

良質な顧客サービスを行うためのトレーニング体制を整えています。「Sysmex Academy」というトレーニング施設をEMEA域内の7カ所に展開しており、顧客、代理店に加えシスメックススタッフのスキル向上へ向けたトレーニングを実施しています。

●お客様の課題を解決するソリューション提案

単に製品を売るのではなく、お客様の課題を解決するソリューション提案を徹底しています。検査室の現状分析・課題抽出、課題解決に向けた検査ワークフロー改善提案を通じて、検査の最適化を実現しています。

### 中長期的な成長戦略

●製品ポートフォリオの拡充

主力であるヘマトロジー分野に加え、尿新製品の市場導入加速、シーメンス社とのアライアンスを活用した凝固分野の強化を図ります。さらには、ネクストコアビジネスであるFCM事業、ライフサイエンス事業を強化していくことにより、事業ポートフォリオの変革を目指します。

●地域マネジメント体制の強化

地域マネジメント体制の強化による意思決定のスピードアップ、各地域に適したビジネス展開を加速します。地域統括拠点シスメックスヨーロッパを中心に域内にいくつかのサブ地域統括拠点を配置し、権限移譲を進めていきます。

●人材育成とモチベーション向上

人材マネジメントおよびリーダーシップスキル向上を重点課題と位置づけ、研修プログラムを展開しています。「Sysmex Way」の継続的な啓蒙活動、従業員のモチベーション向上施策などを積極的に推進することにより、魅力的な職場を実現しています。

所在地別事業概要



# 中国

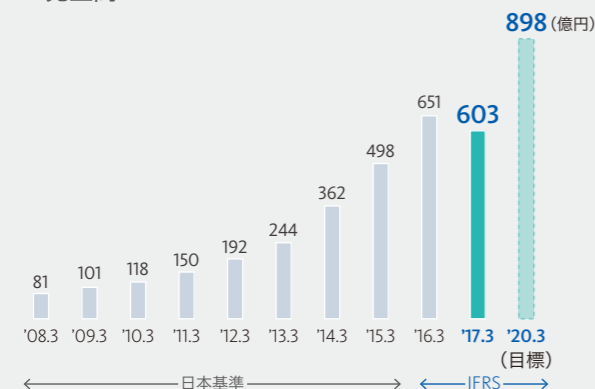
他社に先駆けて事業基盤を構築。検体検査領域におけるリーディングカンパニーとしての地位を強固にしていきます。

彭作輝  
President and CEO, Sysmex Shanghai Ltd.

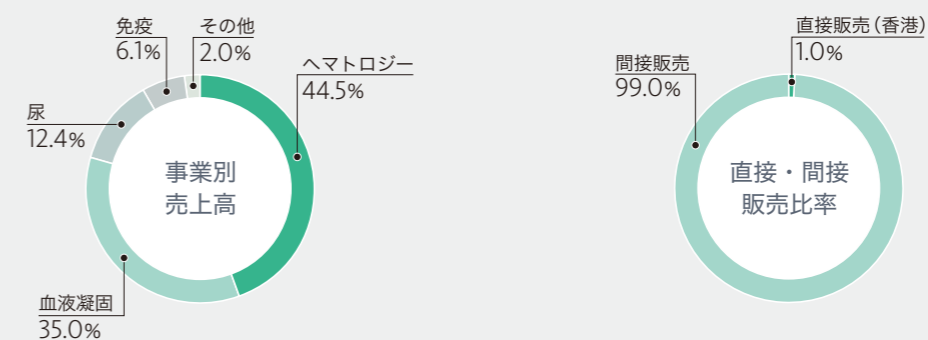


## 2017年3月期概況

■売上高



- ▶ 売上高は、現地通貨ベースでは機器売上が代理店在庫調整の影響を受けたものの、各分野で試薬売上が伸長し増収。円ベースでは円高の影響により減収
- ▶ 営業利益は、対ドル人民元安の影響で日本からの仕入価格が上昇したことにより原価率が悪化し、大幅減益
- ▶ 主な分野別の状況
  - ・ヘマトロジー分野は、機器売上が低調となったものの、試薬売上が伸長
  - ・凝固分野は、血栓症検査の需要拡大により試薬売上が好調に推移
  - ・尿分野は、試薬売上が伸長し微増
  - ・免疫分野は、稼働台数増加にともない試薬売上が伸長



## 市場の特徴

### ●人口約14億人の巨大市場

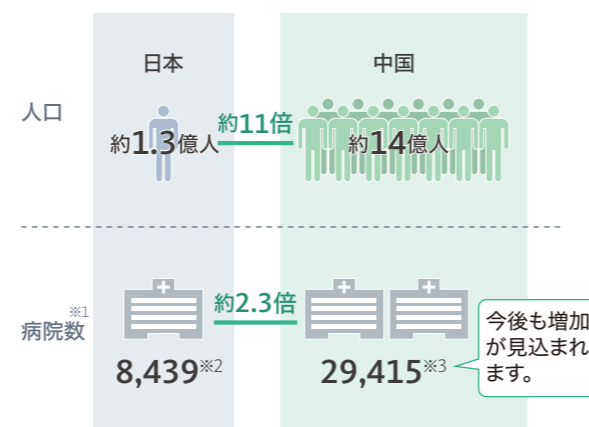
中国は、急速な経済成長によりヘルスケア市場も大幅に拡大しています。日本と比較すると国民一人あたりの病院数はまだ少なく、今後も医療インフラ整備による増加が見込まれています。また、都市部と農村部での医療格差が社会課題のひとつであり、保険制度整備などが検討されています。

### ●高まるハイエンド製品の需要

検体検査領域においては、需要拡大にともない効率化・自動化へのニーズが高まり、高機能製品への切り替えが進展しています。

一方で、近年は景気減速を背景に医療費抑制の動きが出てきています。例えば、医療サービス効率化を目的とした分級制度において、これまでは高度な医療が受けられる3級病院に集中していた患者さんのうち、症状の軽い患者さんや慢性疾患患者などの一部を2級以下の病院へ誘導することで、医療リソースの分配を目指しています。これにより2級以下の病院数に加え、患者数も増加しており、ハイエンド製品のニーズが高まることが予想されます。

### ■日本と中国の市場比較



## シスメックスの強み

### ● 強固な事業基盤

シスメックスは、中国市場の成長性にいち早く着目し、1995年済南に試薬生産工場を設立するなど、他社に先駆けて体制整備に取り組みました。現在は200社以上の販売代理店と連携することで中国全土に製品・サービスを供給できる強固な事業基盤を構築しています。

### ● 豊富な製品ラインアップ

コアビジネスであるヘマトロジー、尿、凝固分野において、自動化に対応可能なハイエンド製品から、小型の機器まで幅広いラインアップを提供しています。また、2015年には免疫市場にも進出するなど、ポートフォリオの拡充に努めています。

### ● 優れたブランド力

製品の品質に対する信頼に加え、約20年前から中国において学術セミナーを開催するなど学術啓発活動を積極的に実施しており、検査の質向上に貢献してきたことが、優れたブランドイメージの構築につながっています。

## 中長期的な成長戦略

### ● 検体検査のリーディングカンパニーを目指して

ヘマトロジー・凝固・尿分野に加え、成長市場である免疫分野においても確固たる地位を築きます。

#### ヘマトロジー・凝固・尿分野

- ・当社製品の競争力が高い3級市場において、市場ニーズに合った製品や新製品の導入を推進
- ・成長性が高い2級市場に対し、市場に特化したプロモーション・商品販売スキームを構築

#### 免疫分野

- ・HISCL™のルーチン稼働台数増加を目指し、代理店網を強化
- ・試薬の項目数拡大を目指し、薬事認可取得体制を強化
- ・市場ニーズの把握とさらなるお客様満足度の向上に向け、ITを利用したサービス&サポートを強化



所在地別事業概要



## アジア・パシフィック

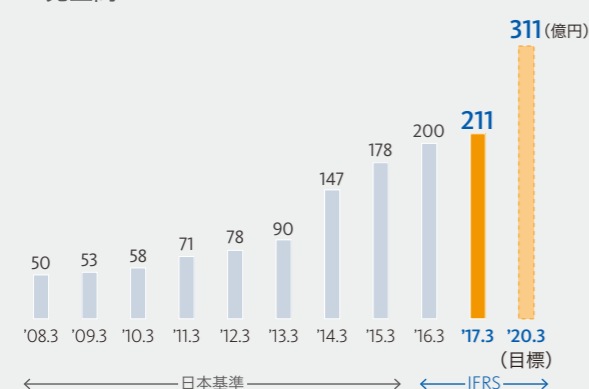
約24億人の人口を抱えるアジア・パシフィック市場。新興国を中心とした学術啓発活動などを通して、検査の質向上に貢献しています。

**Frank Buescher**  
CEO, Sysmex Asia Pacific Pte Ltd.

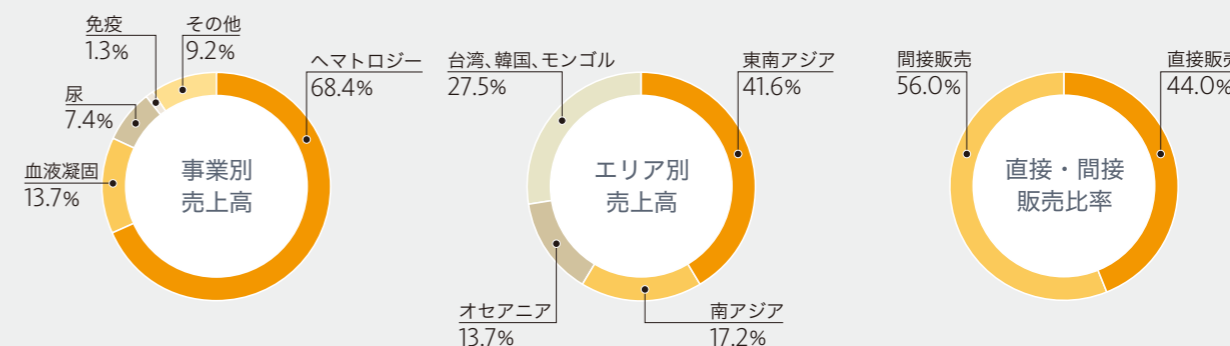


### 2017年3月期概況

■売上高



- ▶ 売上高は、円高の影響があったものの、ヘマトロジー分野に加え、凝固・免疫分野も好調に推移し増収
- ▶ 営業利益は、機器の売上構成比増加およびAP域内通貨における円高の影響などにより原価率が悪化し減益
- ▶ 主なエリア別の状況
  - ・東南アジアは、ベトナムではヘマトロジー分野が好調に推移し、インドネシアでは国民皆保険導入の影響もあり、ヘマトロジー分野および免疫分野の機器売上が好調に推移し増収
  - ・オセアニアは、オーストラリアでのヘマトロジー分野での大型案件獲得により大幅増収
  - ・韓国・台湾は、韓国での売上が円高の影響により減収(現地通貨では増収)



### 市場の特徴

● 経済成長にともなう高い将来性

世界人口の約3分の1を有するアジア・パシフィック地域は、その市場規模や将来性の高さが特徴です。人口の増加および経済成長にともなうヘルスケアの需要も拡大しています。

● 医療機器への多様な需要

市場の需要は国によってさまざまです。先進国から開発途上国までを含むアジア・パシフィック地域では、それぞれの国の経済レベルが、医療への投資額に大きく影響します。インドネシアなどの新興国では、医療保険制度の整備や医療インフラの発達により検査の数が増加し、比較的低価格で生産性の高い製品への需要が高まっています。一方で、開発途上国での需要は生産性よりコスト重視であり、医療関係者の知識向上も課題とされています。

■ 人口とGDPに対する医療費

	人口※1	GDPに対する医療費※2
インド	約13.4億人	4.7%
インドネシア	約2.6億人	2.9%
フィリピン	約1.0億人	4.7%
タイ	約0.7億人	4.1%
日本	約1.3億人	10.2%

※1 出典: United Nations, World Population Prospects (2017)  
※2 出典: World Health Organization (2016)

### シスメックスの強み

● 地域に密着した営業・サービス&サポート体制

直接販売・サービスを推進している国も多く、従業員が直接お客様の要望を聞くことにより、適切なソリューションを提供できる体制が整っています。一方で、エリアによっては現地の代理店を活用し、各地域の特性に合わせて直接販売や間接販売を展開することで、AP地域全体における販売を促進しています。

● 医療インフラの向上支援

新興国や開発途上国が大半を占めるAP地域では、医療インフラが十分でない地域も少なくありません。シスメックスは長年にわたって学術セミナーや学術教育資料などを用いて、地域全体の医療知識の向上を図ってきました。また精度管理の支援など、検査室の質を向上させる取り組みもアジア各国で行ってきました。このような活動が、地域全体の医療インフラ向上の支援となるだけでなく、シスメックスのブランド力の強化にもつながっています。

### 中長期的な成長戦略

● ヘマトロジーNo. 1のポジション強化

XNシリーズの展開を通じて新たな臨床的価値を提供していきます。また先進国や新興国だけではなくベーシックな検査が増加している開発途上国においても、顧客視点でのソリューションを提供し、ヘマトロジーNo. 1のポジションを強化します。

● ポートフォリオの拡充

凝固・尿・免疫や生化学分野の製品についても市場導入を推進します。免疫分野では主要項目の許認可も進んでおり、HISCL™の導入が進むとともに、市場でユニークなポジションを確立しつつあります。さらなる臨床的価値の提供により、尿やその他の分野でもシスメックスのプレゼンスを強化していきます。

● 専門性が高い人材の確保

戦略の実現に向けて、AP地域全域で専門性が高い従業員の維持に努めています。従業員が働きやすく、またエンゲージメントが高まるよう職場環境の改善を進めており、シンガポールでは「Best Company to Work in Asia」を2回受賞しています。

所在地別事業概要



## 日本 (海外関係会社への輸出含む)

検体検査領域のリーディングカンパニーとして、検査室全体の高度化や効率化、新しい検査項目の創出に取り組んでいます。

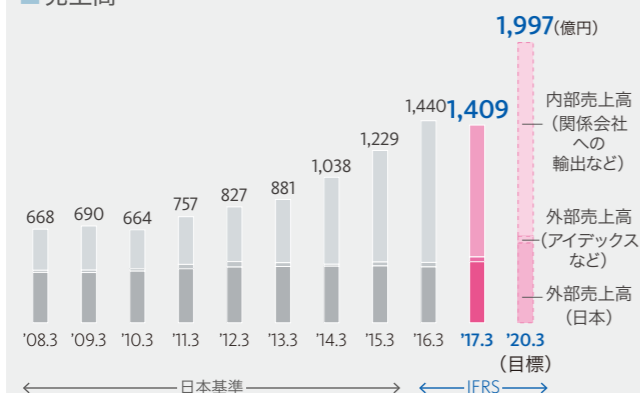
松井 石根

シスメックス株式会社 上席執行役員  
国内事業、海外事業副担当

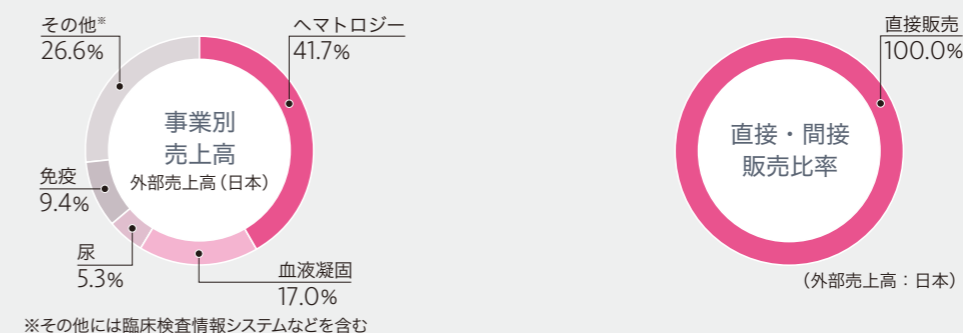


### 2017年3月期概況

#### ■ 売上高



- ▶ 日本所在地全体では、海外グループ会社向け内部売上が円高の影響などにより減収
- ▶ 営業利益は、グループ間取引価格の見直しや一過性要因、海外グループ会社向け輸出の円高影響などにより減益
- ▶ 主な事業別の状況
  - ・日本(外部売上高)は、ヘマトロジー・尿・免疫・凝固分野における試薬売上を中心とした伸長に加え、理研ジェネシス子会社化の影響もあり増収
  - ・アイデックス社向け動物用機器の売上は伸長



### 市場の特徴

#### ● 医療制度の整った環境を確立

国民皆保険制度により、全国民が平等に医療を受けられる環境が確立されています。また、どの医療機関を受診するか患者さんに選択の自由があることも特徴です。

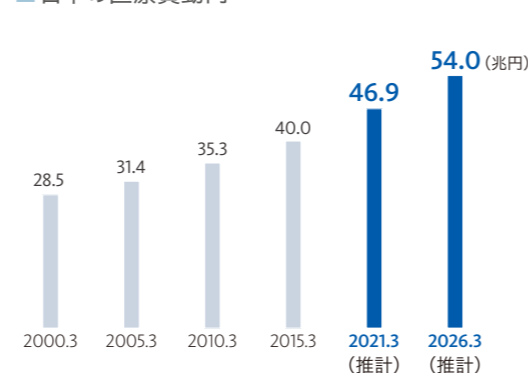
#### ● 世界一の少子高齢化国としての課題

上記のような医療制度も背景にあり、日本は世界でトップクラスの長寿国となっています。一方、出生率の低下にともない、世界一の少子高齢化国であり医療費抑制が喫緊の課題となっています。このような状況のもと、政府主導で病院の機能分化や地域医療連携推進への取り組みが始まっています。

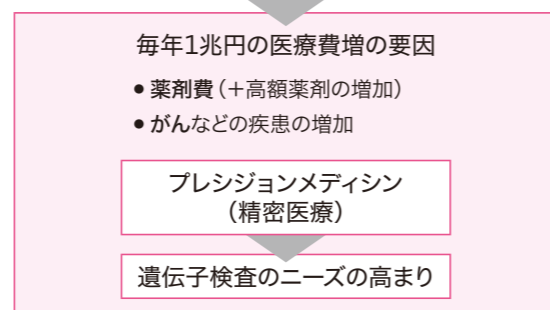
#### ● 個別化医療への需要

薬剤、がんなどに関する高度医療の費用が増加しており、治療の効果を予測できる個別化医療への需要が高まっています。また、より負担の少ない外科手術への要望が高まっており、医療用ロボット市場の拡大が予想されています。

#### ■ 日本の医療費動向



出典：厚生労働省「医療費の動向調査」(2015年度)「社会保障に係る費用の将来推計について」(2011年度)



### シスメックスの強み

#### ● 充実した販売・サービス&サポート体制

日本全国に支店・営業所を展開しており、他社の追随を許さない販売・サービス&サポート体制を構築しています。各エリアでは営業・学術・サービス担当者が連携してお客様へ価値を創出しており、充実したサービス&サポートが高い評価を得ています。

#### ● お客様の声を研究開発・生産部門と共有

研究開発拠点と生産拠点が距離的に近く、密接なコミュニケーションにより、お客様の声を共有し各事業プロセスに反映しやすい体制となっています。

#### ● 医療現場のニーズにお応えする付加価値を提供

高品質な機器、多様な試薬、検査情報を一元管理するソフトウェア、さらにサービス&サポートを組み合わせることで、医療現場の多様なニーズにお応えするトータルソリューションを提案しています。また、学術面における新たな価値の提供だけでなく、検査のワークフロー改善提案により医療機関の経済的価値の向上にも貢献できることが強みです。

### 中長期的な成長戦略

#### ● IVD市場における圧倒的 No. 1 ポジションの確立

コアビジネスの強化によりシスメックスのポジションをさらに強固なものにしていきます。

- ・ヘマトロジー分野の絶対的 No. 1 の維持
- ・尿分野の定性・沈渣一体型市場でのプレゼンス向上
- ・凝固線溶系試薬の販促強化
- ・免疫、肝疾患、感染症に特化した項目採用活動による試薬売上拡大

#### ● 新たなビジネスモデルの創造

ネクストコアビジネスにおいて新たな価値を提供していきます。

- ・個別化医療への貢献：遺伝子事業、クリニカルゲノム市場におけるブランドの確立
- ・地域医療体制の拡充：ICTを活用した地域包括ケアの支援による地域医療の拡充
- ・病院経営に対する新たな価値提案：病院経営へのコンサルティングによる新たな価値提供を実現

## 主な検査分野と製品

### ヘマトロジー(血球計数)検査 コアビジネス

ヘマトロジー検査は、血液中の赤血球や白血球などの数を測定することにより、精密な検査が必要か不要かを判断するためのスクリーニング検査のひとつです。ヘマトロジー検査は機器に加え、希釈液、染色液などの専用試薬が継続的に使用されます。

シスメックスは、基礎的な項目を測定できる白血球3分類モデルから、使用する試薬数が多く高い臨床的意義を提供できる白血球5分類モデル、さらに、大規模施設で大量検体を高速処理できるシステム製品まで幅広いラインアップの製品を揃えています。

近年は従来からの欧米の競合メーカーに加え、新興国メーカーなどの新規参入もありますが、シスメックスは充実した製品ポートフォリオや独自の臨床的価値の提供、他社と差別化したサービス&サポートを行っています。その結果、2007年にヘマトロジー分野でグローバルシェアNo. 1の地位を獲得し、現在も着実にシェアを伸ばしています。

なお、動物用検査分野においては、動物用自動血球分析装置をアイデックス社にOEM供給しています。



### 血液凝固検査 コアビジネス

出血を止める「血液凝固」、血管内で血液が固まりすぎることを防ぐ「凝固抑制」、固まった血液を溶かす「線溶」の機能を調べる血液凝固検査は、出血性疾患(血友病など)や血栓性疾患の診断、治療方針決定の補助、モニタリング、さらに手術前の出血・血栓リスク診断の補助として実施されます。

シスメックスは、1995年にシーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社(当時デイド・ベアリング社)と業務提携し、血液凝固製品の相互供給により販売・

サービス&サポートの強固な協力関係を構築しています。現在、血液凝固分野では、両社合わせて世界No. 1のシェアを占めています。



### 尿検査 コアビジネス

尿検査は、試験紙を尿に浸し、尿中の糖・タンパク・血球の有無などを分析する「尿定性検査」と、尿に含まれる血球や細胞などの有形成分を分析する「尿沈渣検査」の2種類に大きく分けられます。シスメックスは、尿沈渣検査分野において世界で初めてフローサイトメトリー※を用いた尿中有形成分分析装置UFシリーズを発売しており、世界シェアNo. 1を獲得しています。また、栄研化学株式会社との提携により尿定性分析装置をポートフォリオに加え、多様な尿検査のニーズにお応えしています。



### 生化学検査 コアビジネス

生化学検査は、血液中の酵素・糖・タンパクなどを化学的に分析することで、体の栄養状態や肝臓・腎臓の機能、動脈硬化などを調べる検査です。シスメックスは、日本電子株式会社および古野電気株式会社と提携し、中国を含むアジアにおいて、シスメックスのネットワークを活用した各社生化学自動分析装置の販売・サービス&サポートを行っています。



※フローサイトメトリー：微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を一列に流して、個々の粒子をレーザー光を用いて光学的に分析する手法のこと。

### 免疫検査 コアビジネス

免疫検査は、抗原抗体反応を利用して、HIV・肝炎ウイルスなどの有無やがんの罹患を調べる検査です。シスメックスは、感染症や腫瘍マーカーなどの検査試薬に加え、肝臓の線維化やアトピー性皮膚炎を検査する独自の検査試薬を充実させるとともに、微量の検体で高水準の感度・迅速測定(17分)を実現した全自動免疫測定装置HISCL™シリーズを日本および中国を含むアジアに展開しています。



### ライフサイエンス ネクストコアビジネス

シスメックスが開発したOSNA™法を用いて、がんのリンパ節転移を迅速に検査するシステムを提供しています。また、95種類の乳がん関連遺伝子の発現量を調べる研究用サービス「Curebest™ 95GC Breast」や、血液に含まれるごくわずかな遺伝子を高感度に検出するBEAMing技術を活用した受託アッセイサービスも展開しています。



### FCM ネクストコアビジネス

フローサイトメトリー(FCM)法※を応用し、白血病や悪性リンパ腫診断の詳細解析のために行う臨床的FCM領域や、食品などの品質管理に利用されるインダストリーFCM領域、培養細胞の機能解析などを研究用途で行うリサーチFCM領域で展開しています。

## ユーザーレポート：全自動免疫測定装置HISCL™-5000

### HISCL導入が検査の質向上とコスト削減に貢献



済寧医学院附属病院  
検査センター主任  
董海新先生

#### 済寧医学院附属病院

中国山東省済寧市の中心に位置し、医療・教育・科学研究・予防保健機能を集約した省管轄の3級クラスの総合病院。病床数3,100床、年間外来診察者数300万人の大規模施設。



#### Q. 1 HISCLを導入された経緯をお教えてください。

当院の検査科では、以前よりヘマトロジー、血液凝固、尿（沈渣）の検査機器・試薬は全てシスメックス製品を活用しており、シスメックス製品の品質・サービスを高く評価していました。免疫検査の測定は他社の装置を用いて行っていました。2015年に検査科の作業効率と質を高めることを目的に、感染症項目の測定装置切り替えを検討することになりました。

HISCLを本格的に知ったのは2015年のHISCL製品発表会でのことです。HISCLの特長（高感度、迅速測定、ワイドレンジ、微量検体など）は他にはない強みであり、そして高い生産性に強く惹かれました。その後、シスメックスおよび代理店からの提案に加えて中国国内のKey Opinion Leader（KOL）病院での使用実績を知り、導入を検討しました。2015年12月に公開入札を行い、グローバルメジャーが多数入札に参加する中、生産性の向上が最も優れていたHISCLが1位となり、当院への導入が決まりました。

#### Q. 2 HISCLを導入したことによるメリットをお教えてください。

HISCLの測定時間は、他社のものに比べ非常に速く、全ての項目で17分間となっています。病院の感染症項目の測定は1日当たり平均2,500件ですが、4台の機器で3.5時間あれば全処理を完了することができます。また、高感度で広い測定レンジによって測定エラー、グレーゾーンサンプルの誤判定、高値サンプル再測定も大幅に低減されており、臨床からのクレームも少なくなりました。さらに、スタッフの作業時間と患者さんの受診時間が大幅に短縮されました。当院の検査科のISO15189品質マネジメントシステムで掲げる「正確、高効率、安全、サービス」という品質方針に、まさに沿っているものといえます。また、HISCLの導入は、検査科が掲げる、「緊急時の免疫検査項目を1時間で報告する」という難題も解決しました。緊急手術、内視鏡手術、非開放性損傷手術、老年性骨粗しょう症などの手術前に速やかに検査する必要がある「手術前免疫8項目」の検査について、適切な検査報告をスピーディーかつ正確に出すことができます。

#### Q. 3 HISCLに関して、記憶に残っているエピソードをお教えてください。

何より印象深かったのは、営業担当者の「コストを削減し、質を高めたいのであれば、シスメックスにお任せください」という言葉を、私たち検査科で実感できたことです。検査科では、グローバルメジャーの免疫検査装置を複数有していますが、総合的に比較すると、HISCLの導入が「コストを削減し、質を高める」上で非常に大きな助けとなりました。

また測定結果に関しても、記憶に残っているお話があります。患者さんから「他の病院で別の分析装置によってHCVの検査を行った結果と当院の検査結果が違う」というご指摘を受けたことがありました。しかし、最終的に政府の医療機関での検査の結果、当院の検査結果（つまり、HISCL）が正しかったのです。この件以降、シスメックス製品の優れた品質に対する院内の評価は高まり、検査科も病院上層部から大いに認められ、評価されました。



#### Q. 4 シスメックスに対するご要望があればお聞かせください。

現在のシスメックスの製品とサービスにとっても満足しています。製品はもちろん、サービス&サポートにおいてもSNCSのようなユーザー本位の遠隔ネットワークサービスなどがあり、非常に心強く感じています。

数々の製品のユーザーとして今後シスメックスに期待することは、私たちのためにより良い検査製品の提供を続け、免疫の検査項目に関してもより多くより早く市場に提供することで、さらなる検査の質向上と検査のコスト削減を実現していただきたいと願っています。

またHISCLのプラットフォームにはシスメックス独自の検査項目が存在しますが、より正確かつスピーディーで臨床的価値の高いユニークな検査指標の確立に向け、臨床評価などへの協力を通じて、シスメックスとの協力体制を築けることを期待しています。

#### Q. 5 シスメックスの営業担当者へ一言お願いします。

シスメックスのスタッフはどなたも感じが良く、プロフェッショナルで仕事熱心です。当然のことながら、シスメックスの免疫分野の販売マネージャーは、私たちがHISCLを知り、それを評価し、使用するうえでの最初の紹介者となります。私たちは単に一つのブランド、一つの製品を選ぶものではありません。実際は、製品よりもまず人です。専門的なサービスを提供し、検査科の状況にもとづいた最適なソリューションを提案してくれるアドバイザーとして、私たちはシスメックスの営業担当者の方を高く評価しています。

## 企業価値向上に向けて

グループ企業理念「Sysmex Way」の  
実践を通じて社会に貢献し、持続的に  
企業価値の向上に取り組んでいます。



# CSRマネジメント

持続可能な社会の実現に向けて、  
事業活動を通じた社会課題解決に取り組んでいきます。

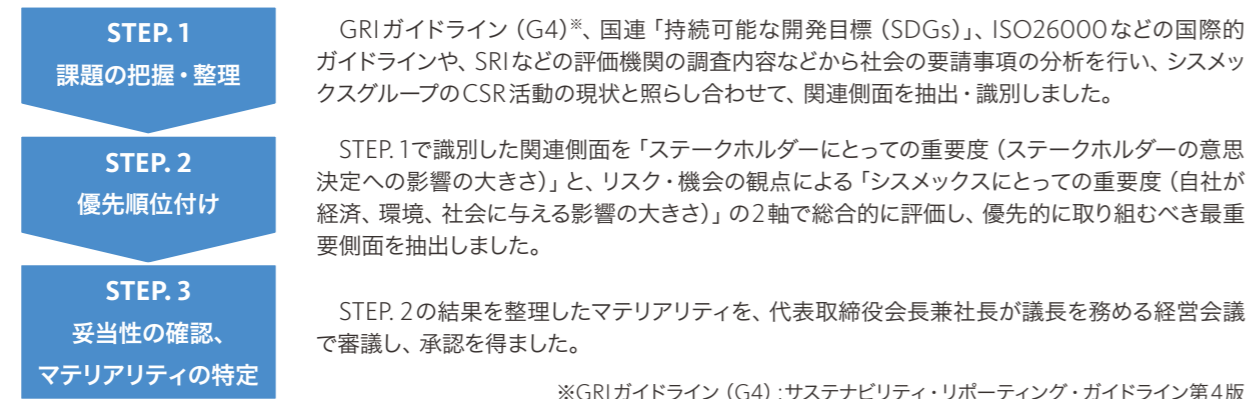
## マテリアリティを特定しアクションプランに展開

シスメックスのCSRとは、グループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様へ「安心」をお届けすることと考えています。CSRに関する主要テーマについては役員を委員長とする各種委員会を設置し、活動を推進しています。

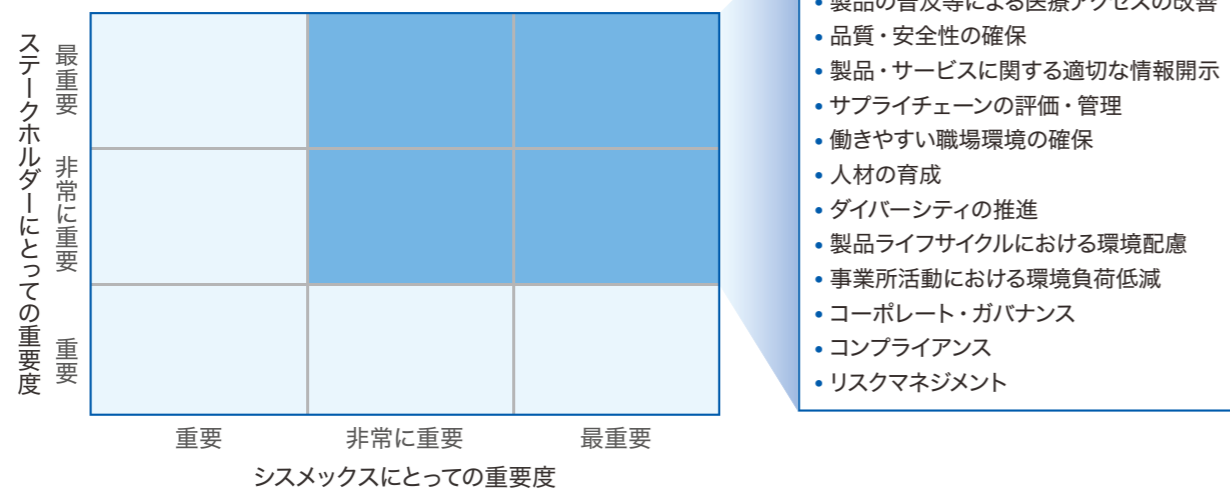
シスメックスの持続可能な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。特定したマテリアリティは、具体的なアクションプランに展開し取り組みを進めていきます。シスメックスのCSR活動の詳細はWebサイトをご覧ください。

2017年には、持続可能な社会の実現およびシスメックス

### ■ マテリアリティの特定プロセス



### ■ シスメックスのマテリアリティマトリックス



### ■ シスメックスのマテリアリティ

マテリアリティ	G4関連側面	関連するSDGの目標	掲載ページ
<b>製品・サービスを通じた医療課題解決</b> ● 事業活動を通じた医療課題解決 ● 製品の普及等による医療アクセスの改善	● 間接的な経済影響 ● 地域コミュニティ	  	P59
<b>責任ある製品・サービスの提供</b> ● 品質・安全性の確保 ● 製品・サービスに関する適切な情報開示 ● サプライチェーンの評価・管理	● 顧客の安全衛生 ● 製品およびサービスのラベリング ● 調達慣行 ● サプライヤーの環境評価 ● サプライヤーの労働慣行評価 ● サプライヤーの人権評価 ● サプライヤーの社会への影響評価	 	P61
<b>魅力ある職場の実現</b> ● 働きやすい職場環境の確保 ● 人材の育成 ● ダイバーシティの推進	● 雇用 ● 研修および教育 ● 多様性と機会均等 ● 男女同一報酬	 	P63
<b>環境への配慮</b> ● 製品ライフサイクルにおける環境配慮 ● 事業所活動における環境負荷低減	● 製品およびサービス ● 輸送・移動 ● 原材料 ● エネルギー ● 水 ● 大気への放出 ● 排水および廃棄物	   	P62
<b>ガバナンス</b> ● コーポレート・ガバナンス ● コンプライアンス ● リスクマネジメント	● ガバナンス ● 間接的な経済影響 ● コンプライアンス（環境・社会全般・製品責任） ● 腐敗防止 ● 反競争的行為	 	P65

### 社外からの評価

シスメックスは持続可能な企業として、社外からも高い評価をいただいています。

例えば、コーポレート・ナイツ社が選定する2017年版「Global 100」（世界で最も持続可能な100社）では70位（「Health Care Equipment & Supplies」では1位）に選ばれました。今回で2年連続、3度目の選出となります。また、ESG投資の指標として世界的に有名な「Dow Jones Sustainability World Index」や「FTSE4Good Index」をはじめ、その他代表的なSRI（社会的責任投資）インデックスにも選定されています。



## 製品・サービスを通じた医療課題解決

# 独自の技術やグローバルネットワークを活かして 医療課題の解決に貢献していきます。

### 高まる医療課題解決への期待

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の抑制や健康寿命の延伸に対するニーズが高まっています。一方、新興国では経済成長を背景として、より良い医療が求められています。また、開発途上国では人口増加に医療インフラの整備が追いついておらず、医療へのアクセス向上が課題となっています。さらに、マラリアなどの感染症への対応も課題として認識されています。こうした医療課題は国際社会共通の課題として認識されており、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康と福祉に関する目標が掲げられています。医療課題の解決へ向けて、グローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

### 医療課題解決に向けたシスメックスのアプローチ

シスメックスはグループ企業理念「Sysmex Way」のミッションである「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、新たな価値を生み出し、人々の「健康でありたい」という願いに応えていくことが使命であると考えています。

顧客ニーズに応じた製品ラインアップの拡充や正確で迅速な検査データの提供に加え、近年では個別化医療の実現に向けた先進的で価値の高い検査・診断技術の創出を目指した研究開発に取り組んでいます。また、新興国・開発途上国の医療アクセス向上に向けて、現地の医療の質を高める活動を推進しています。

独自の技術と190カ国以上に広がるグローバルネットワークを活かして、医療課題の解決に貢献することにより、持続可能な社会作りを実現していきます。

### SDGsとの関わり

国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。その中の目標3「すべての人に健康と福祉を」では、以下の実現が求められています。



- 妊産婦の死亡率を低下させる
  - 新生児および5歳以下の死亡率を低下させる
  - エイズ、結核、マラリアなどの伝染病を根絶するとともに  
その他感染症に対処する
  - 非感染性疾患による若年死亡率を低下させる
  - 質の高い基礎的な保健サービスおよび医薬品・ワクチン  
へのアクセスを向上させる
  - 開発途上国における保健人材の能力開発・訓練を推  
進する
- など

### 独自の技術により、医療課題を解決する製品

#### ●取り組み例1：認知症予防、診断への貢献

シスメックスは、先進的で価値の高い診断技術の提供を目指し、イノベーションの創出に取り組んでいます。そのひとつが、エーザイ株式会社と提携して研究開発を進めている血液検査によるアルツハイマー型認知症診断の実現です。

世界の認知症人口<sup>※</sup>は、2015年の4,680万人から2030年には7,470万人にも増加すると予想されており、高齢化が進むなか深刻な問題となっています。

認知症の中でも最も多いアルツハイマー型認知症は、治療満足度が低い疾患のひとつであり、その診断は脳画像検査や脳脊髄液検査などにより行われる場合がありますが、高額な検査費用および患者さんへの身体的な負担が課題とされています。シスメックスは、血液検査で病態に影響を及ぼすとされている微量タンパク質の構造異常や量を検出し、早期診断および治療を可能とすることを目的として製品の開発に取り組んでいます。

※出典：国際アルツハイマー病協会 2015年レポート

#### ■リキッドバイオプシーによるアルツハイマー型認知症検査の実現



患者さんの身体的・精神的・経済的負担軽減に貢献

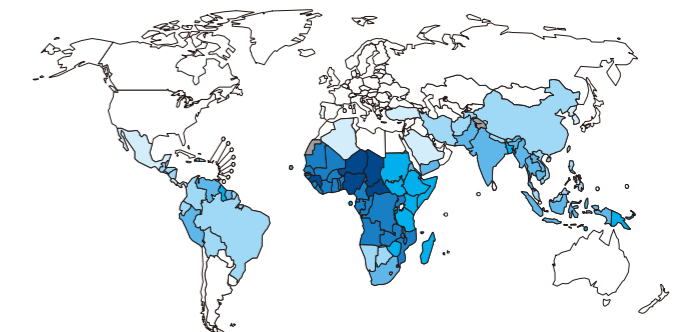
#### ●取り組み例2：感染症の診断支援へ向けた貢献

マラリアは世界で約2億人の罹患者数があり、死亡者数は年間約60万人とされています。マラリアは、重症化して死に至る熱帯熱マラリアと、それ以外のマラリアを鑑別することが診断、治療において非常に重要です。しかし、現在の検査方法である顕微鏡検査では経験と熟練の技術が必要となるため、簡便かつ迅速に鑑別・診断できる新しい技術の開発が求められています。

シスメックスは、既存の自動血球分析装置の技術を活用し、マラリア原虫などが感染した赤血球を約1分で測定する多項目自動血球分析装置XN-30を開発しました。当製品は現時点では研究用途のみの使用に限られていますが、将来的には基礎研究から臨床まで幅広い領域での活用が期待されます。

#### ■マラリア流行地域

罹患者数：1億9,800万人／年  
死亡者数：58万人／年



人口10万人当たりマラリアによる死亡者数 (2013年)

- 100人以上
- 50-99人
- 10-49人
- 1-9人
- 1人未満
- マラリア患者数0
- 該当なし
- マラリアによる推定死亡者数0

出典：WHO『World Malaria Report 2014』



多項目自動血球分析装置 XN-30

## 責任ある製品・サービスの提供

ヘルスケア企業として、製品・サービスの品質向上と安定供給に努めています。

### 品質向上と安定供給を実現する体制構築

シスメックスは、創業以来、お客様・取引先の皆様に安心をお届けすることを大切にしてきました。臨床検査で用いられるシスメックス製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品・サービスの品質と安全性の確保および安定供給は非常に重要だと考え、これらを実現する体制を整備しています。

例えば、製品の品質と安全性の向上に向けた情報共有を行う安全性情報部門を設置しています。お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの関連部門と共有することで、品質の改善や新製品の開発などに活かしています。

### サプライチェーンマネジメントの強化

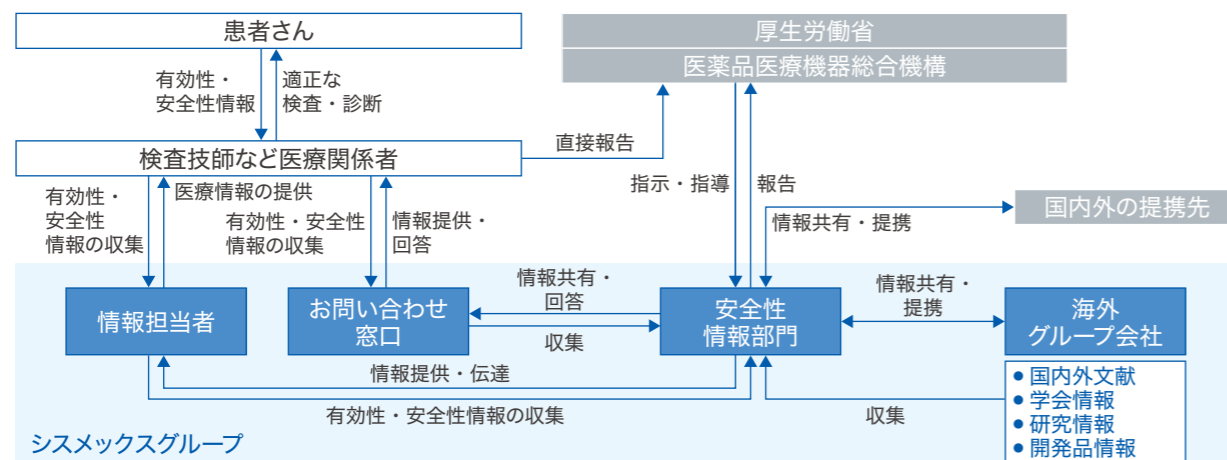
お客様に高品質な製品を安定的にお届けするためには、取引先の協力が必須です。シスメックスは、取引先

の選定や調達取引の基本的な考え方を示す「調達方針」を制定し、これに沿ったバリューチェーンの構築を推進しています。また、シスメックスの事業の方向性や調達方針をご確認いただいたうえで取引ができるよう取引先との関係強化に努めています。なお、取引先におけるCSR活動の状況を確認するために、2017年3月期は既存の取引先約280社に対してCSR調査を実施しました。

### 安定供給体制の構築

検査が止まると、医師は患者さんを正確に診断することができなくなります。そのため、検査のたびに使用される試薬の安定供給が不可欠です。災害時であっても試薬の供給を滞りなく行うために、海外生産の強化や主要原材料購買先の複数化によるリスク分散を進めるとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築を進めています。また、製品供給に対するBCP社内マニュアルの整備と、模擬訓練も実施しています。

### 製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



## 環境への配慮

環境に配慮した事業活動を行うとともに、お客様の製品使用時の環境負荷低減にも貢献していきます。

### 長期環境目標を定め取り組みを実施

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つとして捉え、長期環境目標「シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)」を策定しています。

製品・サービスなどの環境配慮においては、海外輸出の航空便から海上輸送への切り替えや製品梱包サイズの最適化によるコンテナ積載率向上などにより、物流のCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減しました。また、環境

に配慮した製品を提供することでお客様の製品使用時の環境負荷低減への貢献を目指しています。2015年に発売した全自動尿中有形成分分析装置は、環境・安全性に配慮した試薬に切り替えたことで、廃液の中和剤処理が不要になりました。

さらに、温室効果ガス排出量削減やリサイクル率向上に向けた施策など、事業所での環境負荷低減にもグローバルに取り組んでいます。

### シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)と2017年度実績

シスメックス・エコビジョン2020	2017年3月期 実績と主な取り組みなど (対基準年度比較)
<b>【製品・サービス等の環境配慮】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮した製品・サービスの提供</li> </ul>	<b>実績：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新製品開発において、省電力、小型化の取り組みを継続</li> <li>・脱動物由来原料の試薬開発を継続</li> <li>・濃縮試薬採用により、試薬交換回数を低減し廃棄物を削減</li> <li>・廃棄物削減につながるリユース梱包材の対象機種追加 など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内・域間物流のCO<sub>2</sub>排出量50%削減 (単体売上高原単位) 基準年度 2010年度</li> </ul>	<b>実績：</b> 32%削減(4.937t-CO <sub>2</sub> /億円) <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外輸出における航空便から海上輸送への切り替え推進</li> <li>・製品梱包サイズ適正化や積載シミュレーション徹底によるコンテナ積載率向上</li> </ul>
<b>【事業所の環境配慮】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業所における温室効果ガス排出量50%削減 (連結売上高原単位) 基準年度 2008年度</li> <li>● 事業所のリサイクル率93%以上の達成</li> <li>● 試薬工場の水使用量10%削減 (生産量原単位) 基準年度 2008年度</li> </ul>	<b>実績：</b> 27%削減(7.36t-CO <sub>2</sub> /億円) <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産効率改善による電力消費削減(シスメックス国際試薬)</li> <li>・太陽光発電利用によるCO<sub>2</sub>排出量削減(ドイツ試薬生産工場、アイスクエア) など</li> </ul> <b>実績：</b> 91.8% <ul style="list-style-type: none"> <li>・購買品の包装材料の再利用(シスメックス 無錫) など</li> </ul> <b>実績：</b> 18%増 <sup>*</sup> (25.4m <sup>3</sup> /千箱) <ul style="list-style-type: none"> <li>・超純水プラント改良によるRO水(純水)排水の再利用(シスメックス アジア パシフィック)</li> <li>・浄化処理後の工場排水の再利用(シスメックス インディア)</li> </ul> ※工場拡張、生産量の増加にともない水使用量が増加しています。引き続き生産工程の効率化などの対策を進めていきます。

シスメックス・エコビジョン2020の目標達成に向けた中期目標や詳細な取り組みについてはWebサイトをご覧ください <http://www.sysmex.co.jp/csr/>



## 魅力ある職場の実現

# 多様な人材の育成と、 魅力的で働きやすい職場環境づくりに 取り組んでいます。

### 魅力ある職場の実現

シスメックスは人材を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、多様な人材の獲得や育成への投資を行っています。人材開発体系を用いた継続的、計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、働きやすさを向上させるための各種制度の導入などを通じて、多様な人材が能力を最大に発揮できる職場環境の整備を進めるとともに、個々の従業員に成長の機会を提供しています。

これらの取り組みにより、長期経営目標のポジショニングの一つである従業員を含むステークホルダーの皆様へ「価値と安心を提供する魅力あふれる会社」の実現を目指します。

### グローバルな人材育成の推進

シスメックスは、グループ従業員数が約8,000名、海外従業員比率55%以上、世界40カ国以上にグループ会社を有するグローバル企業です。こうしたグローバル化の進展にともない、世界中の従業員に対して成長の機会を提供していくため、2015年3月期にグループ共通の人材開発体系である「グローバル人材開発体系」を制定しました。また、同年に人材育成および交流の拠点として、「グローバルコミュニケーションセンター」を兵庫県芦屋市に開設し、グループ一体感の強化、次世代人材の育成、グループ間ネットワークの強化や異文化理解を狙いとした取り組みを推進しています。

#### グローバルな人材交流の取り組み

グループ間の人材交流促進を目的とし、2012年からグローバルエクステンジプログラムを開始しました。従業員同士による「Sysmex Way」についての対話、各地域の紹介、お客様訪問などを通じてお互いの理解促進を図り、グループの一体感醸成を図っています。2017年3月期には11カ国から計20名の従業員が来日し、プログラムに参加しました。

#### 参加従業員の声



シスメックス コロンビア  
Andres Camperos

「世界各国のシスメックス従業員と交流することにより、「Sysmex Way」やグローバルな事業展開への理解を深めることができ、とても貴重な機会となりました。」



### 多様性の推進

多様性の尊重に向けた取り組みの一環として、国籍、人種、性別、障がいの有無に関係なく、従業員一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮できる職場環境づくりを目指しています。

特に、女性活躍の推進については、仕事と育児の両立支援に向けた休暇制度、在宅勤務制度、社内託児所の運営などに取り組んでいます。その結果、シスメックス株式会社における女性管理者比率は8.8%（2年間で2.3ポイント増）、グループ全体では16.2%（同4.6ポイント増）に上昇しました。

また、シスメックスは障がい者の方々にとって働きやすい職場環境を整えるためにバリアフリー設備の導入などを推進しています。2017年4月には、地域共生社会の実現に向けた障がい者雇用を促進するための新会社シスメックスハーモニー株式会社を設立しました。

項目		2015.3 2016.3 2017.3 (%)		
女性管理職比率 (課長級以上)	シスメックス株式会社	6.5	8.3	8.8
	グループ全体	11.6	14.3	16.2



社内託児所「キッズパーク」

#### 能力を発揮できる職場環境の整備(社外からの評価)

多様な人材が働きやすい環境を整えるため、世界各地でワークライフバランスの支援を進めています。その結果、従業員の満足度が向上するとともに、社外からも高い評価をいただいています。

- 働きがいのある会社「Great Place to Work」  
シスメックス ヨーロッパ(2012年、2014年、2016年)  
シスメックス ブラジル(2014年)
- 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業  
「Companies That Care Honor Roll」  
シスメックス アメリカ(2009年～2017年)
- 働きやすい会社「HR Asia Best Companies to Work for in Asia」  
シスメックス アジア パシフィック(2015年、2016年)  
シスメックス マレーシア(2016年)
- 日経「人を活かす会社」ランキング  
シスメックス株式会社(2016年)総合ランキング27位/462社
- 健康経営優良法人2017(大規模法人部門)～ホワイト500～認定  
シスメックス株式会社(2017年)
- 女性活躍推進「えるぼし」最高ランク(3段階目)を取得  
シスメックス株式会社(2016年)



「Great Place to Work」を受賞したシスメックス ブラジル社員



## コーポレート・ガバナンス

経営の健全性・透明性を高めることにより、  
グループ全体の企業価値の最大化を目指しています。

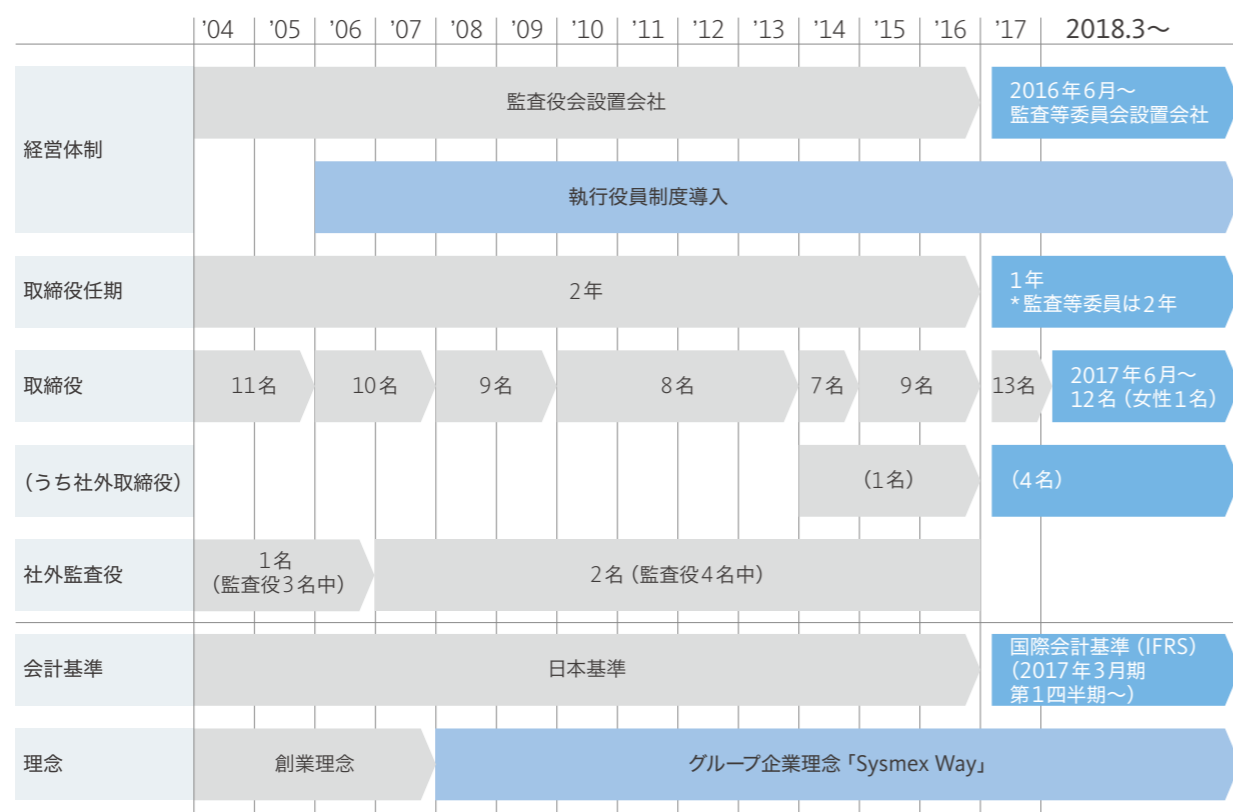
### 経営体制

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題のひとつとして位置づけています。グループ企業理念「Sysmex Way」にもとづき、経営の健全性・透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させるための体制を採用しています。2016年6月より「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」へ移行しました。監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つことなどにより、取締役会の監査監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させ、コーポレート・

ガバナンス体制の一層の充実を図っています。さらに、社外取締役の選任による取締役会の監査・監督機能の強化を図っています。

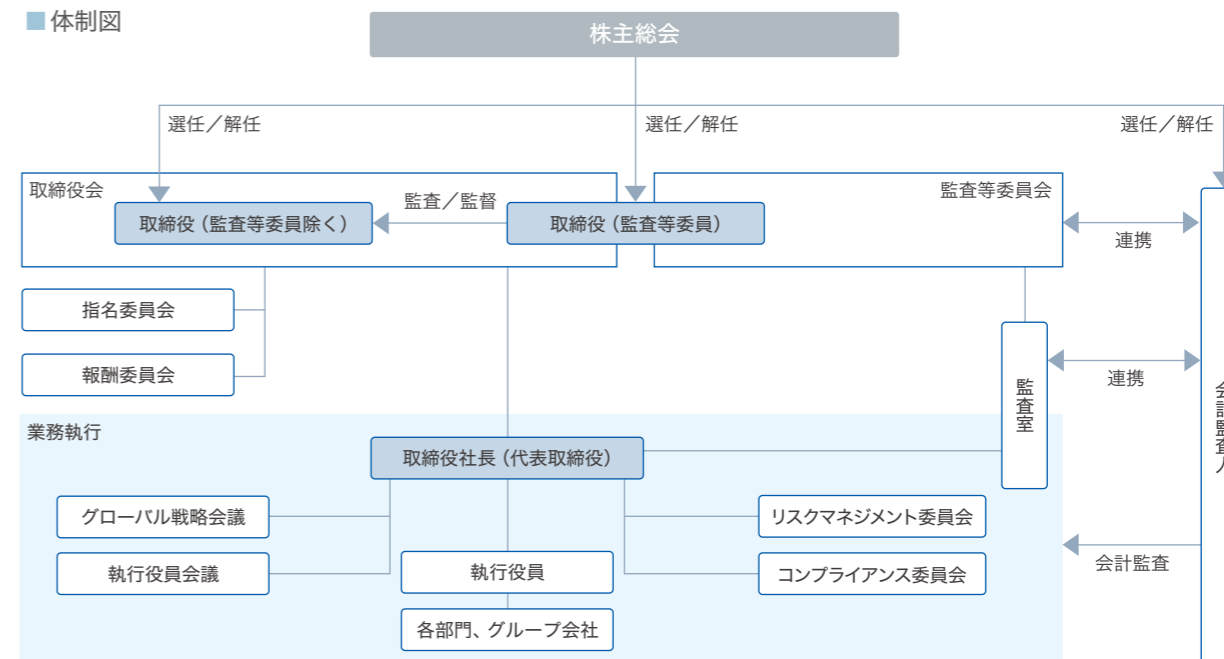
現在の経営体制は、取締役12名（うち社外取締役4名）、取締役のうち監査等委員3名（監査等委員のうち社外取締役2名）、執行役員18名（うち取締役兼任6名）にて構成されています。なお、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。

### ■コーポレート・ガバナンスの進化



(注) 3月31日に終了した会計年度

### ■体制図



会議名	内容	構成	2017年3月期 開催回数
取締役会	経営に関する重要事項を審議	取締役	16回 (出席率100%)
グローバル戦略会議	グループの経営の方向性や重要な戦略上の課題を審議	取締役社長と担当執行役員	13回
執行役員会議	取締役社長の意思決定のための諮問機関としてグループの業務全般にわたる重要事項を審議 (注)2017年4月より、オペレーション上の重要な案件に関する問題解決を図るため、上記に加えて執行役員による会議を開催	取締役社長と執行役員  執行役員	15回  —

### 取締役会の実効性評価

当社は、取締役会の実効性を高めることを目的として、全ての取締役（監査等委員を含む）へのアンケート調査、その結果を踏まえた取締役会での審議により、取締役会の実効性評価を実施しました。分析・評価結果の概要は以下のとおりです。

**(構成)** 取締役会の規模、独立社外取締役の割合、資質や多様性は概ね適切である。

**(運営)** 取締役会の議題を十分に議論するために必要な情報提供は概ね適切である。実効性のさらなる向上を図るべく、資料の事前配布の徹底や、論点の整理、背景を理解するうえで必要な関連情報の提供など、

運用改善にも取り組んでいる。

**(議題・審議の状況)** 取締役会で取り扱われている議題や審議時間は適切であり、各取締役がその知識・経験を活かし、議論は適正に行われている。

各取締役からは取締役会にて討議・報告されるべき事項や、取締役会の運営、必要な資料について提言がなされ、これらの提言については取締役会の運営課題として対応していくと同時に、中長期的な課題については引き続き取締役会の中で議論していくこととしました。

当社取締役会は、今後も定期的に評価を行い、さらなる実効性の向上を図ります。

## コーポレート・ガバナンス

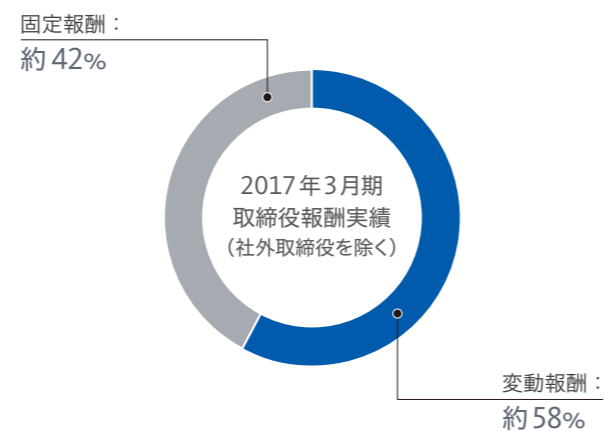
### 監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員3名のうち2名が社外取締役です。監査等委員は、取締役会に加え、グローバル戦略会議および執行役員会議などに出席するなど、取締役の職務執行を適正に監視できる体制をとっています。また、監査等委員会は、内部監査部門の活動内容などを踏まえ、必要に応じ内部監査部門に対し指示できる体制をとっています。

なお、会計監査人とは、会計監査計画報告（年次）および会計監査結果報告（年次）の他、財務報告に係る内部統制監査実施など、必要の都度相互の情報交換・意見交換を行うなど連携を密に行っています。

### 役員報酬(2017年3月期)

役員の報酬などの額またはその算定方法の決定に関する方針は、成果責任を明確にした業績連動型の報酬制度です。取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬を固定報酬と変動報酬に大別し、固定報酬については役位をもとに決定、変動報酬については成果に応じて配分しています（ストックオプション含む）。なお、取締役（監査等委員会）、監査役、社外役員については固定報酬のみです。取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬額は報酬委員会にて審議した後、取締役会に上程し決定しています。



#### ■役員報酬の内容(2017年3月期)

役員区分ごとの役員報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役(監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	638	260	—	377	—	8
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	18	18	—	—	—	1
監査役*(社外監査役を除く)	9	9	—	—	—	2
社外役員	26	26	—	—	—	5

※2016年3月期まで監査役会設置会社

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の額(百万円)				報酬等の総額 (百万円)
			基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
家次 恒	取締役	提出会社	59	—	129	—	188

### コーポレートガバナンス・コードへの対応

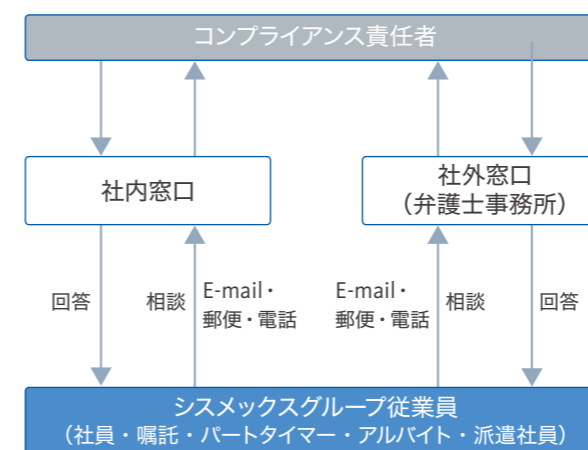
シスメックスは、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」の各原則の全てを実施しています。なお、東京証券取引所に提出した報告書はWebサイトにて公開しています。

### コンプライアンス

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」にもとづき、コンプライアンスを「法令遵守とともに、高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義しています。また、グループ全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定し、教育、浸透を進めています。具体的には、研究開発に関する倫理、贈収賄禁止、世界人権宣言など配慮すべき国際規範の支持や地球環境保全に関する考え方を記載しています。

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設置し、コンプライアンス上の問題の早期解決を図るようになっています。国内の内部通報制度「カンパニユライン」では、社内・社外の2つの窓口で相談や通報を受け付け、寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。

#### ■内部通報制度「カンパニユライン」



2016年3月期にはコンプライアンスの推進体制と運用状況について外部機関による評価を実施し、この結果をもとに2017年3月期は、主に海外のシスメックスグループの内部通報制度の改善・拡充を行いました。

### リスクマネジメント

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー」を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置しています。当委員会では、グループとして事業に与える影響が大きい重要リスクの特定や、各部門・関係会社実施するリスクマネジメント状況のモニタリングを行うとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼす危機が発生した場合は、その対応について審議しています。

災害対策に対しては、危機発生時における社会的責任の遂行と安定的な製品供給やサービスの提供を実現するために、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画(BCP)を策定しています。BCPでは、危機発生時でも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対策基本規程などの災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。

情報セキュリティに対しては、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つとみなし、その顕在化防止に取り組んでいます。2017年3月期には、情報の安心と安全を確保するための方針をより明確にするために、全グループ会社共通の情報セキュリティに関するグローバル規程を制定しました。当規程の制定により、情報漏えいやサイバー攻撃被害への組織的な対策がより強化されました。

## コーポレート・ガバナンス

### 企業価値向上のためのIR活動

シスメックスはIR活動を企業経営における重要な活動のひとつであると認識し、適宜適切な情報開示を行っています。さらに、株主および投資家の皆様との直接対話を通して、シスメックスに対する社外評価や要望を迅速に経営層へフィードバックする体制を整えています。

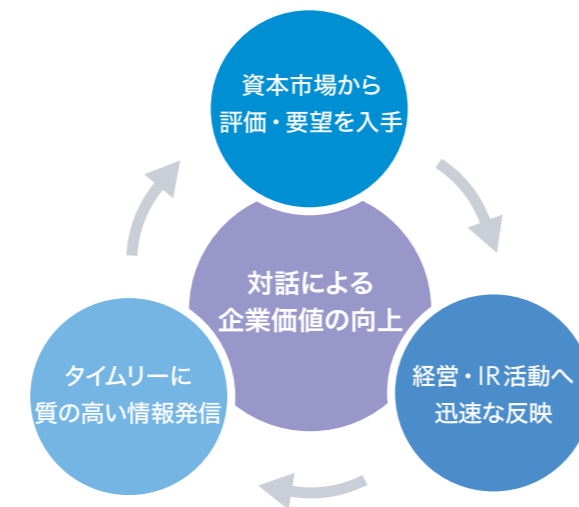
機関投資家およびアナリストの皆様とのミーティングでは、経営戦略やビジネスモデル、中長期経営計画に加え、研究開発、株主還元、資本政策などのテーマについて積極的に対話（エンゲージメント）を行っています。シスメックスは、神戸に本社を置く企業ですが、東京をはじめ米国、欧州およびアジア各国を訪問しIRミーティングを行っています。2017年3月期は延べ325件のミーティングを行いました。

その他、施設見学会や国内事業所見学会など、シスメックスの取り組みを直接ご覧いただく機会を設けています。2017年3月期は、初めての試みとしてIR Dayを人材開発拠点において開催し、シスメックスの企業文化や人材など見えない価値、さらに注力している個別化医療の事業戦略についてご理解いただく機会を設けました。また、技術説明会では、研究開発拠点において、研究開発中の実機紹介を行いました。

一方、個人の株主、個人投資家の皆様には、株主通信やWebサイトの各種映像コンテンツなどを通して、わかりやすい事業内容の紹介に努めています。

また、説明会や株主通信を通じて、定期的にアンケートを実施し、その結果を経営層へフィードバックすることで、株主様や市場の評価を適切に経営へ反映しています。

#### ■シスメックスのIR活動の目的



#### ■主なIRイベント

イベント	内容
技術説明会	研究開発の進捗について研究開発部門責任者から説明 2017年3月期は、研究開発拠点「テクノパーク」において実機紹介を実施
Sysmex IR Day (事業所見学会)	隔年開催 2017年3月期は、企業文化や人材などの見えない価値、個別化医療の事業戦略について解説
海外施設見学会	隔年開催 実際に製品を利用いただいている病院などの施設の見学、および現地法人責任者による市況やシスメックスの強みなどの解説
個人株主様向け会社見学会	機器生産工場などの事業所見学
個人投資家様向け会社説明会	経営トップやIR担当者による国内主要都市での会社説明
IRミーティング	証券会社主催カンファレンスへの参加や米国、欧州、アジア各国での機関投資家訪問など、国内外の投資家、アナリストとのミーティング

### 積極的な情報開示

シスメックスは、決算説明会およびカンファレンスコールを開催している他、決算補足資料として業績を所在地別、事業別、品目別に開示するなど自主開示を積極的に行っています。また、技術説明会を毎年開催し、研究開発の成果ならびにシスメックスの将来性をお伝えしています。

なお、2017年3月期決算から国際会計基準（IFRS）を任意適用しています。財務情報の国際的な比較可能性の向上により、株主・投資家の皆様の利便性を高めることを目的としています。



個人株主様会社見学会

#### ■主な受賞歴（IR活動）

主催	受賞名
Institutional Investor	「Institutional Investor 2017」の日本のヘルスケア・医薬部門において、「Best CEOs」「Best IR Professionals」など5項目でランクイン
日本IR協議会	第20回「IR優良企業大賞」（応募企業263社のうち大賞は2社のみ）
日本証券アナリスト協会	証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定（平成27年度） 「業種別部門（医薬品）」1位／「個人投資家向け情報提供における優良企業」1位

## 取締役



**家次 恒**  
代表取締役会長兼社長  
1986年9月 当社入社、取締役  
1990年3月 常務取締役  
1996年2月 代表取締役常務取締役  
1996年4月 代表取締役専務取締役  
1996年6月 代表取締役社長  
2013年4月 代表取締役会長兼社長(現任)

**選任理由**  
長年にわたりグループ全体の経営の指揮を執り、強いリーダーシップを発揮。経営者としての見識、豊富な経験と実績に加え、企業価値向上に必要な経営全般の監督と意思決定のバランス感覚を有しているため。



**中島 幸男**  
取締役 専務執行役員  
コーポレートスタッフ担当  
1973年4月 当社入社  
1999年6月 取締役経営企画本部長  
2005年4月 取締役執行役員経営企画本部長  
2009年4月 取締役常務執行役員  
2013年4月 取締役専務執行役員(現任)

**選任理由**  
長年にわたり経営企画・経営管理・IR・人事・総務などの企画管理部門に携わり、経営基盤の強化に貢献。豊富な経験と幅広い見識は、今後の当社グループの企業価値向上に必要なため。



**浅野 薫**  
取締役 専務執行役員  
研究開発、ネクストコア事業担当  
1987年8月 当社入社  
2009年4月 執行役員中央研究所長  
2011年4月 執行役員研究開発企画本部長  
2013年4月 上席執行役員  
2014年6月 取締役上席執行役員  
2015年4月 取締役常務執行役員  
2017年4月 取締役専務執行役員(現任)

**選任理由**  
長年にわたり研究・技術開発に携わり、事業展開に貢献しており、これらの知識や見識を生かした新たな研究開発は今後の企業価値向上に必要なため。



**山本 純三**  
取締役 常務執行役員  
生産SCM担当  
1980年3月 当社入社  
2011年4月 執行役員機器生産本部長  
2015年4月 上席執行役員  
2017年4月 常務執行役員  
2017年6月 取締役常務執行役員(現任)

**選任理由**  
長年にわたり機器生産・サプライチェーンに携わり、生産体制基盤の強化に貢献しており、その経験や見識は今後の企業価値向上に必要なため。



**西浦 進**  
社外取締役 独立役員  
1969年4月 東亜特殊電機株式会社(現TOA株式会社)入社  
1998年6月 TOA株式会社取締役  
2004年10月 同社取締役常務執行役員  
2008年6月 同社取締役専務執行役員  
2010年6月 同社取締役専務執行役員退任  
2013年6月 当社社外取締役(現任)

**選任理由**  
企業経営などの豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験や見識を当社の経営に活かしていただくため。



**高橋 政代**  
社外取締役 独立役員  
1992年10月 京都大学医学部附属病院眼科 助手、医学博士  
2001年10月 京都大学医学部附属病院 探索医療センター開発部 助教授  
2006年4月 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 網膜再生医療研究チーム チームリーダー  
2014年11月 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー(現任)  
2016年6月 当社社外取締役(現任)

**選任理由**  
臨床医・研究者として先進医療、医療倫理などに関する豊富な知見と幅広い見識を有しており、その知見や見識を当社の経営に活かしていただくため。



**立花 健治**  
取締役 専務執行役員  
事業戦略、コア事業担当  
1980年3月 当社入社  
2011年4月 執行役員IVD事業戦略本部長  
2013年4月 上席執行役員  
2014年6月 取締役上席執行役員  
2015年4月 取締役常務執行役員  
2017年4月 取締役専務執行役員(現任)

**選任理由**  
事業戦略や海外事業に携わり、戦略的かつグローバルな事業展開に貢献しており、当社の基盤事業の成長を通じた今後の企業価値向上に必要なため。



**尾辺 和也**  
取締役 常務執行役員  
国内事業、海外事業担当  
1991年4月 当社入社  
1996年4月 トーア メディカル エレクトロニクス(ヨーロッパ)ゲーエムベーハー(現シスメックス ヨーロッパゲーエムベーハー)社長  
2002年10月 シスメックス コーポレーション オブ アメリカ(現シスメックス アメリカ インク)会長  
2005年4月 執行役員 シスメックス アメリカ インク 副会長兼CEO  
2009年6月 取締役執行役員  
2013年4月 取締役常務執行役員(現任)

**選任理由**  
複数の海外統括現地法人責任者を歴任するなど長年にわたり海外事業に携わり、グローバルな事業展開に貢献しており、その豊富な経験や見識は今後の企業価値向上に必要なため。



**渡辺 充**  
取締役 常務執行役員  
学術、バイオ診断薬技術担当  
1980年3月 当社入社  
2005年4月 執行役員研究開発企画本部長  
2009年6月 取締役執行役員  
2013年4月 取締役常務執行役員(現任)

**選任理由**  
長年、商品・市場開発に携わり、事業展開に貢献しており、その幅広い知識は今後の企業価値向上に必要なため。



**釜尾 幸俊**  
取締役(監査等委員)  
1978年3月 当社入社  
2013年4月 執行役員 経営管理本部長  
2016年6月 取締役(監査等委員)(現任)

**選任理由**  
長年にわたり経営管理に携わった経験と企業経営に関する専門知識を有しており、監査監督機能向上に必要なため。



**大西 功一**  
社外取締役(監査等委員) 独立役員  
1971年7月 株式会社神戸製鋼所入社  
2002年6月 同社執行役員  
2004年4月 同社常務執行役員  
2007年4月 同社専務執行役員  
2010年6月 同社専務執行役員退任  
2010年6月 日本高周波鋼業株式会社 代表取締役社長  
2013年6月 同社相談役  
2014年6月 当社社外監査役  
2016年6月 当社社外取締役(監査等委員)(現任)

**選任理由**  
企業経営などの豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験や見識を当社の監査などに活かしていただくため。



**梶浦 和人**  
社外取締役(監査等委員) 独立役員  
1972年9月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所  
1989年6月 サンワ・等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)パートナー就任  
2013年1月 有限責任監査法人トーマツ 退職  
2016年6月 当社社外取締役(監査等委員)(現任)

**選任理由**  
公認会計士としての専門知識・経験などを有しており、グローバル企業の指導や監査などの幅広い経験を通じて取締役会の健全性・透明性の確保や監査監督機能の充実などに貢献していただくため。

## 社外取締役メッセージ

社外取締役 西浦 進



シスメックスの取締役会では、自由で活発な発言を促すことで多様な意見を取り入れようとしており、コーポレート・ガバナンスが実践されていると感じています。私は社外取締役として、業務執行において一般株主をはじめとしたステークホルダーの皆様への配慮がなされるよう監督し、企業価値向上に向けて自身の役割を果たしていきたいと考えています。今後さらに適切な判断ができるよう、取締役会でのコミュニケーションを増やし意思決定プロセスなどを明確にするよう努めています。

また、シスメックスは既存分野では大きく成長し他社が簡単に追随できない強みがある一方で、医療技術の急速な進歩の中で、次の中核事業をいかに早く構築できるかが課題だと考えています。持続的成長への布石は長期経営目標、中期経営計画でも打っていますが、それらの達成に向けた事業ポートフォリオの変革に企業として適切に対応できるよう、積極的に発言することを心掛けています。

社外取締役 高橋 政代



常に新しい技術・概念・手法やシステムを取り入れ医療を発展させようとするシスメックスの姿勢が、私の仕事に対する思いと一致しており、昨年社外取締役に就任してから、会社の前進を心から応援する気持ちで業務を遂行しています。

シスメックスは、これまで創薬や治療開発のルールとは違う別の観点から医療の発展に貢献しており、その経験や業績、前向きな姿勢は大きな強みです。一方で、技術革新が著しい今日において、技術が最先端であればあるほどそれを事業化し会社の業績に貢献するまでの時間をいかに短縮するかが課題であると感じています。将来にわたる持続的成長のためには、最先端の技術を吸収して新しい分野にチャレンジする精神が必要ですが、シスメックスの強みを活かして、常に攻めの姿勢を忘れず成長を続けて欲しいと思います。

今後もシスメックスの発展が世界の医療向上に貢献できるよう、私自身の医療現場と治療開発における長年の経験を活かし、アカデミアや医療現場の客観的な観点から経営への助言を続けていきたいと思っています。

社外取締役(監査等委員) 大西 功一



シスメックスは昨年度より監査等委員会設置会社へ移行しましたが、監査役に議決権が与えられたことにより、取締役会での発言権が強化されました。また、監査等委員会は経歴の異なるメンバーによりバランスよく構成されているため、さまざまな角度から監査ができており、有効に機能していると感じています。その中で私は長年製造業に従事してきた経験を活かし、コスト管理、品質管理、安全衛生、環境防災などに重点を置き、特に内部統制やリスクマネジメントの観点から業務を遂行しています。

今回、シスメックスは減収減益となりましたが、為替などの外的要因だけではなく、今後の成長の柱となる新規事業の推進などにも課題があったのではないかと考えています。今後のさらなる成長に向けて、社長の卓越した経営感覚やリーダーシップだけではなく、従業員一人ひとりが「Sysmex Way」を意識し、計画達成に向け情熱と強い意志を持って業務に取り組むことが必要だと感じています。私としても、法令違反などのマイナスの有無をチェックするだけではなく、攻めの姿勢があるかの観点も加味して監査を行っていくことが必要だと思っています。

社外取締役(監査等委員) 梶浦 和人



私は長年にわたる公認会計士として培ってきた独立不羈の精神にもとづき業務を遂行しています。取締役会においては、アカウントビリティの向上や議論の活性化に加え、経営の効率性向上やモニタリング機能向上を図るため、経営活動の適法性や妥当性、そしてタイムリーディスクロージャーなどの観点を意識して意見を述べています。監査等委員会設置会社への移行により権限・監査機能が強化されましたが、社外取締役・監査等委員として、コーポレートガバナンスの実効性を一層向上させ、「Sysmex Way」の実現に向けて積極的に発言していきたいと思っています。

シスメックスは、海外売上高比率の高さやヘマトロジーなどのコアビジネスで高い競争力を持つ一方で、今後は先進医療の進展、医療費抑制政策などヘルスケア市場の経営環境の変化のもと、ネクストコアビジネスの拡大および強化が急務となっています。そのためにはグローバルでのコミュニケーション体制の強化が必要であり、さらなるグローバル人材の確保と育成が課題だと感じています。社外取締役として、人材獲得、育成による変革の推進についても提言していきたいと思っています。

## 執行役員



後列左より：吉田 智一、久保田 守、John Kershaw、長尾 博司、Juergen Schulze、彭 作輝、飯塚 健介  
前列左より：藤本 敬二、神田 博、松井 石根、浜口 行雄、大谷 育男

**松井 石根**  
上席執行役員  
国内事業、海外事業副担当

**神田 博**  
上席執行役員  
コア事業副担当  
ICH事業推進本部長

**浜口 行雄**  
執行役員  
シスメックス国際試薬株式会社社長

**藤本 敬二**  
執行役員  
品質保証・薬事担当

**大谷 育男**  
執行役員  
コア事業副担当

**長尾 博司**  
執行役員  
経営管理本部長

**John Kershaw**  
執行役員  
Chairman, Sysmex America, Inc.  
コア事業副担当

**Juergen Schulze**  
執行役員  
President and CEO,  
Sysmex Europe GmbH

**久保田 守**  
執行役員  
LS事業本部長

**彭 作輝**  
執行役員  
President and CEO,  
Sysmex Shanghai Ltd.

**吉田 智一**  
執行役員  
中央研究所長  
MR推進室長

**飯塚 健介**  
執行役員  
コーポレートスタッフ副担当

## 財務情報等

### 目次

#### 財務情報

連結財務・非財務データ(10期).....	77
経営成績および財務分析.....	79
連結財政状態計算書.....	83
連結損益計算書.....	85
連結包括利益計算書.....	86
連結持分変動計算書.....	87
連結キャッシュ・フロー計算書.....	88

## 連結財務・非財務データ(10期)

日本基準										IFRS		
3月31日に終了した各会計年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	3月31日に終了した各会計年度	2016	2017
会計年度：										会計年度：		
売上高	1,107	1,118	1,161	1,246	1,347	1,455	1,845	2,213	2,531	売上高	2,526	2,498
営業利益	150	151	157	182	192	218	328	444	569	営業利益	607	517
当期純利益 <sup>※1</sup>	91	80	97	114	120	141	205	266	362	親会社の所有者に帰属する当期利益	392	406
設備投資	82	93	45	58	79	89	133	139	138	設備投資	130	118
減価償却費	39	72	70	68	70	79	99	112	122	減価償却費及び償却費	121	123
研究開発費	92	107	112	123	119	121	132	146	177	研究開発費	154	155
営業活動によるキャッシュ・フロー	116	131	212	181	170	258	365	386	395	営業活動によるキャッシュ・フロー	417	328
投資活動によるキャッシュ・フロー	△128	△135	△66	△89	△103	△125	△339	△195	△216	投資活動によるキャッシュ・フロー	△238	△194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13	7	△100	△34	△38	△31	△28	△75	△87	財務活動によるキャッシュ・フロー	△87	△108
会計年度末：										会計年度末：		
総資産	1,090	1,185	1,207	1,300	1,422	1,730	2,107	2,479	2,676	資産合計	2,639	2,798
現金及び現金同等物の期末残高	96	94	138	189	218	343	365	502	564	現金及び現金同等物の期末残高	564	579
純資産	791	798	871	942	1,025	1,191	1,462	1,695	1,880	資本合計	1,828	2,102
有利子負債	10	103	25	19	10	7	19	7	13	有利子負債	13	11
1株当たりデータ：										1株当たりデータ：		
1株当たり純資産 (BPS) (円)	1,540.9	1,548.1	1,684.9	910.6 <sup>※3</sup>	990.5	1,151.3	703.7 <sup>※3</sup>	812.3	899.5	1株当たり親会社所有者帰属持分 (BPS) (円)	879.32	1,005.86
1株当たり当期純利益 (EPS) (円)	178.9	156.7	190.7	111.1 <sup>※3</sup>	116.8	137.5	99.4 <sup>※3</sup>	128.4	174.4	基本的1株当たり当期利益 (EPS) (円)	189.08	195.31
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	178.3	156.4	190.5	110.9 <sup>※3</sup>	116.6	137.0	99.1 <sup>※3</sup>	128.0	173.7	希薄化後1株当たり当期利益 (円)	188.30	194.74
年間配当金 <sup>※2</sup> (円)	12.00	12.50	14.00	15.00 <sup>※3</sup>	17.00	20.00	27.00 <sup>※3</sup>	38.00	52.00	年間配当金 (円)	52.00	58.00
配当性向 (%)	26.8	31.9	29.4	27.0	29.1	29.1	27.1	29.6	29.8	配当性向 (%)	27.5	29.7
その他主要データ：										その他主要データ：		
営業利益率 (%)	13.6	13.5	13.5	14.7	14.3	15.0	17.8	20.1	22.5	売上高営業利益率 (%)	24.0	20.7
海外売上高比率 (%)	67.5	68.0	68.3	69.1	70.5	72.4	78.2	81.7	84.3	海外売上高比率 (%)	84.2	82.6
自己資本比率 (%)	72.2	66.8	71.5	71.9	71.6	68.7	69.2	68.0	69.9	親会社所有者帰属持分比率 (%)	69.3	74.8
自己資本利益率 (ROE) (%)	12.2	10.1	11.8	12.7	12.3	12.8	15.6	17.0	20.4	親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE) (%)	23.1	20.7
総資産当期純利益率 (ROA) <sup>※4</sup> (%)	8.7	7.0	8.2	9.1	8.8	9.0	10.7	11.6	14.1	資産合計当期利益率 (ROA) <sup>※5</sup> (%)	15.5	16.3
従業員数										従業員数		
(パートタイマーなどを含む)	3,916	4,148	4,576	4,957	5,521	5,594	6,211	6,742	7,446	(パートタイマーなどを含む)	7,446	7,930
女性管理職比率 (課長級以上) (%)	—	—	—	—	—	—	10.6	11.6	14.3	女性管理職比率 (課長級以上) (%)	14.3	16.2
事業所温室効果ガス排出量	—	10.08	10.86	9.53	8.65	8.63	7.98	7.28	7.26	事業所温室効果ガス排出量	7.26	7.36
連結売上高原単位 <sup>※6</sup> (t-CO <sub>2</sub> / 億円)										連結売上高原単位 <sup>※6</sup> (t-CO <sub>2</sub> / 億円)		
特許出願件数推移 (件)	350	339	360	424	331	295	302	307	317	特許出願件数推移 (件)	317	344
うち海外 (件) <sup>※7</sup>	195	185	206	283	230	195	205	217	215	うち海外 (件) <sup>※7</sup>	215	234

※1 2016年3月期の数値は「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値

※2 株式分割後ベースに換算した配当金(年間)

※3 株式分割(1:2)

※4 当期純利益/総資産(期中平均)×100

※5 親会社の所有者に帰属する当期利益/資産合計(期中平均)×100

※6 国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外試薬工場

※7 2012年3月期以降は国際特許出願の移行予定国数も合算



## 経営成績および財務分析

シスメックスは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上により、国内外の株主・投資家の皆様の利便性を高めることを目的として、2017年3月期よりIFRSを適用しています。なお、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

### 概況

2017年3月期の世界の経済情勢は、米国では雇用環境の改善が続いており、経済は緩やかに拡大を続けています。一方、欧州でも景気は回復を続けているものの、イギリスのEU離脱に向けた動きが本格化しており、先行きの不透明感は継続しています。また、中国では財政政策や金融緩和が行われていますが、経済成長は緩やかな減速を続けており、アジア・パシフィックでもASEAN諸国を中心に景気の不透明感が継続しています。海外経済は、全体として緩やかに回復を続けていますが、先行きに不透明感が生じています。日本は、個人消費および設備投資に持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかに回復を続けています。

医療面におきましては、欧米先進国では医療費抑制と制度改革に取り組んでおり、米国では無保険者の解消のため導入された医療保険制度改革法に見直しの動きが見られます。中国では都市と農村間の医療サービスの格差解消を目指した医療制度改革は継続されていますが、医療費削減のための政策も実施されるようになってきます。日本では医療およびヘルスケア分野が政府の成長

戦略に含まれており、医療関連産業の活性化が今後も引き続き見込まれています。一部に不安定要素は存在するものの、基本的に医療関連需要は底堅く推移しています。

シスメックスにおきましては、経済成長の著しいミャンマーにおいて、子会社であるシスメックス アジアパシフィックの支店を設立しました。販売代理店および顧客へのサポートの強化を通じて、今後も引き続きミャンマーにおける医療の発展に貢献していきます。

また、シスメックスは2014年に株式会社理研ジェネシスに資本参加し、個別化医療の実現に向けた取り組みを行ってきましたが、同社とのシナジーをより強化するため、同社の株式を追加取得し子会社化しました。シスメックスと株式会社理研ジェネシスは、遺伝子解析検査による個別化医療の実現に向け、研究開発および事業展開に取り組んでいきます。

このような状況下のもと、当期の売上高は2,498億円(前期比1.1%減)、営業利益は517億円(前期比14.9%減)、税引前利益は489億円(前期比15.3%減)となりましたが、日独租税協定の改正にともない繰延税金負債を取崩し、

法人所得税費用が減少したことなどにより、親会社の所有者に帰属する当期利益は406億円(前期比3.5%増)となりました。また、ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率)は20.7%(前期比2.4ポイント減)となりました。

### 地域別売上高<sup>※1</sup>

海外販売につきましては、ヘマトロジー分野、血液凝固分野および免疫分野において、機器設置台数の増加にともない試薬の売上が伸長し、各国現地通貨ベースでは堅調に推移しました。しかしながら、主に為替相場が円高に推移したことが影響し、海外売上高は2,064億円(前期比3.0%減)、構成比82.6%(前期比1.6ポイント減)となりました。海外の地域別売上高は、米州が601億円(前期比1.6%増)、EMEA<sup>※2</sup>が646億円(前期比5.3%減)、中国が603億円(前期比7.4%減)、アジア・パシフィックが212億円(前期比5.9%増)となりました。

日本では、ヘマトロジー分野に加え、血液凝固分野および免疫分野において売上が増加しました。その結果、日本の売上高は434億円(前期比9.1%増)となりました。

※1 地域別売上高は、該当地域に属する顧客に対してシスメックスグループが販売した金額を指します。所在地別売上高は、シスメックスグループのうち該当地域に属する企業群が販売した金額を指します。

※2 EMEA：欧州、中東、アフリカ

### 収益の概況

#### 売上原価および販売費及び一般管理費

売上原価は、前期比61億円増加(6.1%増)の1,081億円となりました。また、売上原価率は43.3%(前期比3.0ポイント増)となりました。

販売費及び一般管理費は、販売・サービス&サポート体制の強化などにより、前期比8億円増加(1.1%増)し754億円となりました。また、売上高に対する比率は前期の29.5%から30.2%へと0.7ポイント上昇しました。

#### 利益

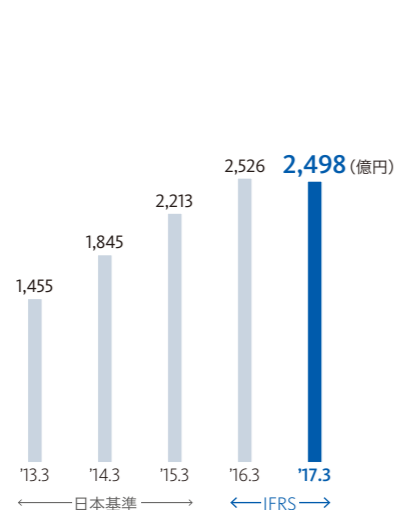
営業利益は、円高の影響および原価率悪化などにより、前期比90億円減少(14.9%減)の517億円となり、当期の売上高営業利益率は、20.7%(前期比3.3ポイント減)となりました。なお、為替の影響は、前期と比較して111億円の減益要因となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、日独租税協定の改正にともない繰延税金負債を取崩し、法人所得税費用が減少したことなどにより、前期比13億円増加(3.5%増)の406億円となりました。

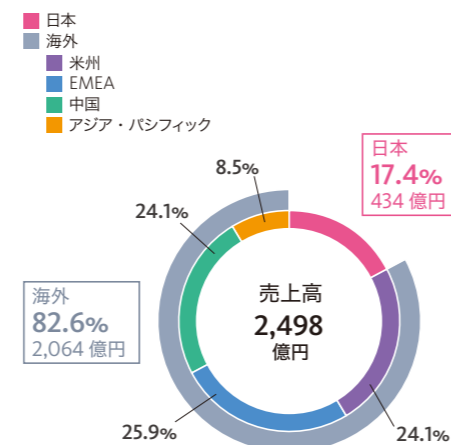
#### 研究開発費

商品ポートフォリオ充実のための新商品の開発とともに、臨床検査分野およびライフサイエンス分野を中心に

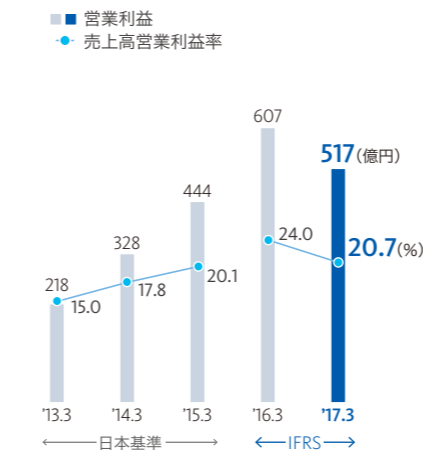
■ 売上高



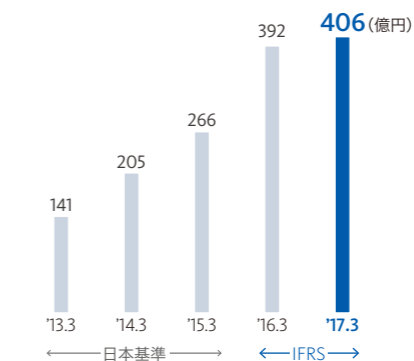
■ 地域別売上高構成比



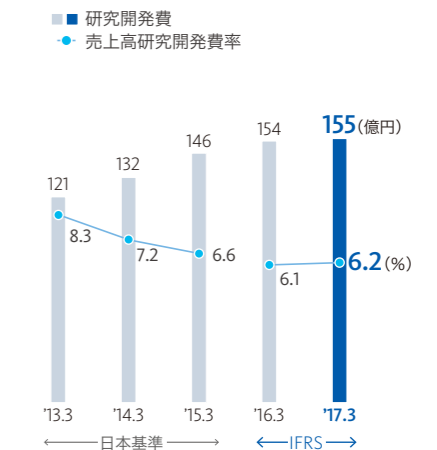
■ 営業利益  
売上高営業利益率



■ 親会社の所有者に帰属する  
当期利益  
(日本基準では親会社株主に帰属する  
当期純利益)



■ 研究開発費  
売上高研究開発費率



## 経営成績及び財務分析

研究開発を推進した結果、研究開発費の総額は、前期比1億円増加(0.9%増)の155億円となりました。また、売上高に対する比率は、前期の6.1%から6.2%へと0.1ポイント上昇しました。

### 株主還元

シスメックスは、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上にともなう株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しています。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

また、シスメックスは中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としています。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会です。

当期の配当につきましては、上記の基本方針および当期の業績を勘案のうえ、1株につき58円の配当(うち中間配当28円)を実施することを決定しました。この結果、2016年3月期に対し、年間6円の増配となりました。これにより15期連続の増配となり、配当性向は連結で29.7%となりました。

内部留保金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、競争力の高い製品開発やグローバルな事業戦略の展開を図るために有効投資してまいります。

### 流動性および資金の源泉

#### 資金調達

運転資金は必要に応じて短期銀行借入などで調達しています。各連結子会社については、運転資金確保のために必要に応じて銀行借入を行っていますが、国内の子会社については、2003年10月より当社と各社との資金決済にCMS(キャッシュ・マネジメント・システム)を導入し、資金の調達・運用を一元化して効率化を図っています。

設備投資などの長期資金需要に関しては、投資回収期間とリスクを勘案したうえで調達方法を決定しています。なお、当期は設備投資および研究開発活動などの資金について、主に営業活動の結果得られた資金を充当しています。

#### 財政状態の概況

当期末の資産合計は、前期末と比べて158億円増加し、2,798億円となりました。この主な要因は、営業債権及びその他の債権(流動資産)が54億円増加したこと、無形資産が45億円増加したこと、営業債権及びその他の債権(非流動資産)が23億円増加したこと、棚卸資産が13億円増加したこと、のれんが13億円増加したことなどによるものです。

一方、負債合計は、前期末と比べて115億円減少し、695億円となりました。この主な要因は、前受金が40億円減少したこと、繰延税金負債が38億円減少したこと、未払法人所得税が35億円減少したことなどによるものです。

資本合計は、前期末と比べて274億円増加し、2,102億

円となりました。この主な要因は、その他の資本の構成要素が34億円減少しましたが、利益剰余金が291億円増加したことなどによるものです。また、親会社所有者帰属持分比率は前期末の69.3%から5.5ポイント増加して74.8%となりました。

#### キャッシュ・フローの概況

当期末の現金及び現金同等物(以下、資金)は、前期末より14億円増加し、579億円となりました。当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、328億円(前期比89億円減)となりました。この主な要因は、税引前利益が489億円(前期比88億円減)、棚卸資産の増加額が21億円(前期比46億円減)、営業債務の減少額が24億円(前期は41億円の増加)、前受金の減少額が36億円(前期は6億円の増加)、法人所得税の支払額が162億円(前期比33億円減)となったことなどによるものです。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、194億円(前期比44億円減)となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出が116億円(前期比20億円減)、無形資産の取得による支出が74億円(前期比9億円減)、

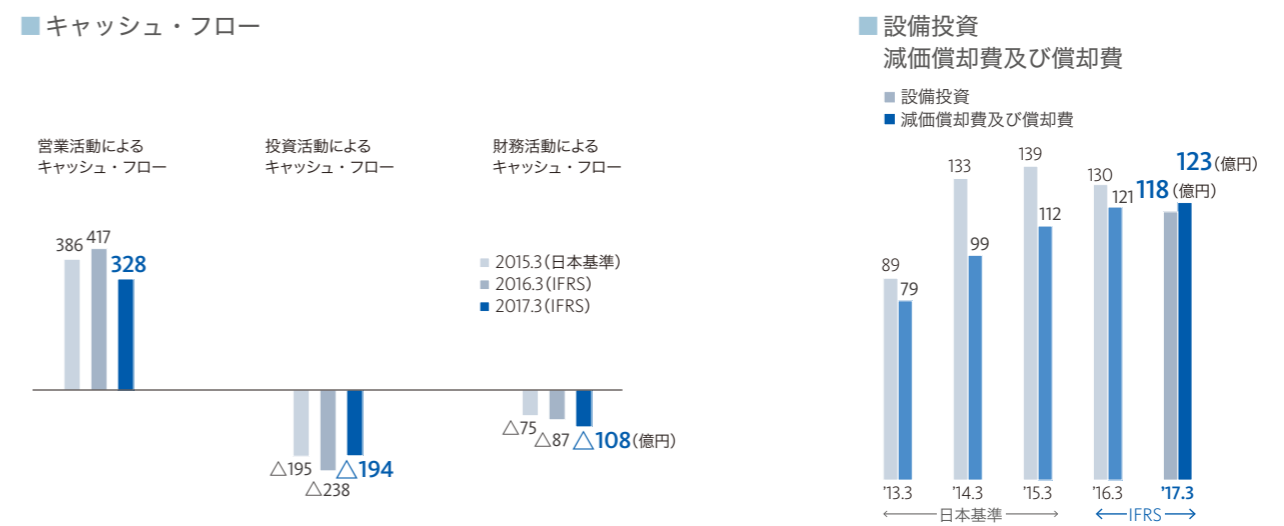
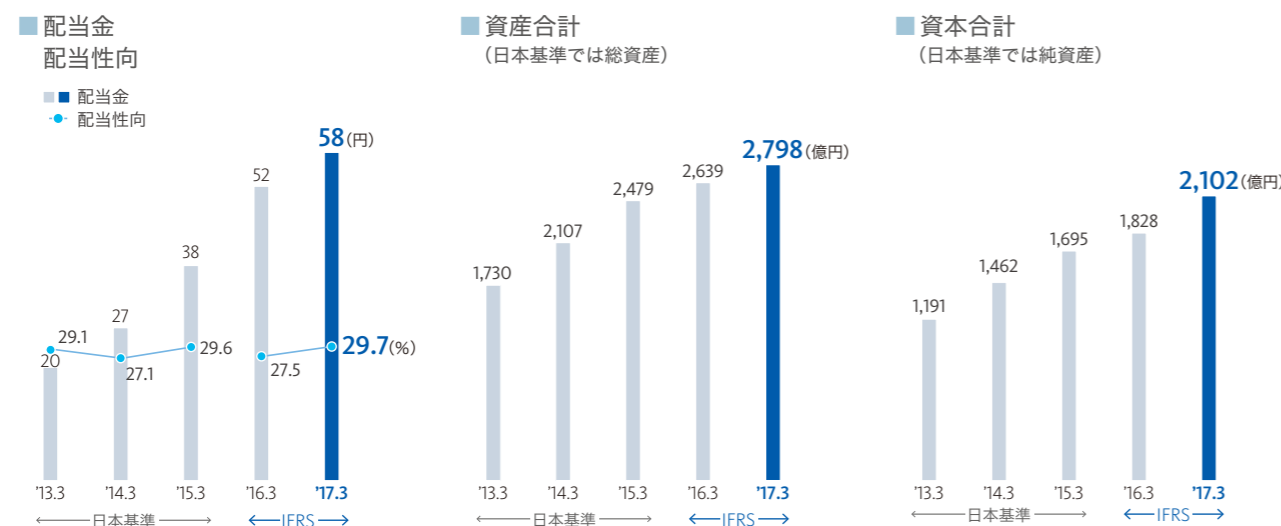
子会社又はその他の事業の取得による支出が14億円(前期比10億円増)となったことおよび前期にはなかった短期貸付金の純減少額が19億円あったことなどによるものです。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、108億円(前期比21億円増)となりました。この主な要因は、配当金の支払額が116億円(前期比20億円増)となったことなどによるものです。

#### 設備投資および減価償却

設備投資(建設仮勘定を含む有形固定資産への投資)は、前期比12億円減少(9.2%減)の118億円となりました。設備投資の主な内容は、海外市場での事業拡大にともない、海外子会社において、検体検査試薬の生産量拡大のために試薬生産工場の拡張を行ったことに加えて、顧客貸与用機器の取得を行ったためです。また、減価償却費及び償却費は、前期比2億円増加(2.2%増)の123億円となりました。



## 連結財政状態計算書

当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
これにともない、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

(単位：百万円)

	2016年3月期末	2017年3月期末
<b>資産</b>		
流動資産		
現金及び現金同等物	56,481	57,944
営業債権及びその他の債権	57,652	63,084
棚卸資産	35,604	36,998
その他の短期金融資産	615	528
未収法人所得税	453	457
その他の流動資産	7,450	7,303
流動資産合計	158,258	166,318
非流動資産		
有形固定資産	59,282	60,144
のれん	6,921	8,308
無形資産	16,682	21,228
持分法で会計処理されている投資	2,089	552
営業債権及びその他の債権	6,476	8,813
その他の長期金融資産	6,010	6,107
退職給付に係る資産	582	666
その他の非流動資産	1,928	2,095
繰延税金資産	5,684	5,581
非流動資産合計	105,659	113,499
資産合計	263,917	279,817

(単位：百万円)

	2016年3月期末	2017年3月期末
<b>負債及び資本</b>		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	26,824	24,376
その他の短期金融負債	788	956
未払法人所得税	6,511	2,915
引当金	554	610
前受金	10,431	6,418
未払費用	6,864	8,330
未払賞与	6,538	6,636
その他の流動負債	9,383	9,708
流動負債合計	67,896	59,952
非流動負債		
長期金融負債	734	549
退職給付に係る負債	566	654
引当金	2,341	2,318
その他の非流動負債	3,192	3,527
繰延税金負債	6,384	2,562
非流動負債合計	13,219	9,612
負債合計	81,116	69,564
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	11,016	11,611
資本剰余金	16,969	17,303
利益剰余金	159,375	188,506
自己株式	△285	△289
その他の資本の構成要素	△4,275	△7,725
親会社の所有者に帰属する持分合計	182,800	209,406
非支配持分	0	845
資本合計	182,801	210,252
負債及び資本合計	263,917	279,817

## 連結損益計算書

当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
これにともない、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

	(単位：百万円)	
	2016年3月期	2017年3月期
売上高	252,622	249,899
売上原価	101,932	108,122
売上総利益	150,689	141,777
販売費及び一般管理費	74,571	75,401
研究開発費	15,409	15,554
その他の営業収益	610	1,277
その他の営業費用	588	397
営業利益	60,729	51,701
金融収益	382	514
金融費用	96	372
持分法による投資損益(△は損失)	△465	△677
為替差損益(△は損失)	△2,741	△2,218
税引前利益	57,809	48,946
法人所得税費用	18,530	8,493
当期利益	39,278	40,453
当期利益の帰属		
親会社の所有者	39,278	40,636
非支配持分	△0	△182
当期利益	39,278	40,453

	(単位：円)	
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益	189.08	195.31
希薄化後1株当たり当期利益	188.30	194.74

## 連結包括利益計算書

当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
これにともない、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

	(単位：百万円)	
	2016年3月期	2017年3月期
当期利益	39,278	40,453
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	△430	158
確定給付負債(資産)の再測定	△536	139
純損益に振り替えられることのない項目合計	△967	298
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△5,091	△3,606
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分	—	△0
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△5,091	△3,607
その他の包括利益	△6,059	△3,309
当期包括利益	33,219	37,144
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	33,219	37,327
非支配持分	△0	△182
当期包括利益	33,219	37,144

## 連結持分変動計算書

当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
これにともない、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

(単位：百万円)

2016年3月期	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	合計		
2015年4月1日残高	10,483	16,340	130,183	△280	1,246	157,972	0	157,973
当期利益			39,278			39,278	△0	39,278
その他の包括利益					△6,058	△6,058	△0	△6,059
当期包括利益	—	—	39,278	—	△6,058	33,219	△0	33,219
新株の発行 (新株予約権の行使)	533	316				849		849
株式報酬取引		312				312		312
配当金			△9,549			△9,549		△9,549
自己株式の取得				△4		△4		△4
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替			△536		536	—		—
企業結合による変動						—	—	—
非支配株主との資本取引		—				—	—	—
所有者との取引額合計	533	628	△10,086	△4	536	△8,391	—	△8,391
2016年3月31日残高	11,016	16,969	159,375	△285	△4,275	182,800	0	182,801

(単位：百万円)

2017年3月期	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	合計		
2016年4月1日残高	11,016	16,969	159,375	△285	△4,275	182,800	0	182,801
当期利益			40,636			40,636	△182	40,453
その他の包括利益					△3,309	△3,309	△0	△3,309
当期包括利益	—	—	40,636	—	△3,309	37,327	△182	37,144
新株の発行 (新株予約権の行使)	594	333				928		928
株式報酬取引		—				—		—
配当金			△11,646			△11,646		△11,646
自己株式の取得				△3		△3		△3
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替			141		△141	—		—
企業結合による変動						—	1,028	1,028
非支配株主との資本取引		0				0	△0	—
所有者との取引額合計	594	334	△11,505	△3	△141	△10,721	1,028	△9,692
2017年3月31日残高	11,611	17,303	188,506	△289	△7,725	209,406	845	210,252

## 連結キャッシュ・フロー計算書

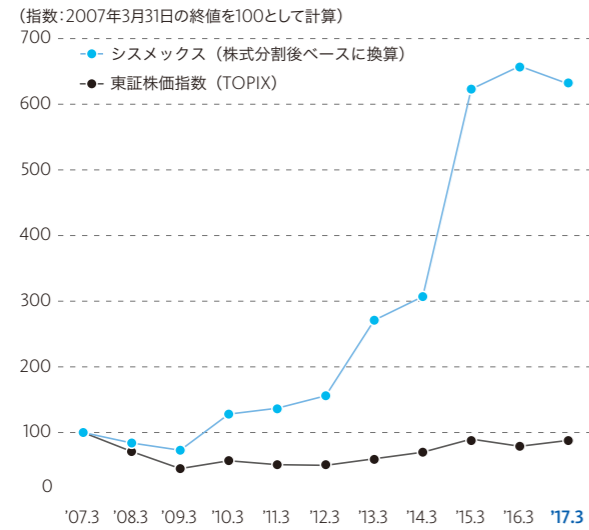
当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
これにともない、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

(単位：百万円)

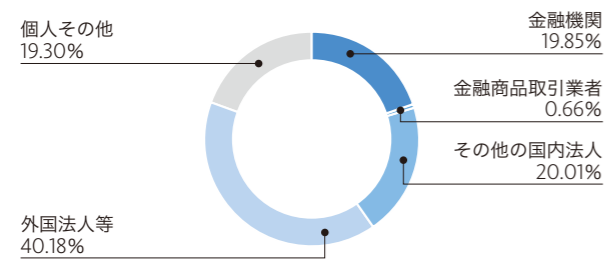
	2016年3月期	2017年3月期
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前利益	57,809	48,946
減価償却費及び償却費	12,110	12,381
受取利息及び受取配当金	△335	△425
支払利息	46	104
持分法による投資損益(△は益)	465	677
営業債権の増減額(△は増加)	△5,476	△6,368
棚卸資産の増減額(△は増加)	△6,775	△2,104
営業債務の増減額(△は減少)	4,145	△2,483
未払又は未収消費税等の増減額	△903	817
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△418	117
前受金の増減額(△は減少)	687	△3,635
未払賞与の増減額(△は減少)	577	107
その他	△884	634
小計	61,047	48,770
利息及び配当金の受取額	356	415
利息の支払額	△31	△85
法人所得税の支払額	△19,578	△16,268
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,794	32,832
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△13,685	△11,682
有形固定資産の売却による収入	107	200
無形資産の取得による支出	△8,399	△7,424
資本性金融商品の取得による支出	△633	△632
子会社又はその他の事業の取得による支出	△403	△1,453
短期貸付金の純増減額(△は増加)	—	1,930
その他	△836	△338
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,850	△19,400
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	849	928
配当金の支払額	△9,549	△11,646
その他	△55	△148
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,755	△10,866
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,320	△1,102
現金及び現金同等物の純増減額(△は減少)	6,868	1,462
現金及び現金同等物の期首残高	49,613	56,481
現金及び現金同等物の期末残高	56,481	57,944

## 株式情報 (2017年3月31日時点)

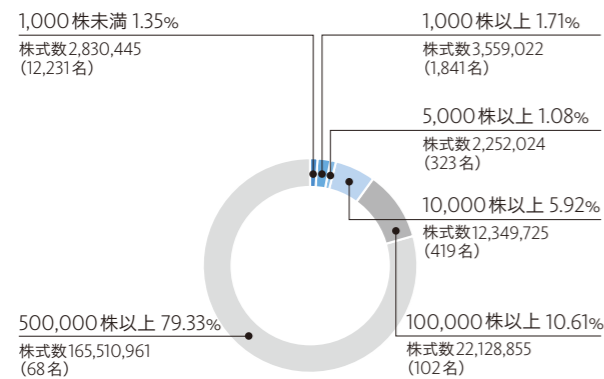
### ■ 株価



### ■ 所有者別分布状況



### ■ 所有数別分布状況

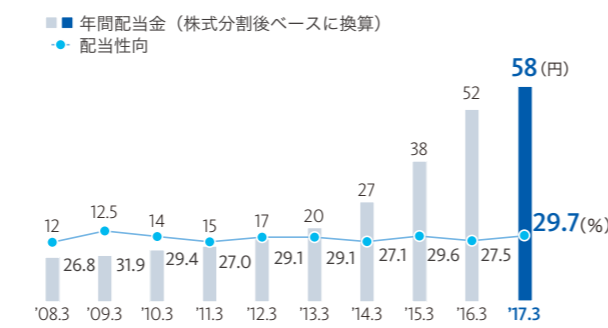


### ■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	22,762	10.9
ジェイピー・モルガン・チェース 380055	16,091	7.7
公益財団法人神戸やまぶき財団	12,000	5.8
公益財団法人中谷医工計測技術振興財団	11,830	5.7
有限会社中谷興産	10,457	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	8,395	4.0
家次和子	6,124	2.9
和田妙子	6,124	2.9
井谷憲次	5,000	2.4
ルソール株式会社	4,750	2.3

(注) 持株比率は自己株式(444,556株)を控除して計算しています。

### ■ 年間配当金/配当性向 (連結)



(注) 2011年および2014年4月1日付け: 株式分割 (1:2)

## 会社情報 (2017年3月31日時点)

### シスメックス株式会社

設立	1968年2月20日
本社所在地	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
お問い合わせ先	IR・広報部 Tel: 078-265-0500
Webサイト	当社に関する詳細・最新情報はWebサイトをご覧ください。 ホームページ <a href="http://www.sysmex.co.jp/">http://www.sysmex.co.jp/</a> IR情報 <a href="http://www.sysmex.co.jp/ir/">http://www.sysmex.co.jp/ir/</a> CSR情報(企業の社会的責任) <a href="http://www.sysmex.co.jp/csr/">http://www.sysmex.co.jp/csr/</a>
従業員数	7,930名(連結) (嘱託およびパートタイマーなどを含む)
決算期	3月31日
定時株主総会	6月
会社が発行する株式の総数	598,688,000株
発行済株式総数	208,631,032株
資本金	116億1,186万円
上場市場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	6869
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ
格付	A+ 格付投資情報センター (R&I)
主な採用インデックス	Dow Jones Sustainability World Index Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index Ethibel Pioneer & Excellence FTSE4Good Index FTSEブロッサムジャパン Index※ JPX日経インデックス400 MSCI Standard Index MSCI ESG Leaders Indexes MSCI SRI Indexes MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ※ MSCI日本株女性活躍指数(WIN)※ S&P Japan 500 ※2017年7月より採用

